

斐伊川放水路建設予定地内  
埋蔵文化財発掘調査報告書XVII

# 古志本郷遺跡Ⅵ

— K区の調査 —

(本文編・第1分冊)

2003年3月

国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所  
島根県教育委員会

斐伊川放水路建設予定地内  
埋蔵文化財発掘調査報告書XVII

# 古志本郷遺跡 VI

— K区の調査 —

(本文編・第1分冊)

2003年3月

国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所  
島根県教育委員会

## 序

国土交通省出雲工事事務所では、斐伊川・神戸川流域の抜本的な治水対策として斐伊川放水路事業を推進しています。

事業の実施に際しては、埋蔵文化財の保護にも十分に留意しつつ関係諸機関と協議しながら進めていますが、避けることができない埋蔵文化財については、事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。

当事務所では、放水路の早期完成を目指して、島根県教育委員会の御協力のもとに、平成3年度から12年間にわたり発掘調査を行ってまいりましたが、今年度の本報告書の作成をもちまして終了することとなりました。この間には、数多くの貴重な遺跡や遺物が発見され、先人の技術の高さや努力の跡を目の当たりにすることができました。これらの調査成果が、郷土の歴史教育や地域活動などに広く活用されることを願うと共に、埋蔵文化財に対するより一層の関心と御理解を得るための資料としてお役立ていただければ幸いに思います。

最後に、今回の発掘調査及び本書の編集にあたり、御指導・御協力いただきました島根県教育委員会ならびに関係各位に対し心から御礼申し上げます。

平成15年3月

国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所

所長 船橋昇治

## 序

島根県教育委員会では、建設省中国地方建設局（現 国土交通省中国地方整備局）からの委託を受け、平成3年度から斐伊川放水路建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施してまいりましたが、今年度の調査報告書の刊行をもって終了する運びとなりました。本書は、このうち平成11～12年度に発掘調査を行った古志本郷遺跡K区の成果をまとめたものです。

斐伊川・神戸川の二大河川が流れる出雲市周辺は、古くから栄えた地域であり、数多くの歴史的・文化遺産が残っています。今回の調査では、古墳時代前期の多量の土器が出土した溝跡を発見した他、弥生時代から近世に至る数多くの出土品から人々の営みの痕跡を明らかにすることができました。これらの調査成果は、この地域の歴史を解明していく上で貴重な資料となるものと考えられます。本書が地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の刊行にあたり御協力いただきました地元の皆様、国土交通省出雲工事事務所、出雲市教育委員会をはじめ、関係の方々に対して心からお礼申し上げます。

平成15年3月

島根県教育委員会

教育長 広 沢 卓 嗣

# 例 言

1 本書は、建設省中国地方建設局（現国土交通省中国整備局）の委託を受けて、島根県教育委員会が1999（平成11）年度および2000（平成12）年度に実施した、斐伊川放水路予定地内埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2 本書で報告する遺跡は、島根県出雲市古志町1722-1外所在古志本郷遺跡（K区）である。

3 本書は、3冊に分冊されており、本巻はこのうちの本文編・1分冊である。以下の分冊には表紙のみに記す。

4 現地調査・報告書作成作業の組織は次のとおりである。

調査主体 島根県教育委員会

1999（平成11）年度現地調査

事務局 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 穴道正年（所長）、秋山 実（総務課長）、松本岩雄（調査課長）、今岡 宏（総務係長）

調査員 内田律雄（同主幹）、持田和男（同教諭兼文化財保護主事）、守岡利栄（同文化財保護主事）、阿部智子（同臨時職員）、勝部幸治（同講師兼主事）、岩崎裕介（同臨時職員）

2000（平成12）年度現地調査および報告書作成作業

事務局 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 穴道正年（所長）、内田 融（総務課長）、松本岩雄（調査課長）、今岡 宏（総務係長）

調査員 内田律雄（同主幹）、吾郷博昭（同教諭兼文化財保護主事）、守岡利栄（同文化財保護主事）、阿部智子（同臨時職員）

2001（平成13）年度 報告書作成作業

事務局 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 穴道正年（所長）、内田 融（総務課長）、川原和人（調査第2課長）、今岡 宏（総務係主幹）

調査員 萩 雅人（同第6係長）、石倉康民（同教諭兼文化財保護主事）、守岡利栄（同文化財保護主事）、阿部智子（同臨時職員）、松山智弘（同臨時職員）

2002（平成14）年度 報告書作成作業

事務局 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 穴道正年（所長）、卜部吉博（副所長）、内田 融（総務課長）、川原和人（調査第2課長）、坂本淑子（総務係主幹）

調査員 萩 雅人（同主幹）、浅野 哲（同教諭兼文化財保護主事）、守岡利栄（同文化財保護主事）、福田市子（同臨時職員）

5 現地調査にあたっては、随時調査指導会を行い、次の方々から有益な御指導・御助言を頂いた。（敬称略、五十音順、役職省略）

安藤広道（東京国立博物館研究員）、長谷川博史（広島大学助手）、古賀信幸（山口市教育委員会）、次山 淳（奈良文化財研究所主任調査官）、高橋美久二（滋賀県立大学助教授）、大本雅康（長崎外国語短期大学助教授）、下条信行（愛媛大学教授）、田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）、蓮岡法暁（同）、中村唯史（島根県立三瓶自然館指導員）、牛嶋 茂（奈良文化財研究所技官）、

穴沢義巧(たたら研究会委員)、村上恭通(愛媛大学助教授)、佐古和枝(関西外国語大学助教授)、藤田憲司(大阪府教育委員会)

- 6 現地調査・報告書作成作業にあたっては次の機関・方々からも御助言・御協力を頂いた。(敬称略)

出雲市教育委員会、出雲市古志公民館、常松幹雄(福岡市教育委員会)、加藤良彦(同)、久住猛雄(同)、深沢芳樹(奈良文化財研究所)、金田明大(同)、大日向克己(島根大学)、渡邊貞幸(同)、物部茂樹(岡山県古代古備文化財センター)、米田克彦(同)、寺井誠((財)大阪市文化財協会)、中敬徹(釜山大学校)、三原一将(出雲市教育委員会)、米田恵美子(同)、岡山薫(同)、藤永照隆(同)、坂本豊治(同)、田崎博之(愛媛大学)、梅木謙一(松山市生涯学習財団)

- 7 発掘作業は、島根県教育委員会から(社)中国建設弘済会島根支部に委託した。

- 8 遺物整理作業員には次の者があつた。

阿部春枝、飯塚真人、池田智恵、伊藤明子、糸原幸子、井原智子、坂根喜世美、坂本美恵、須山啓子、高橋光輝、田中裕貴、内藤洋子、中島直美、成相真理子、原芳美、藤原美奈子、横野喜久恵、大津文子、井上美由紀、岩橋康子、景山光子、川津史、加藤往子、来海順子、間野綾子、陶山仕代、永瀬和美、野中洋子、秦愛子、矢内敏江、吉田典子

- 9 本報告書の第2図は国土地理院発行の1/25,000地形図「神原」「出雲今市」「大社」「神西湖」(いずれも平成13年)を使用し作成した。第3図は出雲市都市計画図1/2,500を使用し作成した。第4図、第5図は建設省出雲工事事務所作成の斐伊川放水路予定地測量図1/1,000を使用し作成した。他の遺構図・遺構配置図は調査員が作成した。

- 10 遺構・遺物の実測は上記の調査員・内業作業員の他、石田為成(島根大学学生)、厚見崇(島根大学学生)、平石充、糸賀五月、後藤達夫、渡邊真二(以上埋文センター職員・臨時職員)が行った。浄書は内業作業員が行った。

- 11 遺物の分類・観察は、S D21~23、S D21、S D23、S D31、S D38については主に松山が行い、萩・守岡が補助した。他については主に守岡が行った。

- 12 遺構の写真撮影は一部を牛嶋茂氏が行い、他は調査員が行った。航空写真は国際航業株式会社撮影のものを使用した。遺物の写真撮影は、一部を牛嶋茂氏の指導のもと西大寺フォト杉本幹男氏に委託し、その他を守岡が行った。

- 13 本書の執筆は、第6章の一部を除き守岡が行った。第6章には原稿を御執筆いただき掲載した。守岡以外の執筆原稿については目次に執筆者名を記した。

- 14 本書の編集は、島根県埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て守岡が行った。

- 15 出土遺物及び実測図、写真等の記録は、松江市打出町33番地 島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管し活用している。

#### 〔凡 例〕

- 1 本書で使用する遺構略号は現地調査時の略号を変更せずに使用しているため、欠番や、略号とは性格が異なる遺構が存在する。詳細は第3表を参考にされたい。

- 2 挿図中の北は、測量法による第3座標系X軸方向を指し、平面直角座標系XY座標は日本測地系によった。レベルは海拔高を示す。

- 3 挿図の縮尺は、図中に記した。
- 4 遺物観察表は各巻末にまとめて掲載した。
- 5 目次は、本文編第1分冊に全目次を掲載し、本文編第2分冊および写真図版編には各巻次のみの目次を添付した。
- 6 本書では遺構・遺物の年代については、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代（南北朝期含む）、室町時代（戦国期含む）、江戸時代と表現した。弥生時代については前期・中期・後期・終末期と細分し、古墳時代は前期・中期・後期・終末期と細分した。他、必要に応じてさらに前葉・中葉・後葉などの細分や古代・中世といった区分も用いた。土器編年との対応など、詳細は本巻末付表に掲載している。参考にされたい。

# 本文目次

## (第1分冊)

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 位置と歴史的環境	5
第3章 調査の経過	10
第4章 調査の概要	16
第5章 調査の結果	20
1節 基本層序	20
2節 包含層出土遺物	20
3節 竪穴建物跡	24
4節 掘立柱建物跡・柵跡	49
5節 井戸跡	61
6節 土坑・ピット・その他の性格不明遺構	71
付表 遺物観察表(第1分冊掲載遺物)	89~109

## (第2分冊)

7節 弥生時代から古墳時代前期の大溝状遺構	1
8節 その他の溝状遺構	169
第6章 各論	183
1節 鍛冶関連遺物の調査	183
2節 古志本郷遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査(大澤正己)	194
3節 三輪系土器について	207
4節 尚根原古志本郷遺跡から出土した三稜線自然科学的研究(平尾良光・鈴木浩子)	211
5節 古志本郷遺跡K区における自然科学分析(既報)(渡辺正巳)	217
6節 古志本郷遺跡K区出土罌書土器について(平石充)	230
第7章 まとめ	231
付表 遺物観察表(第2分冊掲載遺物)	243

## 挿図目次 (第1分冊)

第1図	調査地の位置	5	第37図	S B01遺構図および遺物出土状況 (S=1/120)	52
第2図	出雲平野の主な遺跡 (S=1/100,000)	9	第38図	S B01出土遺物 (S=1/3)	53
第3図	既往の研究地と主な成果 (S=1/5,000)	12	第39図	S B02、S B03遺構図 (S=1/120)	53
第4図	K区トレンチ配置図 (S=1/2,000)	13		および出土遺物 (S=1/3)	53
第5図	K区調査区配置図		第40図	S B04遺構図および遺物出土状況 (S=1/80)	54
	およびグリッド配置図 (S=1/2,000)	14			54
第6図	K区遺構配置図 (S=1/1,000)	16	第41図	S B04出土遺物 (S=1/3)	55
第7図	K I区-K 2区調査区境界土層図 (S=1/120)	20	第42図	S B05遺構図 (S=1/60)	55
		20	第43図	S B10、S A01遺構図	
第8図	K区包含層出土遺物1 (S=1/3)	21		および遺物出土状況 (S=1/80)	56
第9図	K区包含層出土遺物2 (S=1/3)	22	第44図	S B10、S A01北東隅土器溜まり	
第10図	K区包含層出土遺物3 (S=1/3)	23		出土状況 (S=1/20)	57
第11図	K区竪穴建物跡配置図 (S=1/1,000)	27	第45図	S B10、S A01北東隅土器溜まり	
第12図	S I01、S X01、S K02遺構図 (S=1/60、 S X01のみS=1/30)および出土遺物 (S=1/3)	28		出土遺物1 (S=1/3)	57
		28	第46図	S B10、S A01北東隅土器溜まり	
第13図	S I03遺構図 (S=1/60)			出土遺物2 (S=1/3)	58
	および出土遺物 (S=1/3)	29	第47図	S B10、S A01出土遺物 (S=1/3)	59
第14図	S I07遺構図① (S=1/60)	30	第48図	S B11、S X07、S X11遺構図 (S=1/80)	
第15図	S I07遺構図② (S=1/60)	31		および出土遺物 (S=1/3)	60
第16図	S I07遺物出土状況 (S=1/80)	32	第49図	K区井戸跡配置図 (S=1/1,000)	62
第17図	S I07出土遺物1 (S=1/3)	33	第50図	S E01遺構図 (S=1/60)	63
第18図	S I07出土遺物2 (S=1/3)	34	第51図	S E01遺物出土状況 (S=1/80)	
第19図	S I08出土遺物 (S=1/3)	34		および出土遺物 (S=1/3)	64
第20図	S I08遺構図 (S=1/60)	35	第52図	S F02遺構図 (S=1/60)	
第21図	S I09、S I10 完掘平面図 (S=1/60)	36		および出土遺物 (S=1/3)	65
第22図	S I09遺構図 (S=1/60)	37	第53図	S E03・04出土遺物 (S=1/3)	66
第23図	S I09貼床下層検出遺構図 (S=1/60)	38	第54図	S X16遺構図 (S=1/60)	66
第24図	S I09遺物出土状況 (S=1/80)	39	第55図	S X16遺物出土状況 (S=1/60)	
第25図	S I09出土遺物1 (S=1/3)	40		および出土遺物 (S=1/3)	67
第26図	S I09出土遺物2 (S=1/3)	41	第56図	S X19遺構図 (S=1/60)	68
第27図	S I09出土遺物3 (S=1/3)	42	第57図	S X19遺物出土状況 (S=1/60)	
第28図	S I10遺構図① (S=1/60)	43		および出土遺物 (S=1/3)	69
第29図	S I10遺構図② (S=1/60)	44	第58図	S K27遺構図 (S=1/60)	
第30図	S I10出土遺物 (S=1/3)	44		および出土遺物 (S=1/3)	70
第31図	S X17遺構図① (S=1/60)	45	第59図	K区十坑・ビット・性格不明遺構・ 土器溜まり配置図 (S=1/1,000)	74
第32図	S X17遺構図② (S=1/60)	46	第60図	S K01、02、03、04、05、06、07、08遺構図 (S=1/60)	75
第33図	S X17遺物出土状況 (S=1/80)	47	第61図	S K03、04、05出土遺物 (S=1/3)	76
第34図	S X17出土遺物1 (S=1/3)	47			
第35図	S X17出土遺物2 (S=1/3)	48			
第36図	K区孤立柱建物跡配置図 (S=1/1,000)	51			

第62図	S K11遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3) .....	76	第68図	S X06出土遺物1 (S=1/3) .....	82
第63図	S K19遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3) .....	77	第69図	S X06出土遺物2 (S=1/3) .....	83
第64図	S K23、24、25、26、28、29、30、31、32、33、34遺構図 (S=1/60) .....	78	第70図	S X06出土遺物3 (S=1/3) .....	84
第65図	S K35、36、37、38、41、42遺構図 (S=1/60) およびS K23、25、29、36、38出土遺物 (S=1/3) .....	79	第71図	S X06下層土器溜まり (土器溜まり4) 出土遺物 (S=1/3) .....	84
第66図	P339~404遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3ただし13~16、20はS=1/4) .....	80	第72図	S X07、08、11、14、15遺構図 (S=1/60) およびS X08、14、15出土遺物 (S=1/3) .....	85
第67図	S X06遺構図および遺物出土状況 (S=1/60) .....	81	第73図	S X09、10遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3) .....	86
			第74図	S X12・18遺構図および出土遺物 (S=1/60) .....	87
			第75図	S X21遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3) .....	88

## 表目次 (第1分冊)

第1表	斐伊川放水路予定地内埋蔵文化財発掘調査一覧表 .....	2~3	第6表	古志本郷遺跡K区検出井戸跡一覧 .....	63
第2表	古志本郷遺跡の調査歴と内容 .....	11	第7表	古志本郷遺跡K区検出土坑・ピット・その他の性格不明遺構一覧 .....	73
第3表	古志本郷遺跡K区検出遺構一覧 .....	17	付表1	遺物観察表 .....	89~109
第4表	古志本郷遺跡K区検出竪穴建物跡一覧 .....	26			
第5表	古志本郷遺跡K区検出掘立柱建物跡・欄干一覧 .....	51			

## 第1章 調査に至る経緯

斐伊川は、中国地方山間部に源を發し、出雲平野を流れて宍道湖に注ぐ流域面積2,070㎡と出雲西部地域を代表する河川である。古来から流域を潤す恵みの川であったと同時に、甚大な被害をもたらす洪水を重ねて引き起こす暴れ川でもあった。近年では、昭和47年の豪雨によって斐伊川・神戸川の両河川は破壊寸前に陥り、また、宍道湖の増水により松江市をはじめとする約70km<sup>2</sup>が一週間にわたり浸水するという大規模な水害を引き起こした。このため、斐伊川・神戸川の抜本的な治水計画を樹立するため、両水系を一体化した高水処理計画が立てられた。

斐伊川放水路事業は、斐伊川の計画高水流量の一部を中流左岸の出雲市大津町来原付近から新たに放水路を開削して分流し、出雲市塩冶町半分付近において神戸川に合流させるものである。また、それにより神戸川下流域は神戸川の自己流量と斐伊川からの分流量を併せた計画水流量を持つ斐伊川放水路として、必要な掘削・築堤工事を行おうとする事業である。その規模は、開削部4.1km、拡幅部9.0kmで、全長13.1kmに及ぶ。この計画は、斐伊川流水の一部を早く、しかも安全に日本海へ流すことを目的としたもので、島根県が昭和44年に基本構想を發表、同50年に基本計画を策定し、建設省（現国土交通省）が同51年に確定したものである。ルートは同54年に最終決定された。

こうした事業計画の推移・決定のなか、島根県教育委員会は昭和50年度に、島根県企画部の委託を受けて、分流地域の分布調査を実施し、その結果を昭和53年3月に『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財分布調査報告』としてまとめて報告した。また、昭和53年・54年度には建設省出雲工事事務所（現国土交通省中国地方整備局）から委託を受けて、上塩冶町を中心とする出雲市全域と簸川郡大社町に所在する遺跡を対象としながら一部発掘調査を含む分布調査を行い、この結果をもとに、昭和55年3月に『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書』を刊行した。

その後、事業地の用地買収が進む一方で、平成元年より建設省出雲工事事務所・島根県斐伊川神戸川治水対策課及び島根県教育庁文化課の三者で協議が進められ、平成3年1月には文化課が再度分布調査を実施した。そして同年度末には同事務所と文化課の間で協議文書が交わされ、事前に予定地内にある埋蔵文化財を発掘調査することが決定し、平成3年4月より発掘調査事業がスタートした。

古志本郷遺跡は、平成7年度に本格的に発掘調査がスタートし、平成12年度まで延べ41,991㎡に及ぶ広大な面積の発掘調査を行い、斐伊川放水路関連の調査は終了した。その結果は、一部が既に『古志本郷遺跡Ⅰ』『古志本郷遺跡Ⅱ』などの報告書にまとめられ公表されている。

第1表 斐伊川放水路予定地内埋蔵文化財発掘調査一覧表

調査年度	調査主体	遺跡名	主な遺構・遺物	文献
平成3年度	鳥根県教育委員会	三田谷Ⅱ遺跡	横穴式石室、土坑墓	2
平成4年度	鳥根県教育委員会	三田谷Ⅱ遺跡	横穴式石室、土坑墓	2
	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第14・15支群	横穴墓、土甕	4
	鳥根県教育委員会	大井谷石切場跡	石切場跡、鉄器	4
	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第20・21支群	横穴墓、金糸	3
平成5年度	鳥根県教育委員会	三田谷Ⅱ遺跡	土坑墓、加工段、須恵器	2
	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第16支群	横穴墓、須恵器	4
	鳥根県教育委員会	上沢Ⅰ遺跡	土坑	2
平成6年度	鳥根県教育委員会	三田谷Ⅰ遺跡	土坑、井戸跡、木簡	10
	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第7支群	横穴墓、須恵器	5
	鳥根県教育委員会	大井谷城跡、上塩冶横穴墓群第35・36支群	城跡、横穴墓、鉄器	5
	鳥根県教育委員会	上沢Ⅱ遺跡	井戸跡、土坑、石切場跡	5
平成7年度	鳥根県教育委員会	三田谷Ⅰ遺跡	土坑、縄文土器、須恵器	10
	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第22・23・37支群	横穴墓、石切場跡、金糸	5
	鳥根県教育委員会	白石谷遺跡	石切場跡、須恵器	19
	鳥根県教育委員会	古志本郷遺跡	井戸跡、土坑、溝跡	7
平成8年度	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第7支群、大井谷古墳	横穴墓、横穴式石室	5
	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第12支群	横穴墓、須恵器	5
	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第33支群	横穴墓、横穴式石室	5
	鳥根県教育委員会	狐瀬谷古墳	横穴式石室	5
	鳥根県教育委員会	三田谷Ⅰ遺跡	竪穴住居跡、土坑、石器	6
	鳥根県教育委員会	権現山城跡(半分城跡)	城跡、青磁、白磁	19
	鳥根県教育委員会	上塩冶横穴墓群第28支群	横穴墓、鉄器	8
	鳥根県教育委員会	放れ山横穴墓群	横穴墓、鉄器	18
	鳥根県教育委員会	古志本郷遺跡	溝跡、孤立柱建物跡	7
	出雲市教育委員会	上塩冶横穴墓群第17支群	横穴墓、須恵器	12
出雲市教育委員会	谷Ⅰ区	土坑、須恵器	12	
出雲市教育委員会	谷Ⅱ区	孤立柱建物跡、陶磁器	12	
平成9年度	鳥根県教育委員会	三田谷Ⅰ遺跡	方形周溝墓、竪穴住居跡	6・9
	鳥根県教育委員会	権現山石切場跡	石切場跡	19
	鳥根県教育委員会	古志本郷遺跡	溝跡、孤立柱建物跡	7
	鳥根県教育委員会	只谷岡歩	岡歩	18
	鳥根県教育委員会	蟹谷遺跡	孤立柱建物跡、須恵器	15
	出雲市教育委員会	上塩冶横穴墓群第18支群	横穴墓、ガラス玉	12
	出雲市教育委員会	上塩冶横穴墓群第19支群	横穴墓、土師器	12
	出雲市教育委員会	上塩冶横穴墓群第38支群	横穴墓、土師器	12
	出雲市教育委員会	三田谷3号墳	横穴式石室、須恵器	12
	出雲市教育委員会	石切場跡1	石切場跡	12
	出雲市教育委員会	石切場跡2	石切場跡	12

平成10年度	島根県教育委員会	古志本郷遺跡	溝跡、掘立柱建物跡	14・15
	島根県教育委員会	上沢Ⅲ遺跡	掘立柱建物跡、土坑	15-18
	島根県教育委員会	止屋洞		15
	島根県教育委員会	三田谷Ⅰ遺跡	掘立柱建物跡、土坑	9・19
	島根県教育委員会	三田谷Ⅲ遺跡、三田谷4・5号墳	横穴式石室、竪穴住居跡	11
	出雲市教育委員会	石切場跡2	石切場跡	12
	出雲市教育委員会	大井谷Ⅲ遺跡	ピット、須恵器、土師器	12
	出雲市教育委員会	光明寺3号墓	石製骨蔵器、須恵器	13
	出雲市教育委員会	光明寺4号墳	横穴式石室、須恵器	13
	出雲市教育委員会	大井谷Ⅰ遺跡	溝跡、須恵器、土師器	17
平成11年度	島根県教育委員会	古志本郷遺跡	掘立柱建物跡、溝跡	14-15
			竪穴住居跡、弥生土器	20-21
	島根県教育委員会	長瀬遺跡	竪穴住居跡、加工段	16
平成12年度	出雲市教育委員会	大井谷Ⅱ遺跡	羽Ⅰ、須恵器、土師器	17
	島根県教育委員会	長瀬遺跡	竪穴住居跡、加工段	22
	島根県教育委員会	長瀬横穴墓群	横穴墓、陶磁器	16
	島根県教育委員会	古志本郷遺跡	竪穴住居跡、溝跡	21
	出雲市教育委員会	大井谷Ⅱ遺跡	寺院跡、須恵器、土師器	12
	出雲市教育委員会	二谷遺跡	ピット、土師器	23
	出雲市教育委員会	藤瀬遺跡	道跡	23
	出雲市教育委員会	瀧谷山城跡	石切場跡、城跡	23
平成13年度	島根県教育委員会	長瀬遺跡・権現山古墳	古墳、横穴墓、土坑	22
	島根県教育委員会	古志本郷遺跡	溝跡、弥生土器、土師器	18
	出雲市教育委員会	瀧谷山城跡	掘立柱建物跡、陶磁器	23
	出雲市教育委員会	長瀬遺跡	竪穴住居跡、土師器	23
	出雲市教育委員会	大井谷Ⅱ遺跡	溝跡、須恵器、土師器	23

#### 【参考文献】

- 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会1980『出雲・上塩治地域を中心とする埋蔵文化財発掘調査報告』
- 島根県教育委員会1994『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 三田谷Ⅱ遺跡 上沢Ⅰ遺跡』
- 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会1995『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 上塩治横穴墓群第20・21支群』
- 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会1997『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 上塩治横穴墓群第14・15・16支群』
- 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会1998『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 上沢Ⅱ遺跡 狐瀬谷古墳 大井谷城跡 上塩治横穴墓群第7・12・22・23・33・35・36・37支群』
- 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会1999『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ 三田谷Ⅰ遺跡 (Vol.1)』

7. 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会1999『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ 古志本郷遺跡Ⅰ』
8. 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会1999『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ 上塩冶横穴墓群第28支群』
9. 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会2000『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ 三田谷Ⅰ遺跡 (Vol.2)』
10. 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会2000『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ 三田谷Ⅰ遺跡 (Vol.3)』
11. 建設省出雲工事事務所・島根県教育委員会2000『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ 三田谷Ⅲ遺跡』
12. 建設省出雲工事事務所・出雲市教育委員会2000『斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書Ⅰ 上塩冶横穴墓群第17・18・19・38支群 大井谷Ⅲ遺跡 石切場跡1・2 二田谷3号墳』
13. 建設省出雲工事事務所・出雲市教育委員会2000『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 光明寺3号墓・4号墳』
14. 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会2001『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅠ 古志本郷遺跡Ⅱ』
15. 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会2001『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅡ 蟹谷遺跡 上沢Ⅲ遺跡 古志本郷遺跡Ⅲ』
16. 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会2001『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ 長瀬横穴墓群 長瀬遺跡 (Vol.1)』
17. 国土交通省出雲工事事務所・出雲市教育委員会2001『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 大井谷Ⅰ遺跡 大井谷Ⅱ遺跡』
18. 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会2002『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ4 古志本郷遺跡Ⅳ 放丸山横穴墓群 只谷間歩 上沢Ⅲ遺跡 (分析編)』
19. 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会2003『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ 白石谷遺跡 権現山城跡 三田谷Ⅰ遺跡 (分析・保存処理編)』
20. 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会2003『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅥ 古志本郷遺跡Ⅴ』
21. 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会2003『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ 古志本郷遺跡Ⅵ』
22. 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会2003『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅧ 長瀬遺跡 (Vol.2) 権現山古墳』
23. 国土交通省出雲工事事務所・出雲市教育委員会2003『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 三谷遺跡 藤瀬遺跡 瀧谷山城跡 長瀬遺跡 大井谷Ⅱ遺跡』

## 第2章 位置と歴史的環境

古志本郷遺跡は出雲市古志町に所在し、神戸川左岸の自然堤防上及びその後背湿地に位置する。神戸川は、中国山地の飯石郡赤来町に源を発し飯石郡領原町・簸川郡佐田町を貫流し、出雲平野に至り出雲市で日本海に注ぐ。古志本郷遺跡は、神戸川が平野部に出て1.5km下ったところにある。

出雲平野は、神戸川と、仁多郡横田町に源を発する斐伊川との堆積作用で形成された沖積平野である。約7000年前の完新世前期頃の縄文海進とその後の海退により出現した低湿地に、約3600年前の三瓶山の噴火物が堆積したことにより平野中央部が形成され始めたと言われ、さらに江戸時代前期の斐伊川平野東流や山間部における「欽穴流し」による土砂の流入により、平野は東へとさらに広がり近世に現在の地形へと定着したと考えられている。出雲平野には、河川堆積作用によって埋没した旧河道や川徴高地などが埋もれており、近年の発掘調査や地質学的・地理学的調査によって次第に旧地形が解明されつつある。以下時代を追って概観する。

### 縄文時代

縄文時代前期では、平野北側にこの地域では最も古い繊維土器が出土した菱根遺跡や、平野西側の砂丘に上長浜貝塚がある。縄文時代の遺跡は平野縁辺部で確認できるが、中期の遺跡は少なく、三田谷Ⅲ遺跡から船元Ⅳ式や里木Ⅱ式が出土している程度である。縄文後・晩期になると、北山南麓に出雲大社境内遺跡が認められる。また、神戸川が平野に流れ出るあたりの右岸には、丸太舟や堅果類の貯蔵穴、土偶が発見された三田谷Ⅰ遺跡が、平野中央部には欠野遺跡が存在し、平野部居住への足掛かりとなっていた。

### 弥生時代

前期の遺跡は、縄文時代晩期から続く遺跡が多く、原山遺跡や矢野遺跡が有名である。原山遺跡からは前期前半の土器や、石剣、配石墓などが見つかっており、大きな集落が形成されつつあったことが窺える。前期にはこの他、九州系の土器が出土する三田谷Ⅰ遺跡や平野中央部の葦小路西遺跡などがある。中期には平野が安定化したと思われ、より広い範囲で遺跡が現れ始める。古志本郷遺跡、田畑遺跡、下古志遺跡、天神遺跡、四絡遺跡群などの大溝を持つ



第1図 調査地の位置

大規模な集落が形成され、出雲平野の開発が進んでいった様子が窺える。また、大社町命主神社や斐川町神庭荒神谷遺跡など平野縁辺の丘陵上から出土した青銅器は、弥生時代中期頃のものと考えられている。後期から終末期の集落は多く発見され、中期から続く遺跡の他、木製品が出土した姫原西遺跡や海上遺跡、山持川川岸遺跡、石土手遺跡、斐伊川鉄橋遺跡など新たな遺跡も増加し、平野部ではかなり開発が進んでいたと思われる。その頃斐伊川を見下ろす出雲市大津町の丘陵上には、四隅突出型墳丘墓をもつ西谷墳墓群が造られており、出雲平野を統括する有力者の存在が窺える。また三田谷Ⅰ遺跡でも後期～終末期の方形周溝墓も検出されている。

#### 古墳時代

集落では、前期は弥生時代から引き続くものが多い。古志本郷遺跡のように前期には大溝が埋まり、集落が衰退するものがある一方、山持川川岸遺跡のように中期以降も存続するものもある。また、角田遺跡や三田谷遺跡のように中・後期に新たに集落が形成されるものもあり群集墳や横穴墓を生み出す基盤が出来上がっていったものと考えられる。前期の遺跡からは外米系土器が出土するほか、古志本郷遺跡からは三韓系土器も発見されている。

古墳では、前期は長方形墳である西谷7号墳、前期後葉で全長約50mの前方後円墳である人寺1号墳、円墳で簡形銅器や鏡を持つ山地古墳が発見されているが、先行する四隅突出方墳丘墓が同時期の全国的な首長墓のなかでも抜きん出る存在であったのに対し、規模・内容ともに全国的に見ると貧弱である感は否めない。中期古墳は、平野西南部の丘陵上に65mの前方後円墳である北光寺古墳がある。この他、中～後期の小古墳が北山周辺や仏経山周辺から発見されているが、前期から継続した首長墓系列の古墳は現在のところ見い出せない。後期には、北山南麓に家形石棺が直葬された上島古墳が出現する。この古墳には、多くの馬具が副葬されており家形石棺には近畿地方の影響が見て取れる。これ以後、北山南麓には大型の古墳は発見されておらず、首長墓域は神戸川兩岸付近の丘陵地帯に移行するようである。神戸川右岸に出現した大念寺古墳は全長92mの前方後円墳で、墳丘や石室規模はこの地域で突出していて、大念寺古墳の出現は出雲平野一帯だけでなく出雲西部全域がまとまりを持ったことの表れと見ることができる。これに上塩冶築山古墳、地蔵山古墳、光明寺4号墳などが続くが、古墳時代終末期頃には石室墳は消え、石室墳と一部重複して上塩冶横穴墓群などの横穴墓群が出現する。上塩冶横穴墓群は、凝灰岩に掘られたものが多く精美に整っていて、石棺を内蔵するものもある。さらに、裝飾大刀や金糸を副葬するなど、かなりの有力者が埋葬されていたと思われるものもある。また、神戸川左岸も右岸と同様に、妙蓮寺山古墳、宝塚古墳、放れ山古墳、大槻古墳が造営される。さらに、南側丘陵には横穴式石室を内部主体とする刈山古墳群や地蔵堂横穴墓群、井上横穴墓群、神門横穴墓群などの大規模な横穴墓群も形成される。なお、仏経山周辺や旅伏山周辺の北山にも小規模で横穴式石室を持つ古墳が分布する。石室形態やその形態変遷が神戸川周辺の大型古墳と同じであることから、両者の間には密接な関係が成立していたと考えられる。

#### 奈良・平安時代

奈良時代には、出雲平野は「出雲郡」と「神門郡」に編成される。官衙関連遺跡として、和同開珎や「高岸神門」などの木簡、緑釉陶器、黒書土器などが出土した三田谷Ⅰ遺跡、緑釉陶器、墨書土器、大型の獨立柱建物が発出された大神遺跡、緑釉陶器や硯、墨書土器などが出土した古志本郷遺跡がある。また、古瓦が出土している神門寺境内麻寺や古志遺跡などもあり、733年に編纂され

たといわれる『出雲国風土記』記載の新造院や郷との比定が進められている。この他に、大寺古墳の隣接地にあり多くの土器が出土した大寺三蔵遺跡や上長浜貝塚などの集落遺跡も知られている。古墳としては、平野南側丘陵に石製骨箆器を備える菅沢古墓や朝山古墓、横穴式石室内に石櫃の置かれた小坂古墳、須恵器の骨箆器を使用した西谷古墓、墳丘を持ち石製骨箆器に人骨が納められた光明寺3号墓などがあり、火葬の風習がこの地方にも普及していた様子うかがえる。出雲平野では、弥生時代や古墳時代の遺跡に注目が集まることが多いが、奈良・平安時代の遺跡について説明が進みつつある。

#### 鎌倉時代・室町時代

前代から続く出雲一宮である出雲大社や、その別当寺である廻淵寺が存在する他、出雲守護職の佐々木氏が出雲東部から出雲平野中央部の塩冶郷に守護所を移すなど、鎌倉時代後半期の一時期、実質出雲国の行政上の中心となる。また、平野中央部には渡橋沖遺跡や蔵小路西遺跡があり、蔵小路西遺跡からは幅約4mの堀や掘立柱建物跡、12～15世紀の広域流通陶磁や土師器などが発見され、古豪の一つである朝山氏の館跡と推定されている。また備前焼などが多量に出土した大社町鹿蔵山遺跡も有力者の館跡と考えられている。墳墓資料では、上塩冶横穴墓群第33文群から発見された五輪塔群や、権現山石切場跡の石製製作現場が確認されており中世石塔の供給や形態の変遷を伺う上で注目される。また、青磁碗・皿を副葬する荻杆古墓が発見されており有力者層の墓制を伺う貴重な資料であろう。

戦国時代には、中国地方の雄尼子氏と毛利氏などの戦乱により、平野を見下ろす丘陵上に鶯ヶ巣城跡、高瀬城跡、唐壱城跡、半分城跡、神西城跡、浄土寺山城跡など多くの山城が築かれる。今後、平野の開発や支配関係などが、文献だけでなく発掘調査の成果からも説明が進むものと期待される。

#### 江戸時代

出雲平野は、山間部で盛んに行われたたたら製鉄の影響により斐伊川天井川化が進み、江戸時代前期には東流する。治水対策や農業生産力向上のため江戸時代には各種の開発も行われた。主なものとして大社町荒木浜開拓、斐伊川左岸の水運・灌漑の目的とした高瀬川や間府川の普請、神西湖周辺の開発（差海川開削）などが挙げられる。占志町周辺では十間川の普請、新田開発、近世山陰道の整備などが進んだ。占志町は石州街道や備後街道、舟運の要衝として栄えたようである。

#### 【参考文献】

- 出雲考古学研究会 1983・1986『出雲平野の集落遺跡Ⅰ・Ⅱ』
- 出雲考古学研究会 1987『石櫃式石室の研究』
- 池田満雄「出雲・西谷出土の骨箆器」1971『出雲・菅沢古墓』『島根県埋蔵文化財調査報告書3』
- 池田満雄・足立克己「出雲市矢野遺跡出土の縄文土器」1987『島根考古学会誌4』
- 池田満雄「考古資料」「史跡」1956『出雲市の文化財1』
- 池田満雄「考古資料」「史跡」1960『出雲市の文化財2』
- 池田満雄「上島古墳調査報告」1954『古代学研究10』
- 島根県教育委員会・建設者出雲工事事務所 1980『出雲・上塩冶地区を中心とする埋蔵文化財調査報告』
- 出雲市教育委員会 1986『山地古墳発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 1996『上長浜貝塚』

- 出雲市教育委員会 1985『神門寺境内廃寺』
- 出雲市教育委員会 1988～97『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書1～7』
- 出雲市教育委員会 1994『地蔵堂横穴墓群発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 1997『天神遺跡第7次発掘調査報告書』
- 出雲市教育委員会 1988『史跡今市大念寺古墳保存修理事業報告書』
- 出雲市教育委員会 1997『遺跡が語る古代の出雲』
- 近藤正『出雲・荻野古墳発見の骨蔵器』1969『考古雑誌』54-3
- 島根大学山陰地域研究総合センター 1989『古代出雲文化の展開に関する総合的研究』
- 島根大学山陰地域研究総合センター 1992『古代金属生産の地域的特性に関する研究』
- 田中義昭・西尾克己『出雲平野における原始・古代の集落について』1988『山陰地域研究4』
- 島根県埋蔵文化財調査センター 1993～2002『島根県埋蔵文化財調査センター年報Ⅰ～Ⅴ』
- 朝日新聞社 1997『アサヒグラフ銅鐸の谷』
- 西尾克己・大國晴雄 1991『出雲平野の古墳』
- 山本清『古墳』1951『出雲市誌』
- 出雲市古志町誌編纂委員会 1990『古志町誌』
- 国土交通省出雲工事事務所・島根県教育委員会『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書1～14』
- ※第1章参考文献に詳しく掲載している。



## 第3章 調査の経過

### 1 節 調査前の様子と既往の調査

#### 調査前の様子

本書で報告する古志本郷遺跡K区は、古志本郷遺跡の東端にあたる。

現在は集落域の縁辺であり、斐伊川放水路事業が本格化する直前の資料<sup>(1)</sup>でも、1988年頃には民家や倉庫が数棟ある他は大半が畑、水田、墓などに利用されていたようである。また古志公民館に保管されている明治時代初頭内務省の命によって作成され、当時の地割りや道路・河川などが詳細に記載された「明治五年地券地図」<sup>(2)</sup>では、「畑、墓、田」との記載があるのみで、やはり集落の縁辺部であった様子が窺える。さらに遡ると、江戸時代後期に作成されたと見られる同公民館保管の「大保年間開闢図面」には、K区より東側の部分と考えられる場所に「新本田」の記載が見られ、江戸時代の新田開闢により開発された水田域である可能性が高い。同図面にはK区の南端付近に「神門塚」の記載があり、付近に塚状の施設があった可能性が高い。周辺の既往の発掘調査の結果では、江戸時代後期に土地の再開発が行われ現代の景観に近い地割りが行われたとの報告がある<sup>(3)</sup>。

以上のようにK区を取り巻く環境は、江戸時代後期以降のここ200年来は集落の縁辺としての立地が大きく変化することなく現代に至った様子を窺い知ることができる。

#### 既往の調査

古志本郷遺跡は、土器等が散布する周知の遺跡としてその存在は古くから知られていた。しかし、内容が具体的に明らかにされてきたのは、近年の発掘調査の成果によるところが大きい。古志本郷遺跡の発掘調査は、島根県教育委員会が主体となって1995（平成7）年～2001（平成12）年まで継続的に行った斐伊川放水路建設予定地内発掘調査と、出雲市教育委員会などが主体となって行った計13次にわたる調査がある。近年調査事例が増加している出雲平野のなかでも、最もまとまった調査面積と成果が報告されている遺跡である。主な発掘調査の成果は、図3および表2にまとめ、以下に概要を述べる<sup>(4)</sup>。

これまでの発掘調査の成果では、古志本郷遺跡では弥生時代以降断続的に集落が展開することが報告されている。その中でも遺物・遺構がまとまって出土し、集落の発展期とでも言うべきピークが3度認められると思われる。第1のピークは弥生時代中期から古墳時代前期の弥生集落、第2のピークは奈良時代の大規模建物群、第3のピークは室町期から江戸期初頭の中近世の建物群であろう。

第1のピークとした弥生時代は、出雲平野中央部が安定化した<sup>(5)</sup>後の弥生時代前期土器は各調査地点で数点ずつ出土しているが、量がまとまって出土するのは弥生時代中期（松本Ⅲ期）以降であると言われている。これ以降、古志本郷遺跡の弥生集落は大規模化し、竪穴建物跡、土坑、溝跡などが多数発見されている。弥生時代終末期（松本Ⅴ期以降、草田5～6期）には外縁に大規模な溝状遺構「大溝」を備える複数の集落が隣接して存在していた様相がうかがえる<sup>(6)</sup>。大溝からは多量の上器が出土することが多く、在地の土器のほか、他地域との関連をうかがわせる外来系の上器や

鉄製品、石器などが出土しており、集落の性格を考える上で良好な資料を提供している。大溝は弥生時代終末～古墳時代前期の土器を最上面に伴って廃絶することと、それ以降の古墳時代中期の遺構・遺物が非常に少ないことから、大規模集落の衰退や移住の可能性も述べられている。

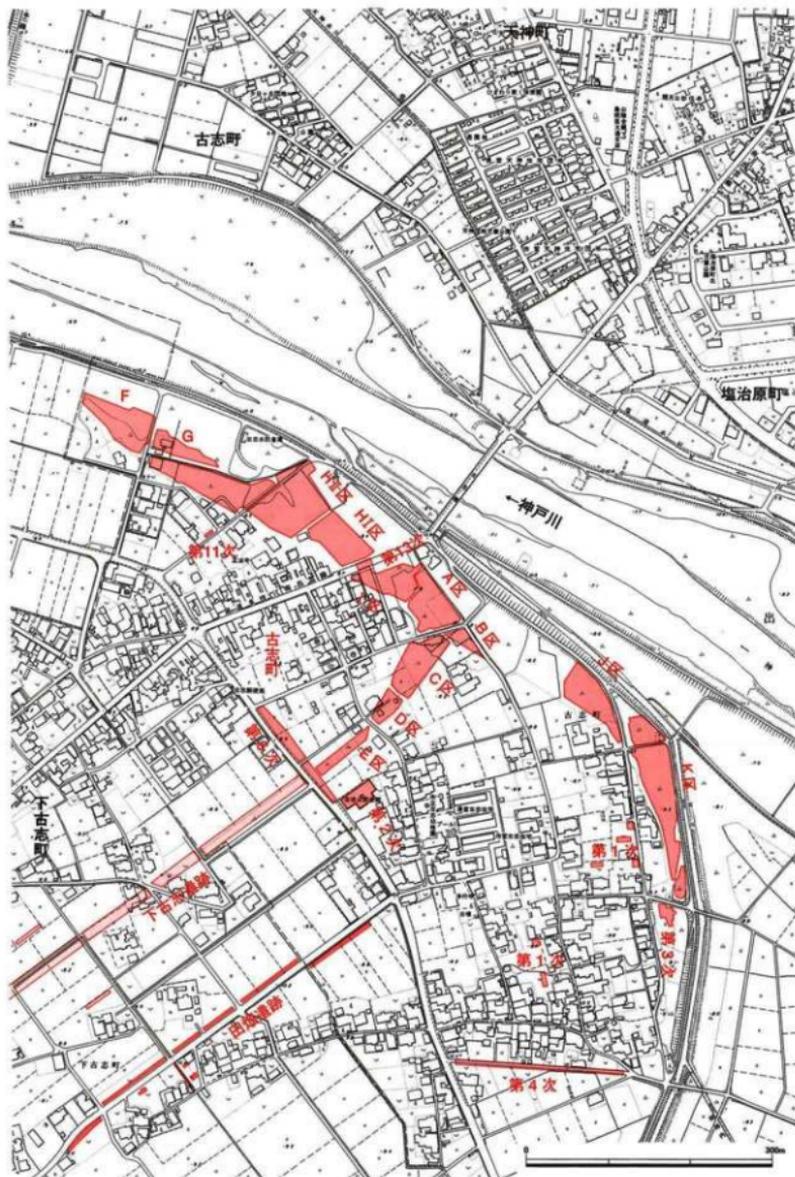
第2のピークは古代に認められ、G区において奈良時代の大規模な官衙関連遺構と視、緑釉陶器、墨書土器といった官衙と関連ある遺物が発見されている。J区においても奈良時代から平安時代の棚列を伴う規模の大きな掘立柱建物跡や黒書土器、銅といった特殊遺物が出土していることから広範囲に関連施設が存在する可能性も考えられている。

第3のピークとした中世後半期から近世初頭には、井戸・掘立柱建物跡などが発見され、出雲地方では出土例の少ない古瀬戸陶器をはじめ豊富な貿易陶磁器や国産陶磁器といった広域流通製品が出土しており、参考文献6では戦国時代に当地域に強い影響力を持った古志氏との関係を述べている。

以上のピーク以外の時期の遺構・遺物も多数発見されており、出雲地方の歴史像を解明する上で貴重な資料を提供している。

第2表 古志本郷遺跡の調査歴と内容

西暦	年度	調査回数	調査区	調査主体	調査原因	主な内容	文献
1987	昭和62	1	1T～6T	出雲市教委	遺跡詳細分布調査	弥生時代の竪穴建物跡、貝塚	1
1990	平成2	2		出雲市教委	古志公民館移転建築	弥生時代の竪穴建物跡、工作関連遺物	2
1993	平成5	3		出雲市教委	畑地造成		3
1995	平成7	4		出雲市教委	土地改良総合事業	弥生～近世の少量の遺物	5
1995	平成7	6	A・B・C区	出雲市教委	市道本郷新宮線建設	弥生時代大溝とこれに伴う土器群	4
1995	平成7	5	A・B区	島根県教委	斐伊川放水路建設	弥生時代の竪穴建物跡と大溝状遺構、古代～近世の建物、井戸・土坑など	6
1996	平成8	7	A・C区	島根県教委	斐伊川放水路建設		
1997	平成9	8	C・D・E区	島根県教委	斐伊川放水路建設		
1998	平成	9・10	F・G区	島根県教委	斐伊川放水路建設	奈良時代の官衙関連遺構	11
1999	10・11						
1998	平成	9・10	H・J区	島根県教委	斐伊川放水路建設	弥生時代の竪穴建物跡・古代～近世の建物跡・溝跡・土坑など	7
1999	10・11						
1998	平成	9・10	I区	島根県教委	斐伊川放水路建設		8
1999	10・11						
1999	平成	12	K区	島根県教委	斐伊川放水路建設	弥生時代の竪穴建物跡、大溝とこれに伴う土器群など	本書、12
2000	11・12						
1999	平成11	11		出雲市教委	遺跡範囲確認	官衙関連施設の一部を確認	10
2001	平成13	13		島根県教委	斐伊川放水路建設	弥生時代大溝の一部、中近世遺物	9



第3図 既住の調査地と主な成果 (S=1/5,000)

## 2 節 調査の経過

### トレンチ調査と調査区の設定

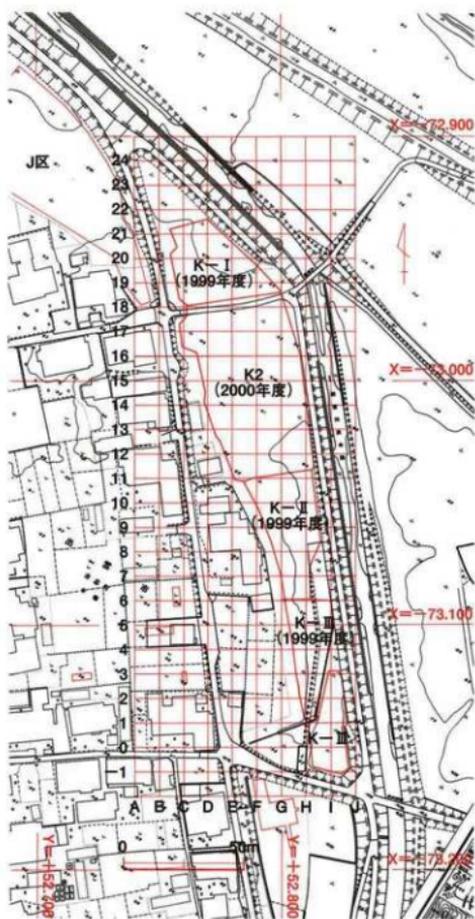
K区の発掘調査が具体化した1999年当時、古志本郷遺跡では既に発掘調査が行われており、これらのデータの蓄積からK区においてもかなり遺跡が広がっている事が予想された。しかし、当初遺跡発掘対象地としてマークされていた約1万㎡の中には、水田耕作により大きく遺構面が削平を受けている可能性がある場所があるなど未確定な要素があった。そこで、1999年4月から本格的に調査を開始するにあたり、まず人力掘削によるトレンチ調査を行った。

トレンチ調査では、対象となる範囲に任意の16か所に試掘坑を設け、約2×2～6mの範囲で基



第4図 K区トレンチ配置図 (S=1/2,000)

盤層の深さまで掘り下げ、遺構面の有無、深さ、基本層序の確認にあたった。この結果、①調査前に水田として利用されていた調査区北端のごく一部については遺構が既に削平されていたため本調査の範囲から除外すること、②調査区南端の水田部については基盤層が南側へ向かって急激に下がっているもののこの落ち込みの性格が明らかにできなかったため本調査範囲に含めること、③その他の部分ではかなり高密度で遺構・遺物が分布していること、④遺構の掘り込み面として認識できるのは基盤層の1面のみであること、⑤部分的な現代の攪乱を除くと厚く包含層が堆積していること、などを確認した。トレンチ調査は、1999年4月19日に着手し、5月13日まで実施した。



第5図 K区調査区配置図およびグリッド配置図 (S=1/2,000)

## 発掘調査

トレンチ調査の結果をもとに調査範囲を確定し、1999年5月17日より本格的に調査に着手することとなった。調査にあたっては、排土の運搬・排出の段取りや、使用している埋没施設（生活雑排水路）の撤去時期などの諸事情もあり、委託者及び内部で協議した結果、1999（平成11）年度と2000（平成12）年度の2か年度に分けて調査を行うこととなった。

現地調査は、1999（平成11）年度は、K区のうち、KⅠ区とKⅡ区のうち南半部分、KⅢ区の計3,035㎡を、2000（平成12）年度は残地のKⅡ区の北半部分の3,150㎡をそれぞれ行い、2か年で合計6,185㎡の発掘調査を実施した。1999（平成11）年度の調査は1999年4月19日に着手し、2000年1月5日に終了した。2000（平成12）年度の調査は、4月18日に着手し、11月6日に終了した。

この間、考古学をはじめ地質学、文献史学など各分野の専門家から調査指導を得る機会を設け、15人の方々から御指導をいただいた。また、埋蔵文化財調査センター主催による現地説明会を各年度1度ずつ開催し、市民延べ380人が訪れた。現地説明会以外にも近隣の小中学校やサークル、公民館活動などの依頼により現地調査中に発掘体験会や見学会が数多く催され、多くの市民が遺跡を訪れ、住民の埋蔵文化財調査に対する関心の高さがうかがえた。

なお、KⅡ区は、1999（平成11）年度と2000（平成12）年度を区別するため、現地調査時に1999年度分を「KⅡ区」、2000年度分を「KⅡ区」と異なる標記を用いており（調査図面、遺物図面、土器注記等も準ずる）、本報告においてもこれに準じた。

## 【参考文献】

1. 出雲市教育委員会1988「古志地区分布調査報告書」
2. 出雲市教育委員会1994「出雲市埋蔵文化財調査報告」第4集
3. 出雲市教育委員会1995「出雲市埋蔵文化財調査報告」第5集
4. 出雲市教育委員会1998「市道本郷新宮線道路改良工事に伴う古志本郷遺跡第6次発掘調査報告書」
5. 出雲市教育委員会1999「古志地区土地改良総合事業地内古志本郷遺跡」
6. 鳥根県教育委員会1999「古志本郷遺跡Ⅰ」斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ
7. 鳥根県教育委員会2001「古志本郷遺跡Ⅱ」斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ
8. 鳥根県教育委員会2001「蟹谷遺跡・上沢Ⅲ遺跡・古志本郷遺跡Ⅲ」斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ
9. 鳥根県教育委員会2002「古志本郷遺跡Ⅳ・放れ山横穴墓群・只谷間府・上沢Ⅲ遺跡（分析編）」斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ
10. 出雲市教育委員会2002「古志本郷遺跡・下古志遺跡、平成11年度古志遺跡群範囲確認調査報告書」
11. 鳥根県教育委員会2003「古志本郷遺跡Ⅴ」斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財報告書Ⅷ
12. 鳥根県教育委員会2003「古志本郷遺跡Ⅵ」斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財報告書Ⅷ

## 註

- (1) 参考文献1による。
- (2) 保管されている古志公民館の御厚意により見学させていただいた。
- (3) 参考文献6「第3章 まとめ」に詳しい。
- (4) 参考文献の他、出雲弥生集落検討会での成果によるところが大きい。
- (5) 参考文献7、中村唯史「第5章 第2節 立地地盤の形成について」などによる。
- (6) 参考文献9「第4章 特論」による。

## 第4章 調査結果の概要

### 1節 K区の遺構の概要

(別封検出遺構配置図 (S=1/300)、第6  
図検出遺構配置図 (S=1/1,000)、第3表検  
出遺構一覧)

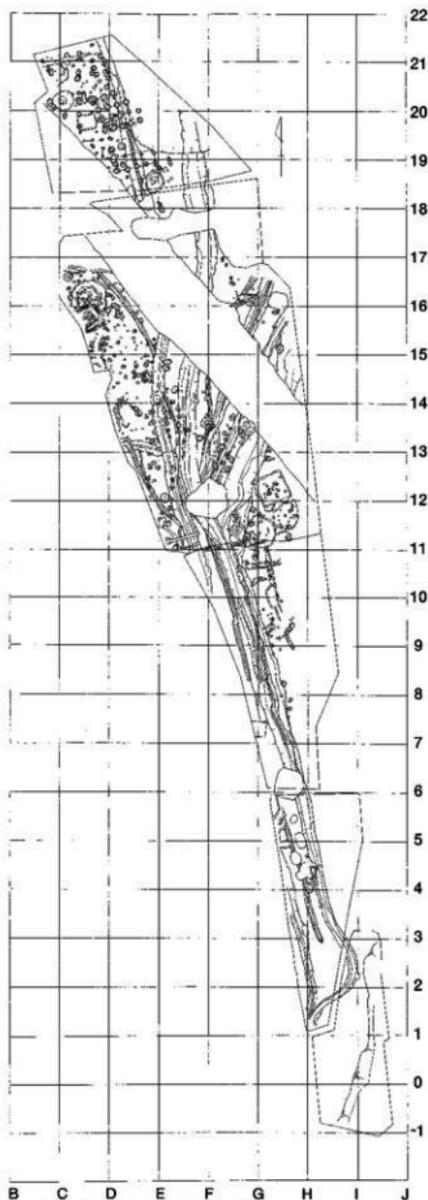
詳細は第5章に掲載し、概要を述べる。

#### 弥生時代中期から古墳時代前期

遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期の  
竪穴建物跡・大溝状遺構・溝状遺構・土坑  
と、古墳時代前期中葉から古墳時代前期末  
の竪穴建物跡・土坑を検出した。前者は、出雲  
平野で見られる集落域の外縁に大溝を持つ集  
落跡である。後者は大溝が埋没した後の遺構  
である。

弥生集落の大溝状遺構は、南北に細長い調  
査区と同じ南北方向に延びていたため、調査  
区を縦断する方向に検出された。途中、近世  
の巨大な溝状遺構や調査区境界に阻まれて中  
断されるSD03・44-S D21・10-S D12を  
連続するものと見ると、延長は200mを越え、  
また調査区南端では大きく方向を変えている  
ことも明らかとなった。

出土遺物は、土器では、弥生時代前期のも  
のは包含層や遺構に伴わない2点のみで、弥  
生時代中期中葉(松本Ⅲ-2期)以降増加、  
弥生時代終末期から古墳時代前期中葉から中  
葉(草Ⅲ6~7期)に完形の土器廃棄があり  
ピークである。これまでに述べられている古  
志本郷遺跡の弥生集落の出現・繁栄の傾向と  
違わない結果である。なお、古墳時代前期後  
葉から中期にかけては、量は減るが大溝最上  
面から土器が出土している他、竪穴建物跡



第6図 K区遺構配置図 (S=1/1,000)

(SX17)や土坑(SK19)を検出しており、大溝が廃絶した後も小規模な集落は存在したことがうかがえる。

大溝状遺構の内部からは、埋没時に廃棄された多量の弥生時代終末から古墳時代前期の土器が良好な形で出土している。土器の中には弥生後期の九州系壺、古墳時代初頭から前期の布留式の影響の見られる土器、古墳時代初頭の三韓系土器、古墳時代初頭の吉備系の土器、手埴り形土器などが認められる。

他の遺物では、大溝状遺構や遺構に伴わない形で轆の羽口と鍛冶滓が出土しており古墳時代前期に鍛冶関連施設があった可能性が考えられる。他に鉄製品、石製品、玉類未製品が出土している。また漢式青銅製三稜鏡が包含層から出土するなど、集落の規模や内容を考える上で貴重な発見となった。

### 古墳時代後期から平安時代

古墳時代後期の遺構ではS101がこれに属する可能性があるほか、弥生時代大溝の最上面の土器群に混じって土器溜まり状にこの時期の土器が集中する地点がいくつか認められる(SD31出土遺物)。遺構の様相は判然としにくい。

奈良・平安時代では、独立柱建物(SB01、SB10)が認められる他、火打ち金が出土したSX12・18、墨書土器を含む須恵器・土師器を出土したP399-P404などが認められる。古志本郷遺跡に大規模な官衙関連施設が置かれた時期であり、K区でも遺構数・遺物数が増える時期でもある。包含層遺物には布目痕のある古代瓦や製塩土器もあり、これらの時期に属すると考えられる。

### 南北朝期以降

中世前半は明瞭な遺構は検出されておらず、遺物も確実にこの時期に所属時期を求められるものは出土していない。

中世後半期、13世紀後半から14世紀以降には井戸跡、土坑など遺構が認められるが、J区、I区、H区と比べると遺構数も少なく点在して認められる程度である。近世後半期のSD01が最も新しい時期の遺構である。

第3表 古志本郷遺跡K区検出遺構一覧

※ 略記号があり、内容が「X」標記のものは調査初期は遺構との認識で調査を進めたが、調査途中遺構ではないことが明らかになったもの。  
※ 「遺構の時期」は、遺構の廃棄・廃絶時期を示すものとする

略記号・区	遺構の種類	遺構の形状	遺構の特徴	主な遺物	コンクリート	備考	
SD1	I区	遺溝	幅10m以上の大規模な溝、南北向き	灰尹陶磁器、須恵器、土、鉄製などなし	X		
2	K1	不明(古代以降)	溝か	溝内段で片側平削			
3	K1	弥生後期後半～古墳遺物	弥生の大溝	幅約2m深81.5mの溝内弧状の溝 上段に成層時代の多量の土器廃棄あり	弥生土器、内式土師器、布留式土器、鉄器、石鏡、九州系壺(下大形式)	30	SD4と同様。SD21に続くか
4	K1	X	X	X	X	中世以降の落ち込み (洪水などによる削平か)	
5	K1	X	X	X	X	中世以降の落ち込み (洪水などによる削平か)	
6	K1	弥生終末期～古墳前期	弥生の大溝	幅約2.5m深2.2mの溝内弧状の溝	弥生土器、古式土師器	6	SD1339～、SD32に続くか
7	K1	弥生終末期～古墳前期	弥生の大溝	幅約1～2m深2.2m及びその後断崖状、並行形の溝、複数溝の連続、複数段の円筒形 上段に須恵器時代の多量の土器廃棄あり	弥生土器、須恵器土器、古式土師器、中世系土師、土師、中世系土師器、土師土師器、鉄器、石鏡、石器未製品、打製石器、打製石、土師器など	287	SD1、SD2、SD21に続く SD12に続く SD30に続くか
8	K1	弥生終末期	溝	幅、深約0.5mの小規模な溝	少量の古式土師器	1以下	SD21に続くか
9	K1	X	X	X	X	SD20の番号	
10	K1	弥生終末期～古墳前期	弥生の大溝	幅約2m深2.15～2.2mの溝内弧状の溝 複数溝、複数段の円筒形、溝内弧状の土器 廃棄あり	弥生土器、古式土師器	30	SD3と同様。SD30に続くか



SK	4 K1	古代か	不明土坑	小型溝門形	土師器、須恵器	1以下	
	5 K1	弥生前期前半か	不明土坑	不整形内形	弥生土器	1以下	
	6 K1	古代か	不明土坑	小形溝内形	土師器、須恵器	1以下	
	7 K1	古代か	不明土坑	不整形内形	土師器、須恵器	1以下	
	8 K1	古代か	不明土坑	不整形内形	土師器、須恵器	1以下	
	9 K1	X	X	X	X	X	
	10 K1	X	X	X	X	X	
	11 K1	中世	土坑	平直溝門形	古銭、鉄器、中世土師器	2	SK7、SK7と重複
	12 K1	古墳前期一古代か	土坑	不整形内形、土器痕まり	土師器、須恵器、古銭	2	SK18と同じ
	13 K1	X	X	X	X	X	
	14 K1	X	X	X	X	X	
	15 K1	X	X	X	X	X	
	16 K1	X	X	X	X	X	
	17 K1	X	X	X	X	X	
	18 K1	X	X	不整形内形、土器痕まり	土師器、須恵器	2	SK12と同じ
	19 K1	古墳前期後半	土坑	不整形内形、土器痕まり	土師器	2	
	20 K1	古代か	不明土坑	内形	土師器、須恵器	1以下	SK10の1つ、SK10R上の遺物もこれか
	21 K1	不明	不明	不整形内形、土器痕まり	土師器、須恵器	2	
	22 K1	古代	SK10の1つ	内形、土師、周知に土器痕まり	土師器、須恵器	2	
	23 K1	中世	不明土坑	内形	中世土師器	1以下	
	24 K1	弥生前半か	不明土坑	内形、須丸方形の一段土坑	少量の弥生・古式土師器	1以下	
	25 K1	不明	不明	不整形内形	少量の土師器片	1以下	
	26 K1	不明	不明	不明土坑	不明土器片	1以下	
	27 K1	中世	丹井	不明内形	中世土師器	1以下	
	28 K1	不明	不明土坑	不明土坑	中世土師器	1以下	
	29 K1	古代か	不明土坑	内形	須恵器、土師器	1以下	
	30 K1	古代か	不明土坑	内形	土師器片	1以下	
	31 K1	中世	不明土坑	不明土坑	中世土師器、須恵器	1以下	SK12に類するか
	32 K1	不明	不明	内形	小形土師土器	1以下	
	33 K1	不明	不明	不明土坑	なし	0	
34 K1	不明	不明	不整形内形	須恵器1、古式土師器小片	1以下		
35 K1	中世	不明	不明土坑	の成世土師器	1以下		
36 K1	不明	不明	不明	弥生土器、古式土師器	1以下		
37 K1	X	X	X	X	X		
38 K1	不明	不明	不明内形	須恵器1、古式土師器小片	1以下		
39 K1	不明	須賀内形土器	SK10の2段土坑	土師器	1以下	SK10の内部施設	
41 K1	古代か?	不明	内形	須恵土師器、須恵器、土師器	1以下		
42 K1	不明	不明	内形	赤土土師器、土師器	1以下		
SK	1 K1	古墳時代前期後半	不明	不整形内形	赤土土師器、土師器	1以下	SK10の跡環上から掘り込み
	2 K1	X	X	X	X	X	
	3 K1	X	X	X	X	X	
	4 K1	X	X	X	X	X	
	5 K1	X	X	X	X	X	
	6 K1	中世	不明	内部におき変換した溝状遺構	中世土師器、土師器土器片	2	
	7 K1	不明(古代か)	不明				土坑
	8 K1	中世	不明				
	9 K1	X	X	X	X	X	
	10 K1	X	X	X	X	X	
	11 K1	X	X	X	X	X	
	12 K1	古代	不明	不整形内形、土器痕まり	須恵器、土師器、火打金	2	SK18と同じ
	13 K1	不明	不明	不整形な掘り込み	古式土師器、中世土師器	1以下	
	14 K1	不明	不明	同形土坑	土師器、須恵器	1以下	
	15 K1	不明	不明	不明内形	土師器、須恵器小片	1以下	
	16 K1	中世	丹井	不明内形	中世土師器	1以下	
	17 K1	古墳時代前期後半	塚形遺物	平直溝内形、土器より古式土師器、須恵器	古式土師器、須恵器、不明内形、須恵器	1	
18 K1	不明	不明	不整形内形、土器痕まり	須恵器、土師器、火打金	2	SK12と同じ	
19 K1	中世	丹井	不明内形	中世土師器、土師器	1		
20 K1	弥生前期	弥生土坑の内	溝状で掘出した4箇所の環状、本列の環状	弥生土器、土師器、須恵器、須恵器	0	SK10の内部施設	
21 K1	古墳時代前期	不整形な人形	溝状掘出物の土坑中央に土器痕まり、黒土坑	古式土師器	2		
22 K1	弥生末一古墳初期	同形土坑	SK10の跡環にて掘出、内部に同様	古式土師器の小片	1以下	SK10の内部施設	
SK	39 K1	古代	不明土坑	内形掘り込み土器痕まり	古式土師器、須恵器	1以下	ビット399から404に一直線の土坑か
	40 K1	古代	不明土坑	内形掘り込み土器痕まり	古式土師器、須恵器	1以下	ビット399から404に一直線の土坑か
	41 K1	古代	不明土坑	内形掘り込み土器痕まり	古式土師器、須恵器	1以下	ビット399から404に一直線の土坑か
	42 K1	古代	不明土坑	内形掘り込み土器痕まり	古式土師器、須恵器	1以下	ビット399から404に一直線の土坑か
	43 K1	古代	不明土坑	内形掘り込み土器痕まり	古式土師器、須恵器	1以下	ビット399から404に一直線の土坑か
	44 K1	古代	不明土坑	内形掘り込み土器痕まり	古式土師器、須恵器	1以下	ビット399から404に一直線の土坑か
DT	45 K1	弥生末一古墳初期	不明土坑	内形掘り込み土器痕まり	古式土師器	1以下	SK10の跡環か
	1 K1	古代	土器痕まり	遺構も検出	土師器、須恵器	2	
	2 K1	古代	土器痕まり	遺構も検出	土師器、須恵器	4	
	3 K1	古墳時代前期後半	土器痕まり	SK10の土器痕まり	土師器	2	
4 K1	古墳時代前期	土器痕まり	SK10の土器痕まり	古式土師器、土師器、須恵器	2	SK10上の土器痕まり	

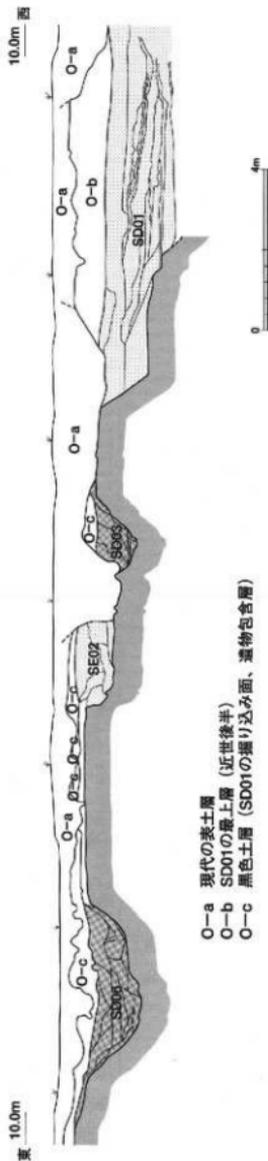
# 第5章 調査の結果

## 1 節 基本層序

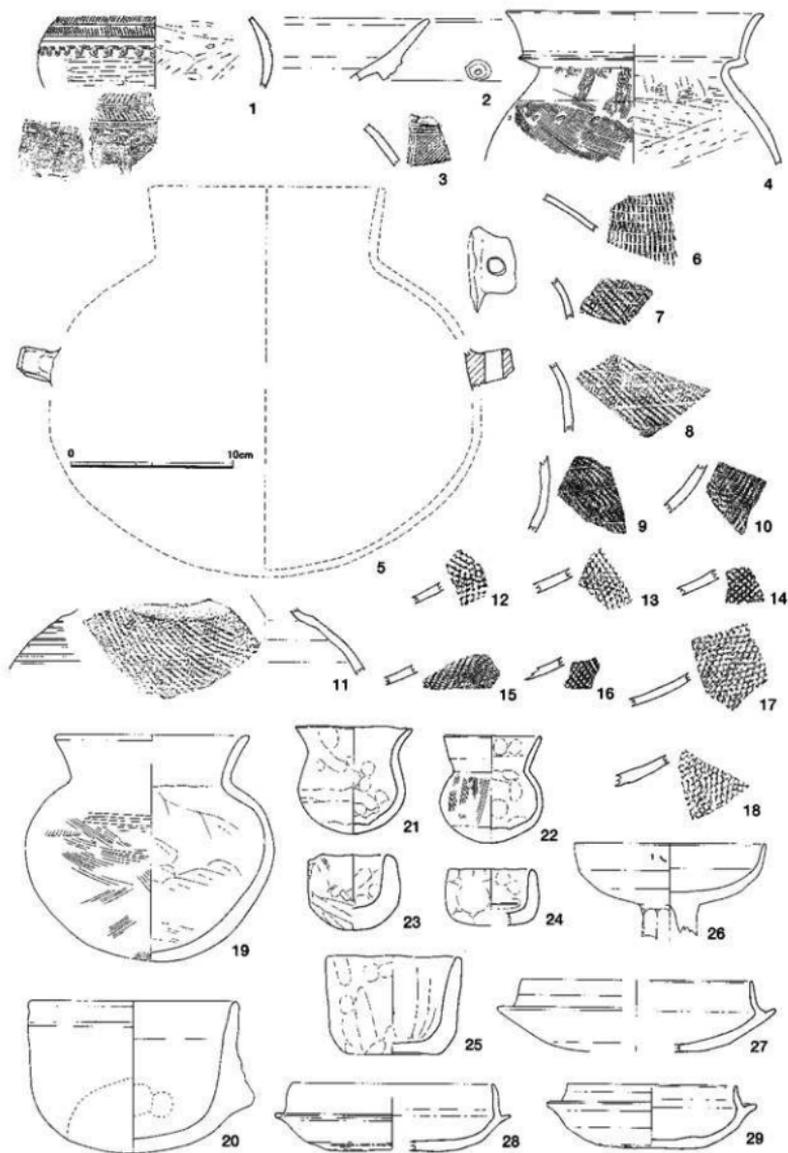
古志本郷遺跡K区のある場所は、少なくとも近代以降は宅地や畑、墓地、水田として利用されたため、調査区内においても堆積状況が場所によって大きく異なっていた。宅地や墓地、畑であったKⅠ区 KⅡ～KⅢ区では、大規模な攪乱が部分的に遺構面にまで達していた。最上層には、近世後期以降の堆積土や造成土が厚く堆積していた。この下層には、有機質に富む軟質の黒褐色土が直下の基盤層を覆っていた。黒褐色土から遺構が掘り込まれた痕跡が断面観察で確認できた遺構も幾つかはあったが、面的に検出することは難しく、面的に遺構の掘り込みを確認できたのは、砂礫や白色粘土などの火山性噴出物で構成される標高約9m前後の白色砂礫層であった。これまでの周辺の発掘調査の成果からもこの白色砂礫層以下には明瞭な遺構面が確認されていないことから、K区の発掘調査はこの白色砂礫層遺構掘り込み面と捉え精査を行った。表土および厚い堆積土や攪乱土は、白色砂礫基盤層の直上に堆積した黒褐色軟質土を残し、重機により掘削を行い、黒褐色軟質土から手掘りによる精査を行った。

## 2 節 包含層出土遺物 (第8～10図)

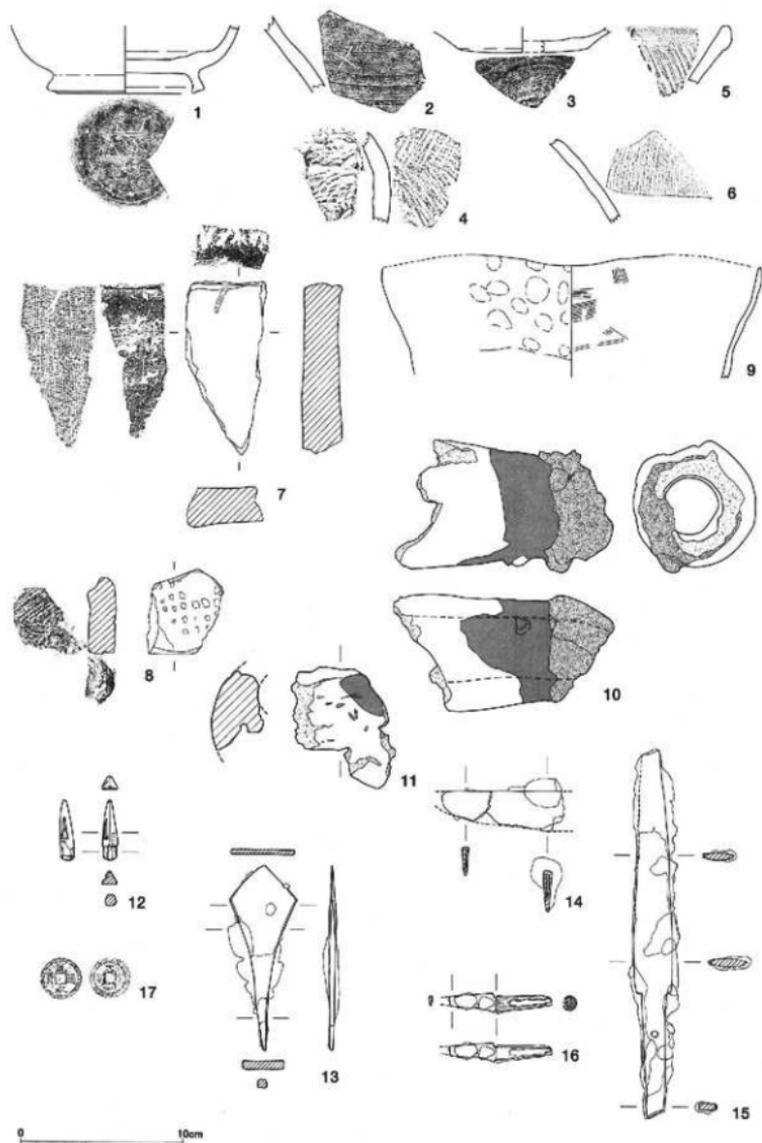
遺構面直上の黒褐色軟質土から出土した遺物である。漢式三稜鏃、三稜系土器、布目痕のある古代瓦や製塩土器など特筆すべき資料を抽出して掲載した。詳細は巻末の遺物観察表に替える。



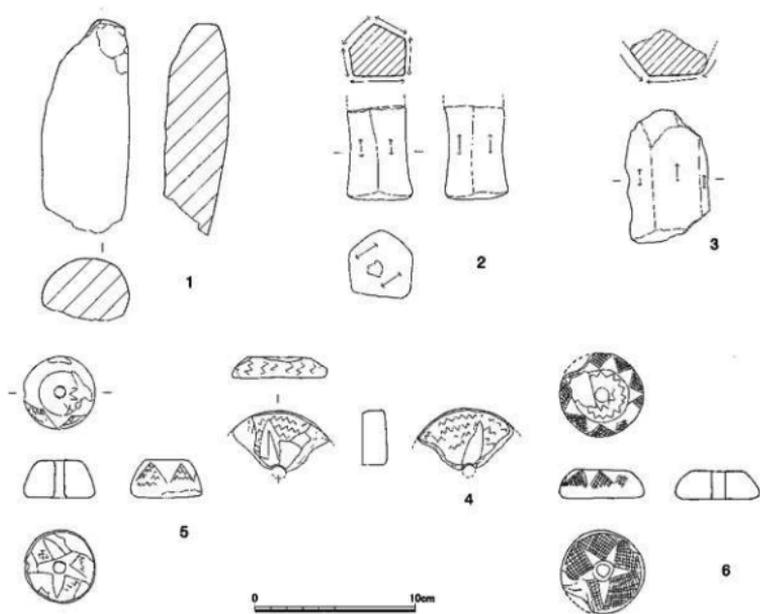
第7図 KⅠ区～KⅡ区調査区境界土層図 (S=1/120)



第8图 K区包含层出土遗物1 (S=1/3)



第9图 K区包含层出土遗物2 (S=1/3)



第10图 K区包含层出土遗物3 (S=1/3)

### 3節 竪穴建物跡

K区で検出した遺構で竪穴建物跡と考えられるものは7棟である。詳細は第4表に替え、挿図は遺構ごとに表の順に掲載した(第12~第35図)。以下調査時の所見を述べる。

#### S I 01 (第12図)

K I 調査区の北西端で検出した。調査区際際であることやS I 01より後に掘り込まれたS D 02によって削平されていることから、規模や形態など詳細を明らかにすることはできなかった。床面と見られるほぼ平らに整えられた基盤層に一部盛土を施した平らな面が認められたことと方形の壁体の立ち上がり状の掘り込みが見られたことから、竪穴建物跡と考えたが、柱穴となるピットが貧弱であり、竪穴建物跡かどうかの検討の余地がある。床面では不整形な土坑(S K 02、S X 01)、ピットを検出した。床面の直上には基盤層の砂礫を斑状に含む黒褐色土層(第12図1層)が薄く覆っており、使用後の堆積と考えられる。遺物は、遺構を検出した前述の1層上面でビニール袋1袋程度の須恵器、土師器の小片が出土している。第12図1は赤色顔料の塗布された土師器で胎土は通常の上師器と同様粗い砂礫を含む。これらの遺物からS I 01の廃棄時期は古墳時代後期後半、概ね出雲3期と考えられる。S X 01はS I 01を覆う1層直下から掘り込まれた不整形円形の性格不明土坑である。上面から鉄製鈍1点が出土した。

#### S I 03 (第13図)

K I 区で検出した。整った方形の平面形を呈し、西側の一辺に不整形な落ち込みが認められる。平らに整えられた床面の直上には均質で軟質の暗褐色土が堆積し、この上面でビニール袋1袋分の少量の遺物が出土している。床面には柱穴や他の施設と考えられるピットなどの遺構は認められず、竪穴建物跡かどうかの検討の余地があろう。出土遺物は1層中及び1層上面より弥生時代後期前半(松本V-1~2)の土器と鉄製鈍1点が出土している。

#### S I 07・S I 08・S X 17

これらの竪穴建物跡は、遺構検出面では直接的な重複が認められないか、それぞれがわずかに10数cmしか離れていないごく近い場所で検出されている。遺構の廃絶時期は古墳時代前期にかけてのもので、連続的に建て替えられた可能性もあろう。これらの建物跡が立地するのは、現在までに確認されている弥生時代から古墳時代前期の集落域を大きく囲む大溝遺構の区画外に当たる場所で、大溝自体が維持されなくなり、多量の土器を伴い埋没する時期に当たる。以下それぞれの竪穴建物跡について述べる。

S I 07 (第14~18図) K 2区とK II区で検出した。西側の一部分はS D 36・37を切って掘られ、中世の土坑(S K 11)や溝跡によって一部削平を受けている。不整形な平面形の検出状況と床面でのピットなどの検出状況から見ると少なくとも1度以上の建て替えが行われている竪穴建物跡と考えられる。床面で検出したピットは柱穴の他に中央ピットや壁際土坑があるが被熱した痕跡は認められなかった。遺構内には全体を覆う軟質の黒褐色土が堆積していた。遺物は床面では認められず、遺構を覆う軟質の黒褐色土中からコンテナ3箱が出土している。大半は小片の土器で完形に

復元し得るものではない。他に石器（礫石）、鉄製品（棒状）が出土している。出土土器は弥生時代中期末から後期前半のものが数点混在するものの、大部分は古墳時代前期前半（小谷式）のものであり、この竪穴建物跡の廃棄時期はこの時期と考えられる。

**S I 08（第19～20図）** K 2区で検出した。S I 07・S X 17と並んで検出した。S I 08は、検出面ではS I 07とは重複しておらず、またS X 17とは古代の土坑であるS X 12・18によって削平されているためS I 07・S I 08・S X 17の切り合いによる遺構の前後関係は明らかにできない。平面形がやや崩れているS I 07と比べてS I 08の平面形は整っており、各辺が緩い弧状を呈する隅円方形である。基盤層では支柱穴となろう柱穴4個の他に浅い中央ピットやその他のピットを検出した。また、明瞭な掘り込みを伴わないものの基盤層において4本の支柱穴をつなぎ緩い弧状を呈する黒褐色変色部（第20図中トーン部分、写真図版参照）を確認しており、間仕切りなどの建物内部の施設が存在した可能性が考えられよう。覆土は軟質の暗褐色土が厚く堆積しており、廃棄後の堆積と考えられる。覆土中から小片の土器がコンテナ3箱分出土している。これらの土器には弥生時代後期前半の土器が数点混在するものの古墳時代前期前半（小谷式）の特徴を示し、竪穴建物跡の廃棄時期はこの頃と考えられる。

**S X 17（第31図～35図）** K 2区で、S I 08と並んで検出した。S X 17とS I 08は古代の土坑（S X 12・18）によって削平されていることから、両者の切り合いは不明である。

平面形は整備な方形で、S I 07及びS I 08とは異質な印象を受ける。土層の堆積状況からは、廃棄後の覆土と見られる軟質の黒褐色土が遺構全体を覆っており、この中から図示した遺物が出上している。基盤層では4本柱による上柱穴が認められた他、支柱穴より壁際に近いところでも深くしっかりとしたピットが5個確認された。支柱穴で囲まれた建物のほぼ中央部には浅く不整な中央ピットを確認した。覆土中からは土器、鉄器、石器などコンテナ4箱分の遺物が出土した。第34図1は長頸の鉄製鋤である。2は本来小型の鉄製鋤先であったと思われるが破損している。覆土中出土土器からS X 17の廃棄時期は古墳時代前期後半（小谷式）と考えられる。

#### **S I 09・S I 10（第21～30図）**

K 2区で検出し、一部調査区外へと広がっている。両者は切り合いが明確で、S I 10が古く、S I 09はこれの一部を壊して建てられた新しい竪穴建物跡である。S I 10は壁の立ち上がりがほとんど残存せず床面のみ検出、という遺存状況の悪さであったが、S I 09はより深いレベルまで竪穴が掘り込まれ床面が作り出されていたこともあり、遺存状況が良好であった。以下、それぞれについて述べる。

**S I 09（第22～27図）** 平面形は各辺が弧状を呈する隅円方形の竪穴建物跡で、西側が調査区外へと広がる。床面の造作が特徴的で、基盤層を掘り込んだ後、厚さ20～40cmの地山砂礫を斑状に含む褐色土を敷き、床面を作り出している。支柱穴は4本で、貼床した層の上面から掘り込まれている。貼床面では中央ピットの他、壁溝を壁と同様に緩い弧状を描き、隅が途切れる形で検出している。貼床層の下層は基盤層で、ここでは溝やピット様など不整形な掘り込みが認められるが建物跡を想定しうる配置の遺構ではない。その他竪穴の掘り込みの各辺に3～4個の小ピットを、また竪穴の掘り方から約1m離れた外周を廻るように約直径30cm深さ30cmのピットを検出した。出土遺物が乏しく、複数時期の遺構が混在する古志本郷遺跡の調査状況からこれらのピットを竪穴建物

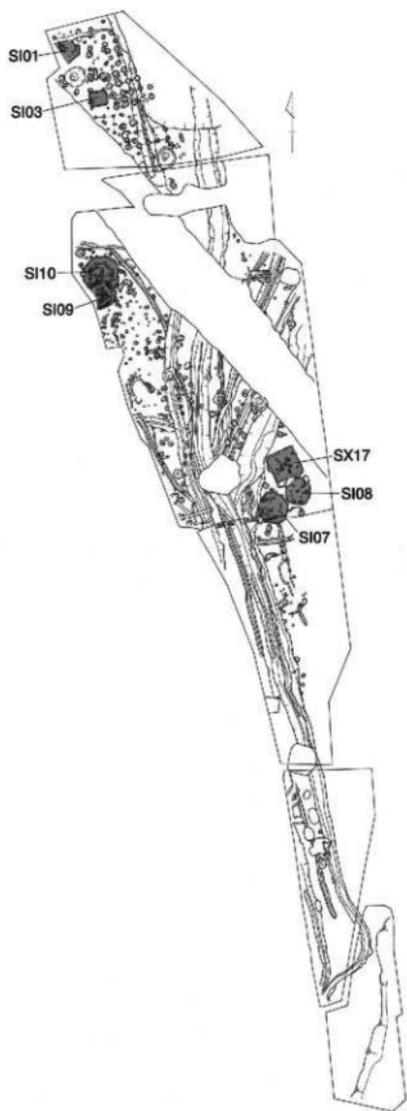
と積極的に関連付ける根拠に乏しいが、竪穴建物の上部構造物を推定する上で参考になろう。出土遺物は、貼床層中から古式土師器甕小片と見られる極小片土器が2個出土した以外は、貼床面を覆う軟質の暗褐色土から遺物が散在する状態で土器、石器、鉄器が出土した。

これらの土器から、S I 09の廃棄時期は弥生時代終末期から古墳時代前期初頭と考える。

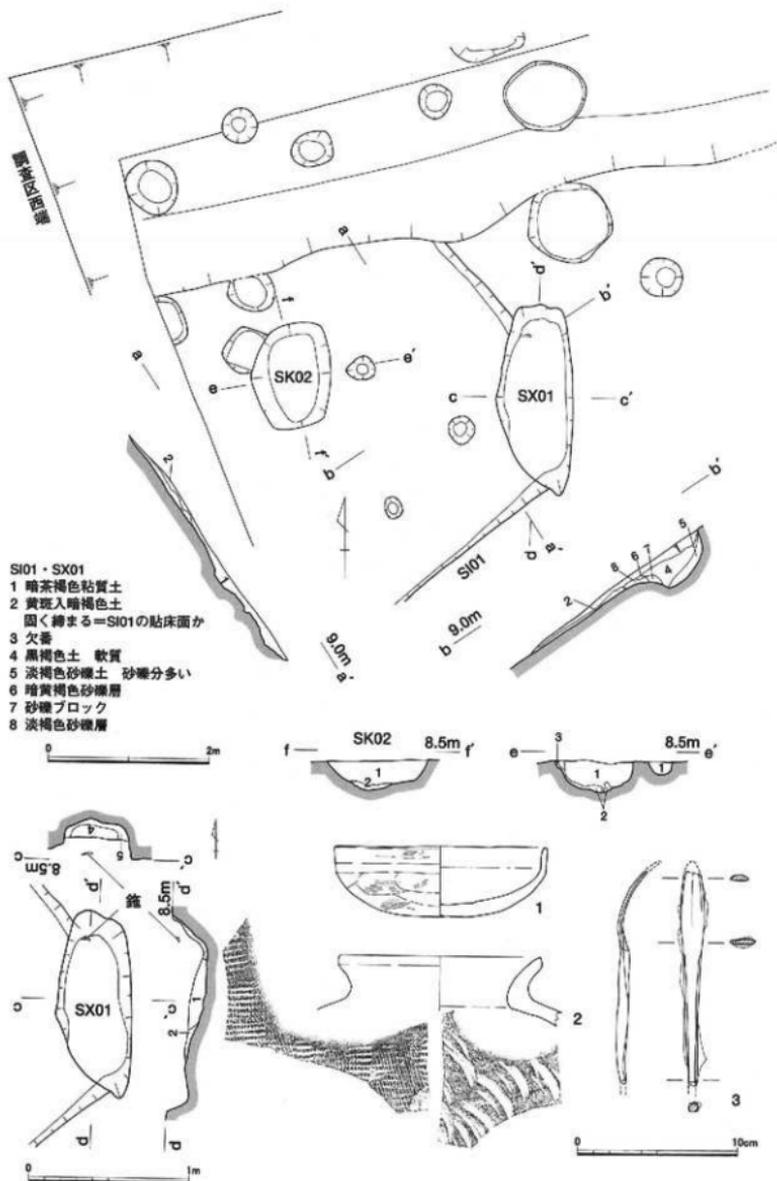
S I 10 (第28～30図) S I 09によって削平された遺存の非常に悪い状況で検出した。主柱穴様のピットと浅い不整形なピットの配置、弧を描く壁体溝縁の溝から竪穴建物跡を想定した。竪穴の掘り込みの残存はごく僅かで、辛うじて床面の溝や柱穴が残された状態であろう。このため、平面形は不明瞭である。ピットは主柱穴となる深いピットが検出された。深いピットの周囲を円形に囲む様に幅約1mの浅い溝が廻る。出土遺物は極くわずかで、浅い溝状の部分から弥生時代後期前半の土器が出土している。

第4表 古志本郷遺跡K区検出竪穴建物跡一覧

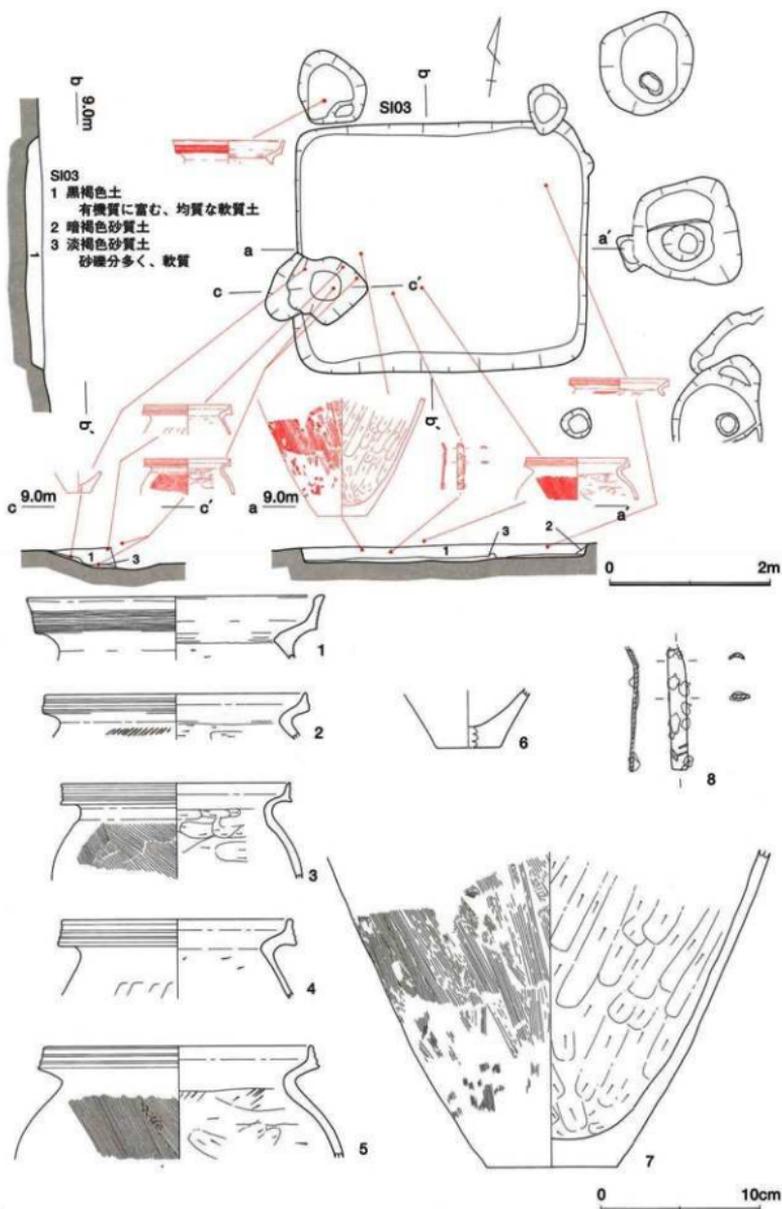
検出号	区	遺構の時期	遺構の種類	遺構の特徴	主な遺物	コンクリート	備考	
SI	1	K I	古墳後期	竪穴建物跡小	平面方形、貼床面上の上層内から露	須恵器、赤彩土師器、鏡1	1以下	SX01は掘り床面上から掘り込まれている
	3	K I	弥生中期末～弥生後期初め	竪穴建物跡小	平面方形、柱穴確認できず。上層から露生土器	赤彩土師器	1以下	
	7	K 2	弥生終末～古墳初期	竪穴建物跡	平面形多角形か、窪地跡の遺構と考えられ	古式土師器、鉄器、不定形鉄器	3	SIX39はこの遺跡上見。
	8	K 2	弥生終末～古墳初期	竪穴建物跡	平面四角方形、上層から古式土師器山上	古式土師器、鉄器、不定形鉄器	3	
	9	K 2	弥生終末～古墳初期	竪穴建物跡	平面四角方形、貼床あり、掘り床下層にピットなどあり	古式土師器、鉄器、不定形鉄器、石器	4	
	10	K 2	弥生後期前半	竪穴建物跡	上部掘平のため詳細不明、平面形円形	赤彩土師器小片	1以下	
SX	17	K 2	古墳時代前期後半	竪穴建物跡	平面形方形、上層より古式土師器、鉄器	古式土師器、鉄器、不明鉄器、石器	4	



第11图 K区竖穴建物跡配置图 (S=1/1,000)

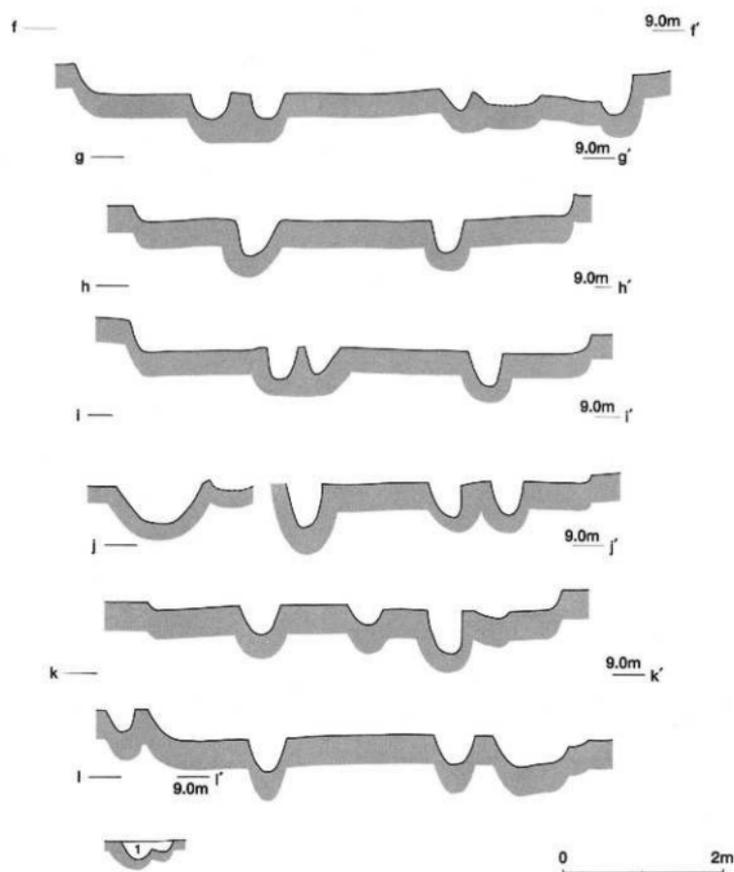


第12図 SI01、SX01、SK02遺構図 (S=1/60、SX01のみS=1/30) および出土遺物 (S=1/3)

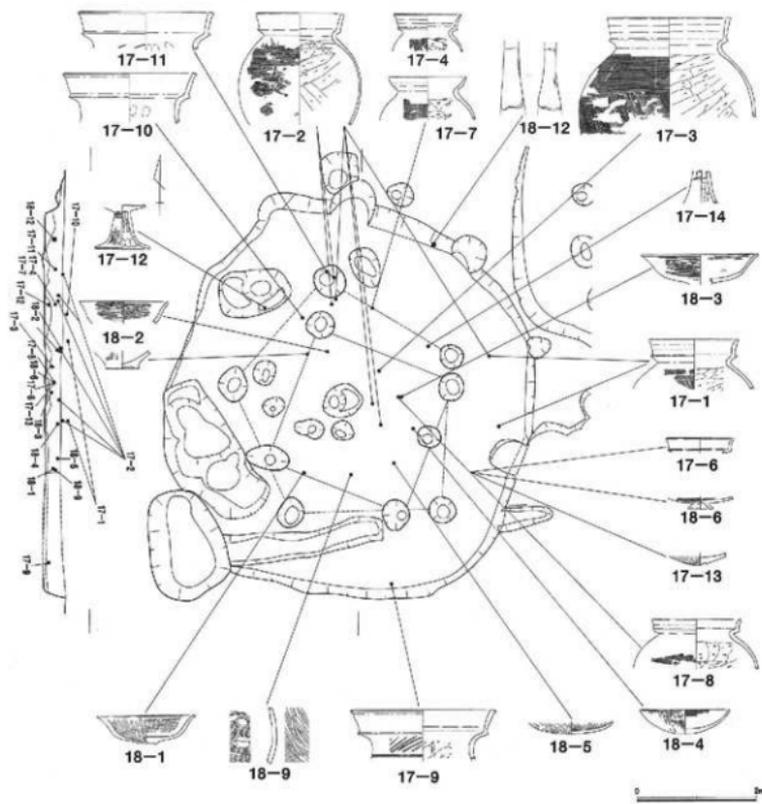


第13図 SI03遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)

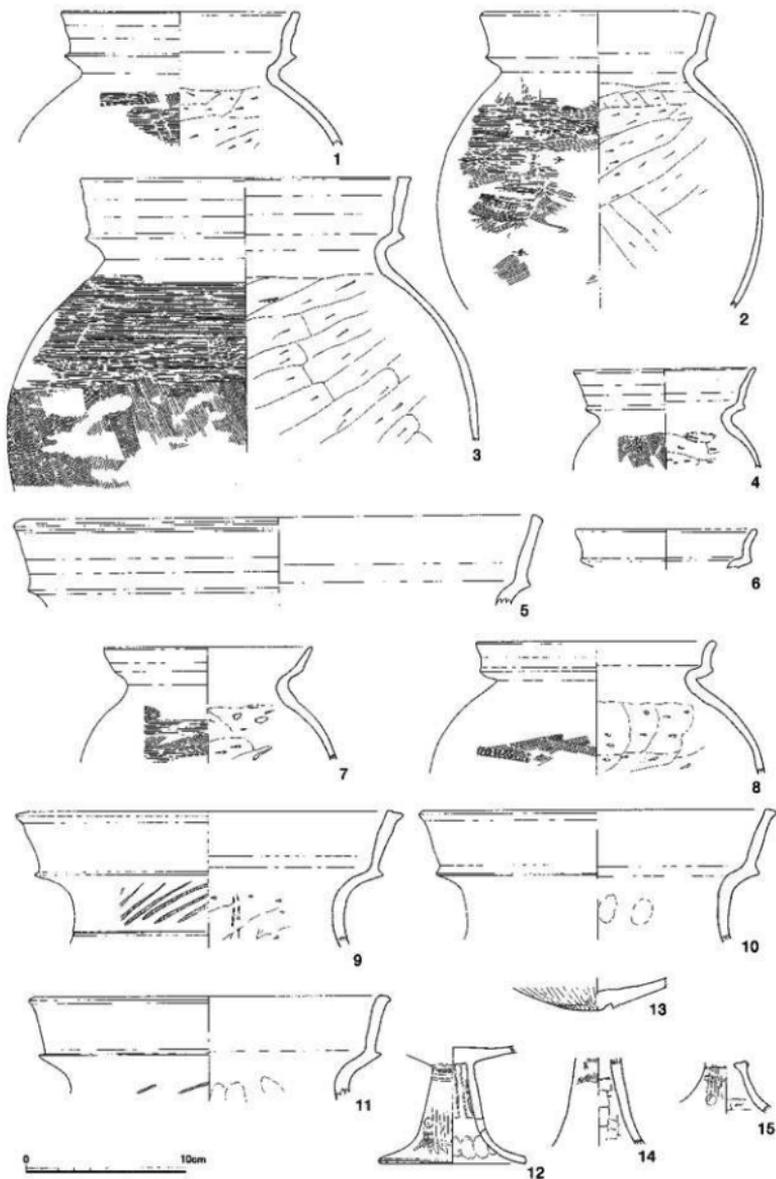




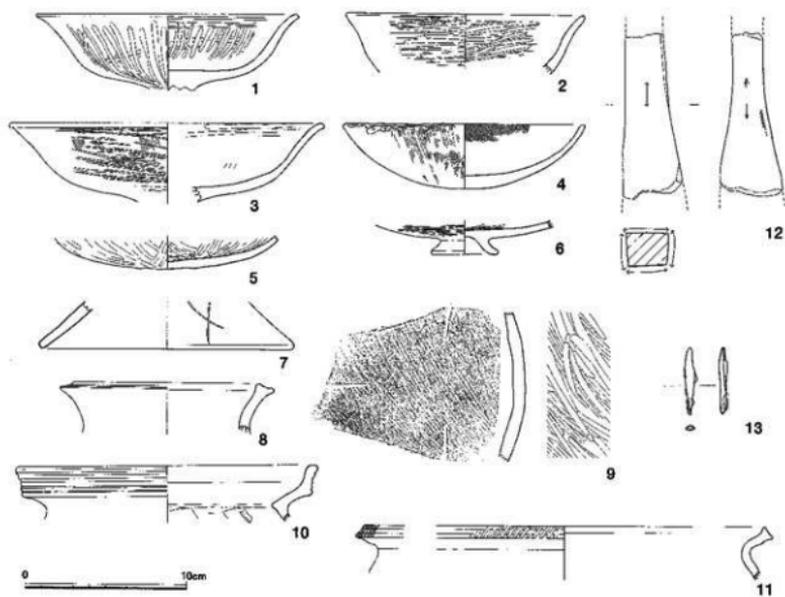
第15図 SI07遺構図② (S=1/60)



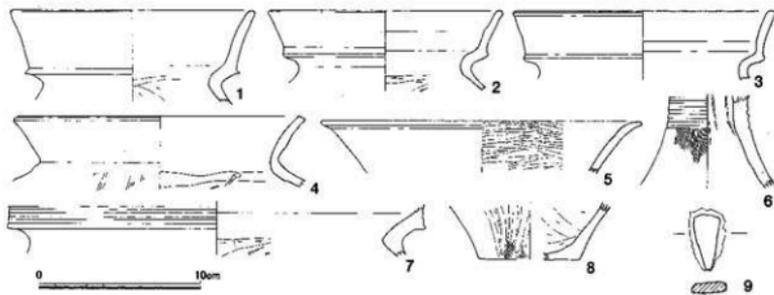
第16图 SI07遺物出土状況 (S=1/80)



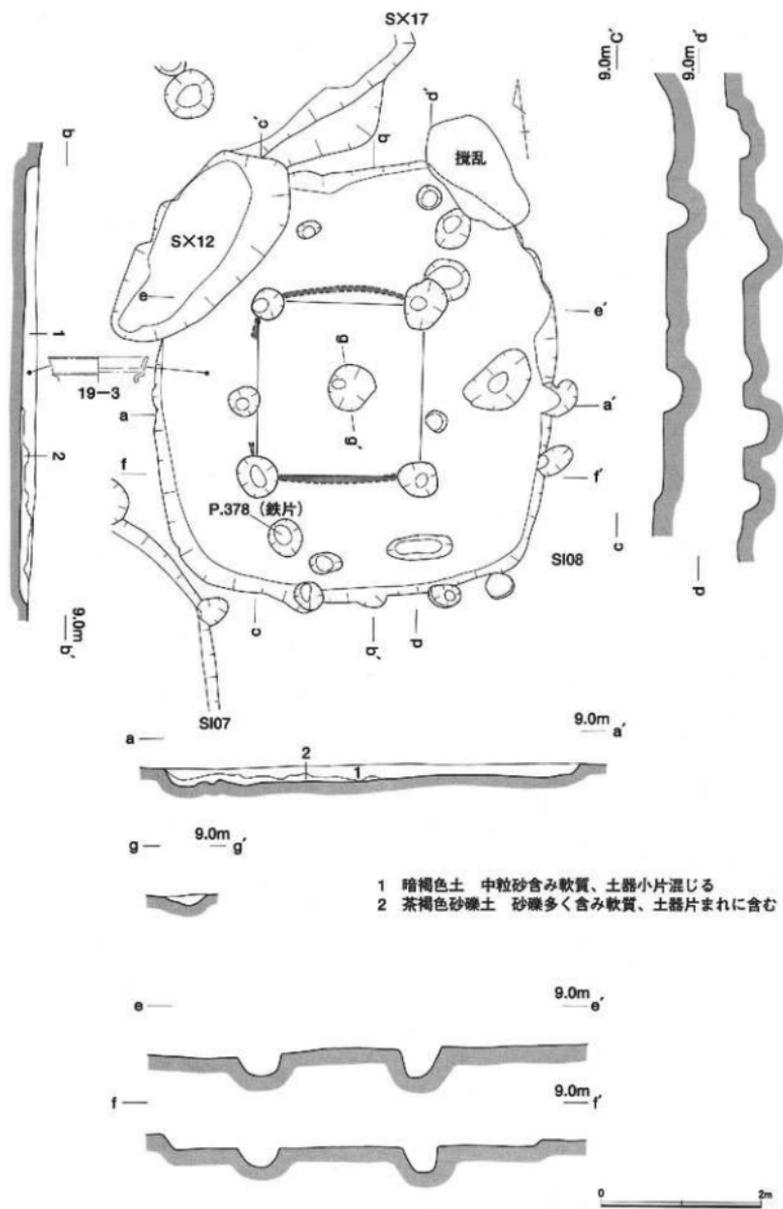
第17图 SI07出土遺物 1 (S=1/3)



第18图 SI07出土遺物 2 (S=1/3)

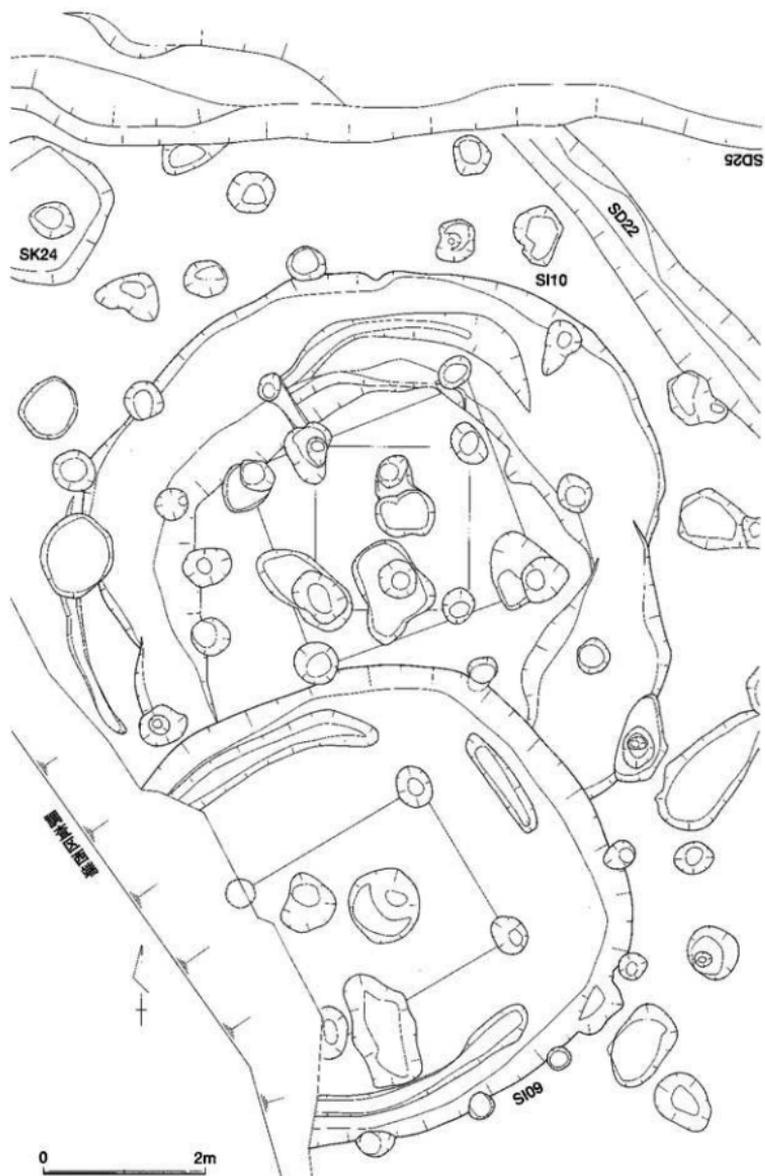


第19图 SI08出土遺物 (S=1/3)

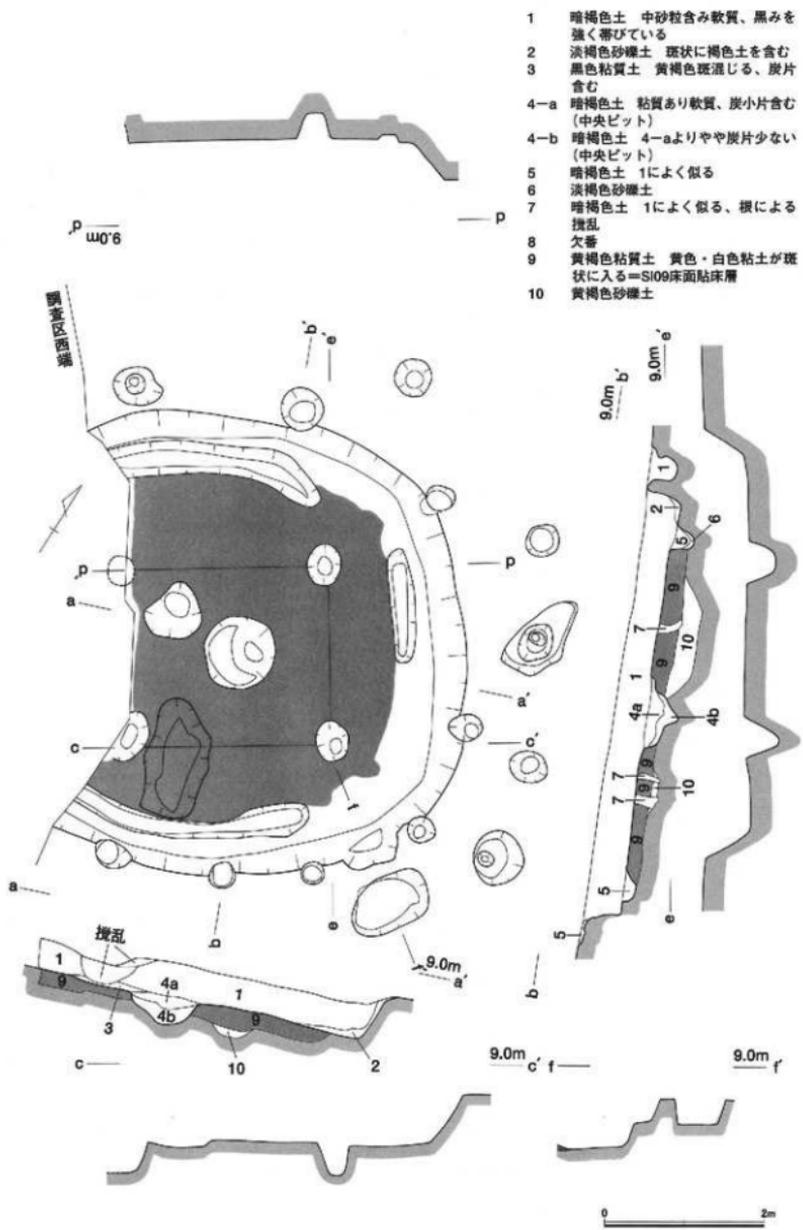


- 1 暗褐色土 中粒砂含み軟質、土器小片混じる
- 2 茶褐色砂礫土 砂礫多く含み軟質、土器片まれに含む

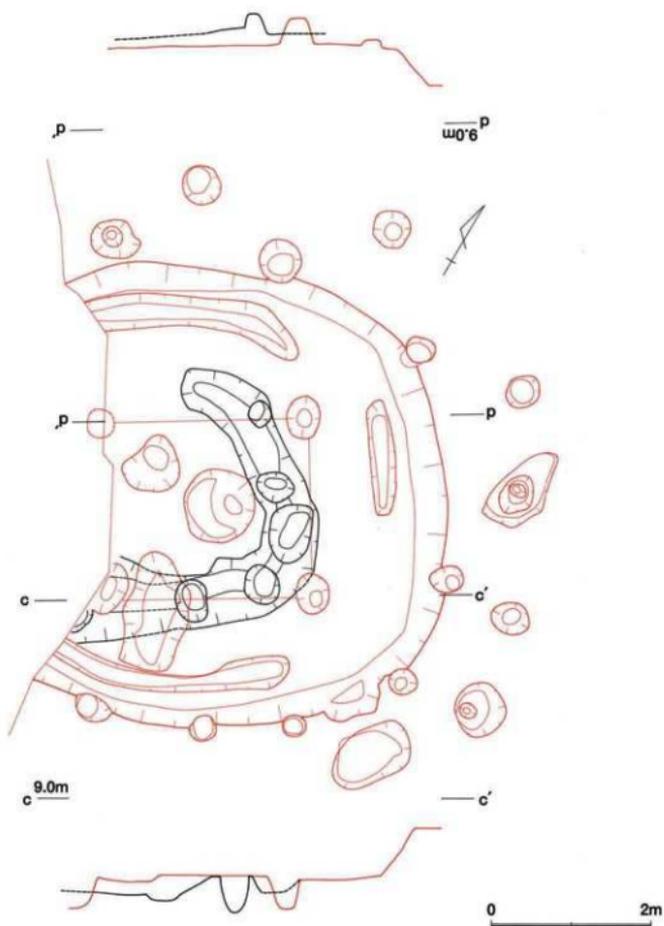
第20図 SI08遺構図 (S=1/60)



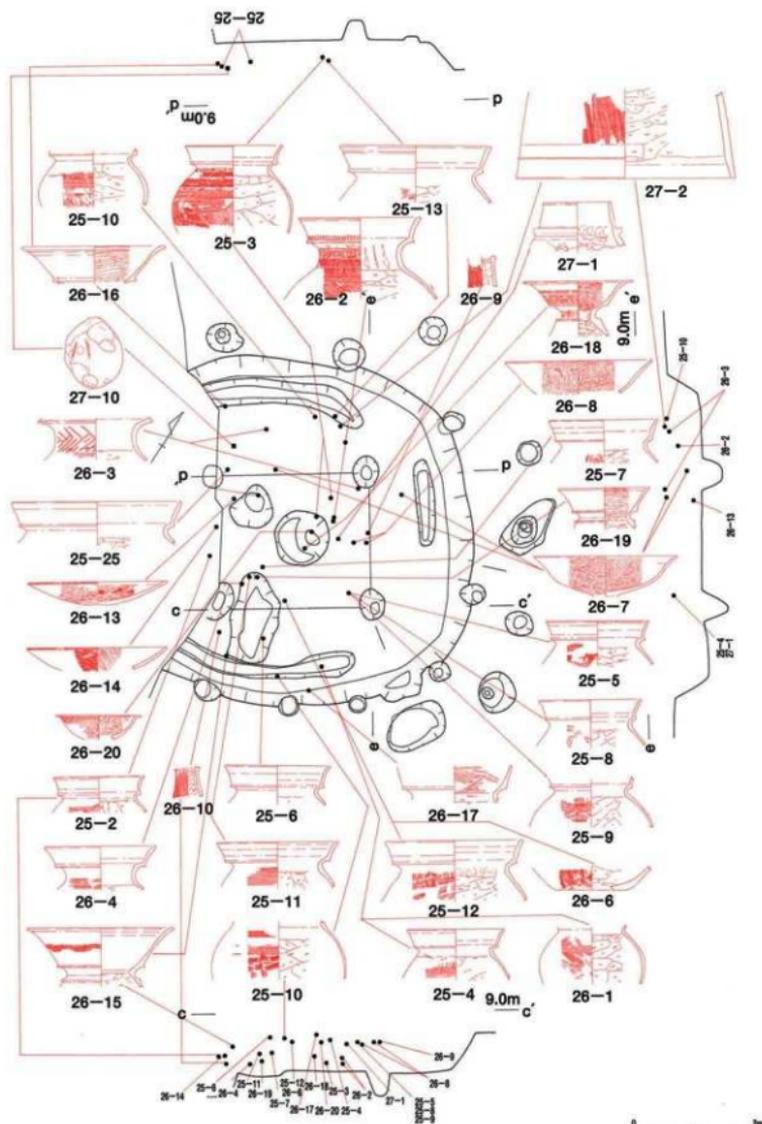
第21图 SI09·SI10完掘平面图 (S=1/60)



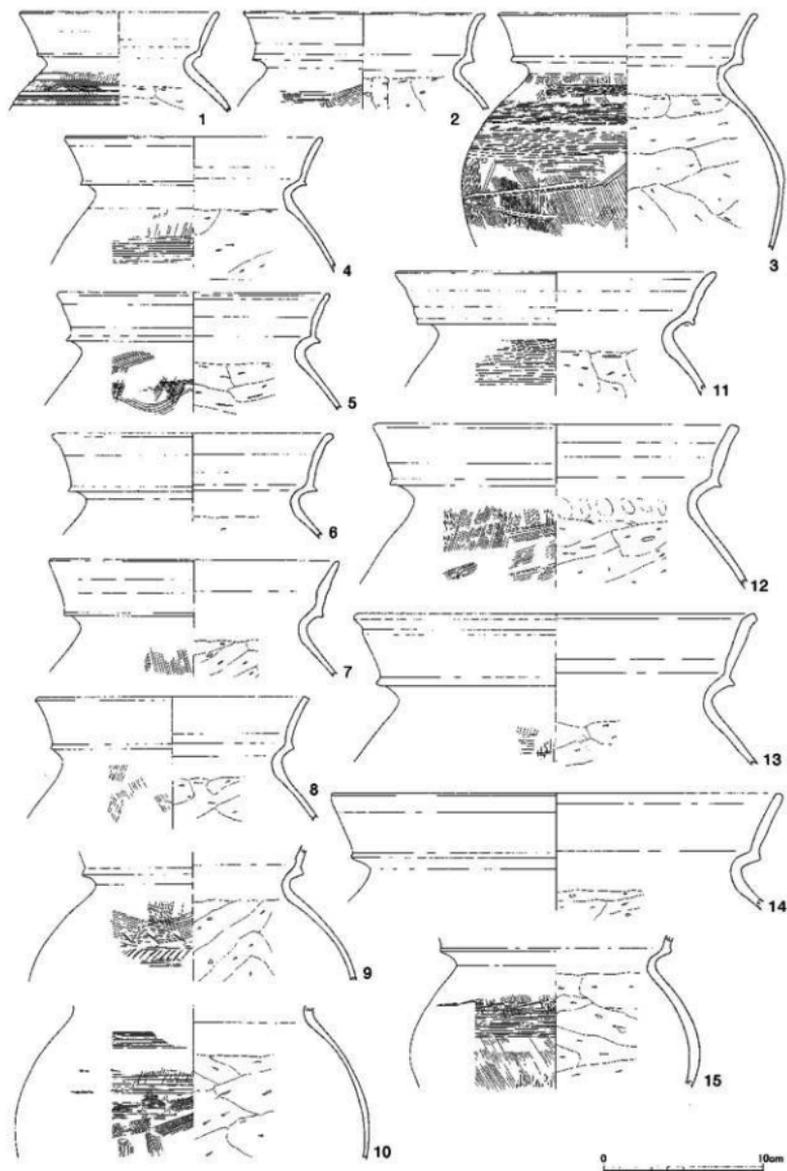
第22図 SI09遺構図 (S=1/60)



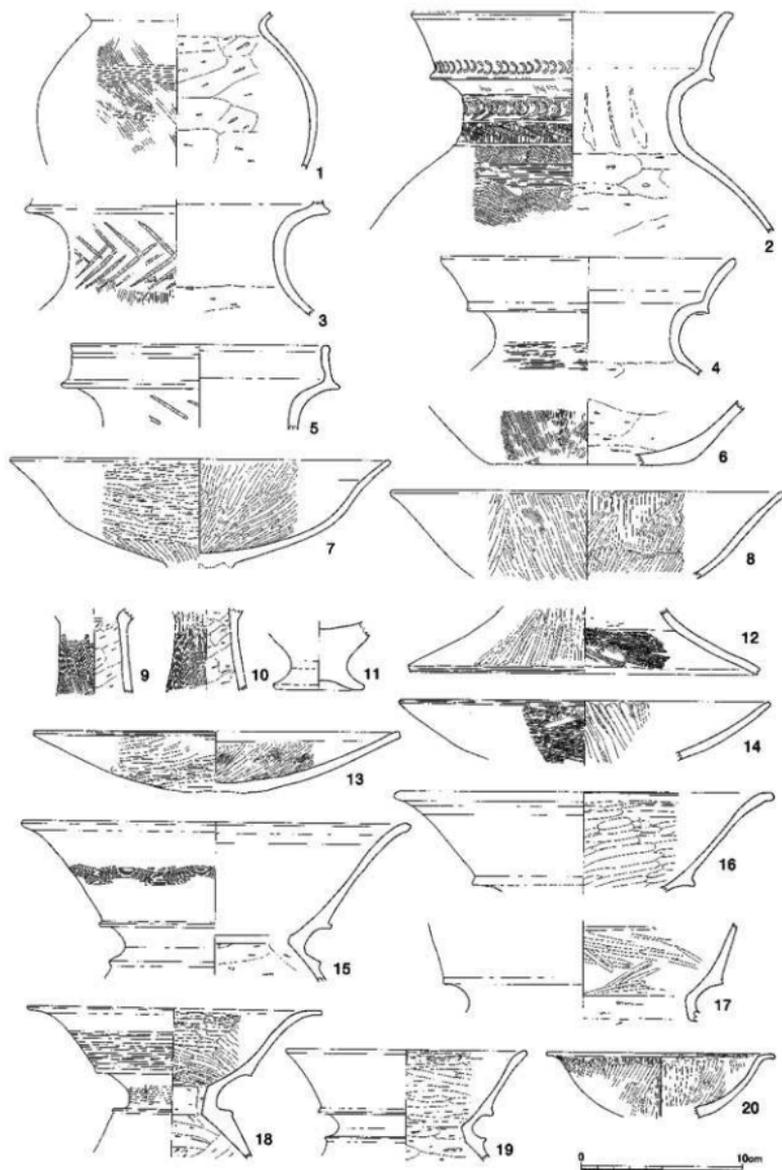
第23図 SI09貼床下層検出遺構図 (S=1/60)  
 (赤色：貼床上面、黒色：貼床下層検出遺構)



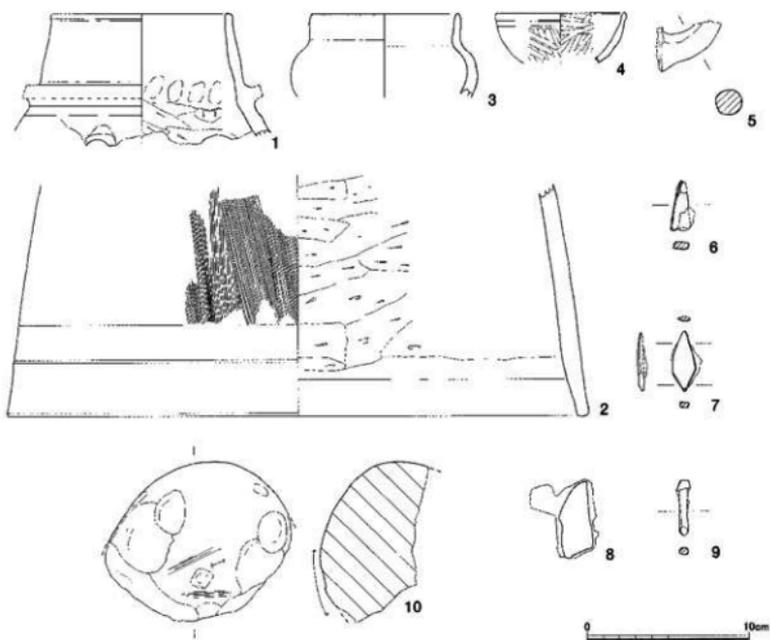
第24图 SI09遺物出土状況 (S=1/80)



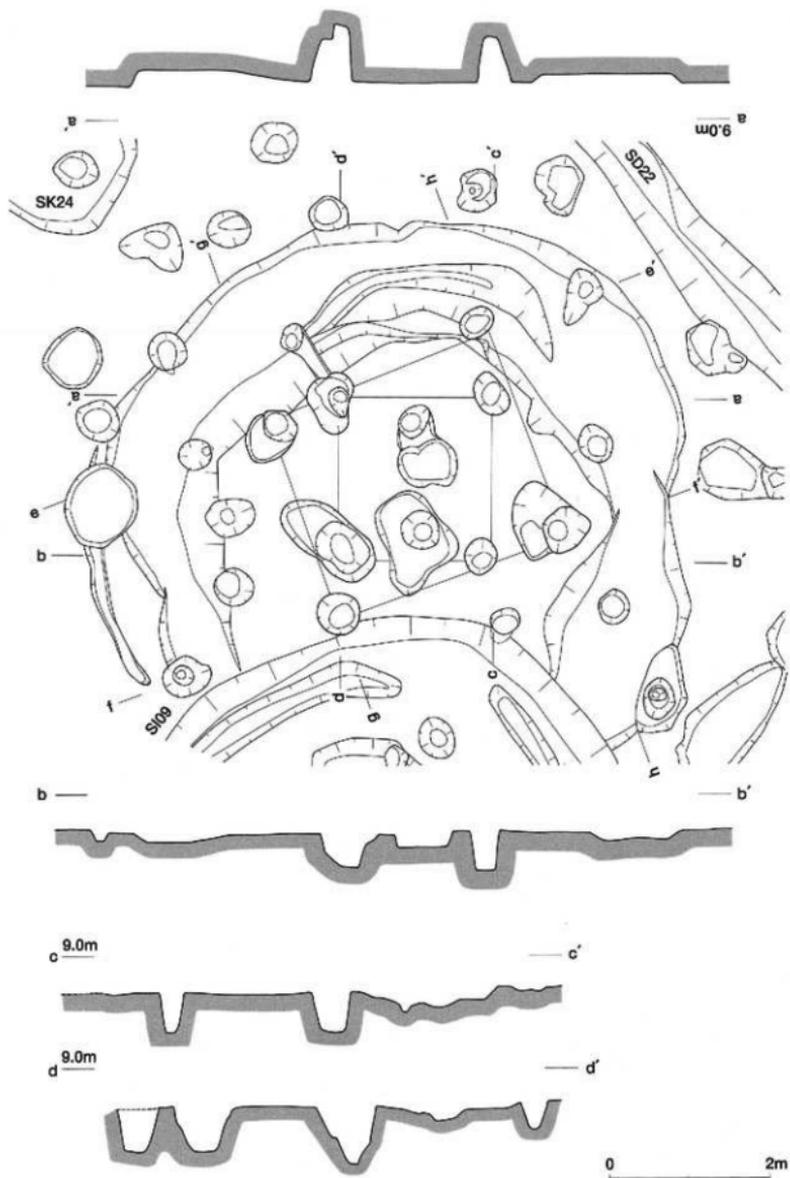
第25図 SI09出土遺物 1 (S=1/3)



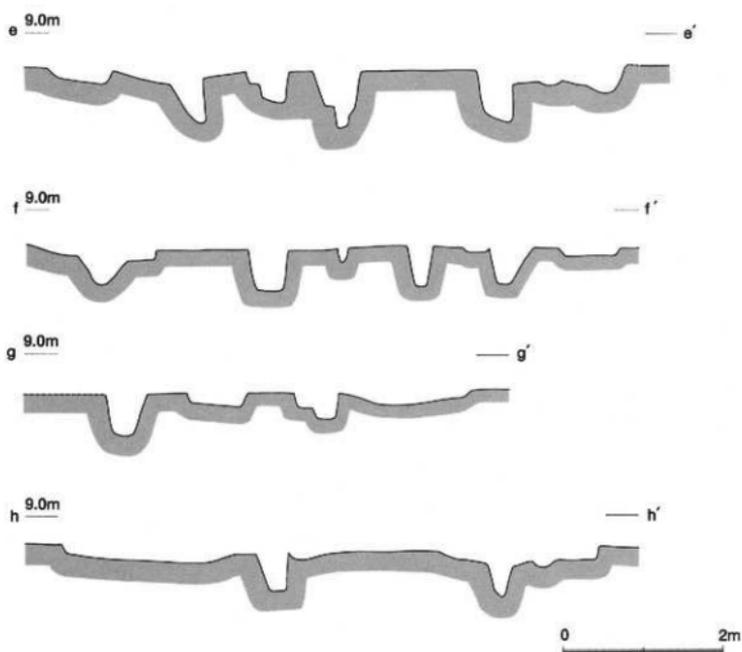
第26图 SI09出土遺物 2 (S=1/3)



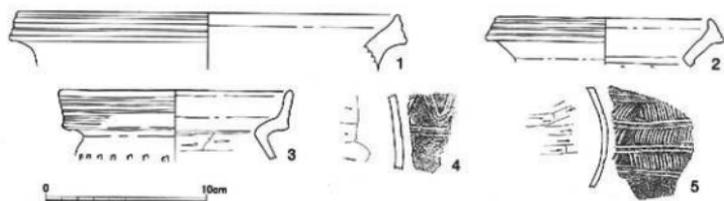
第27図 SI09出土遺物 3 (S=1/3)



第28図 S10遺構図① (S=1/60)

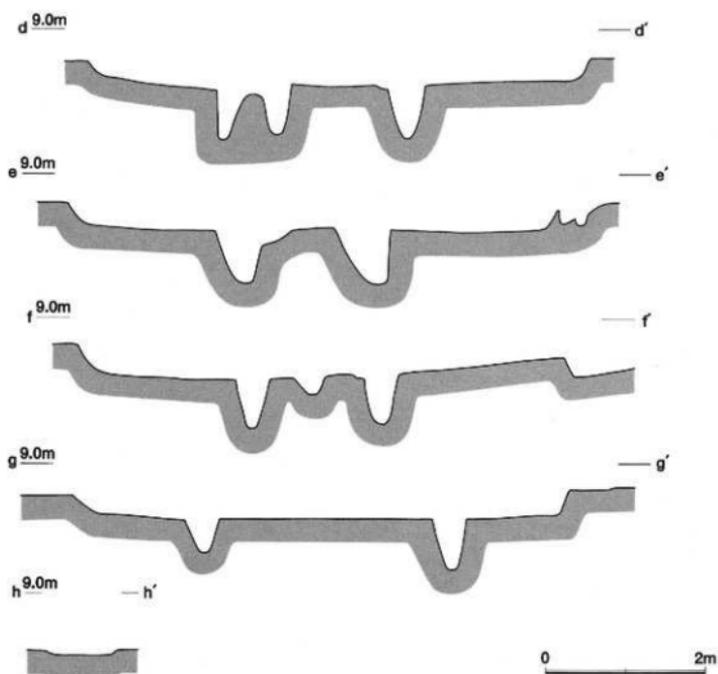


第29図 SI10遺構図② (S=1/60)

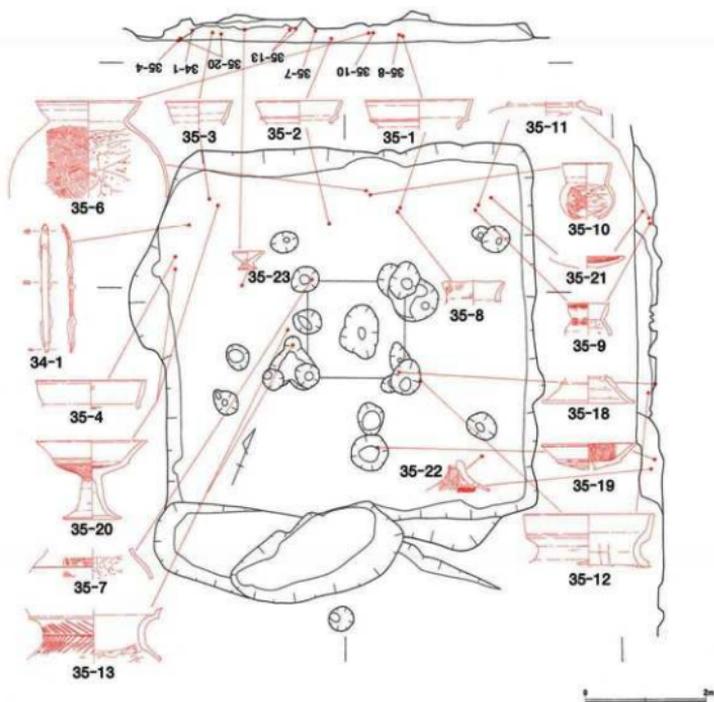


第30図 SI10出土遺物 (S=1/3)

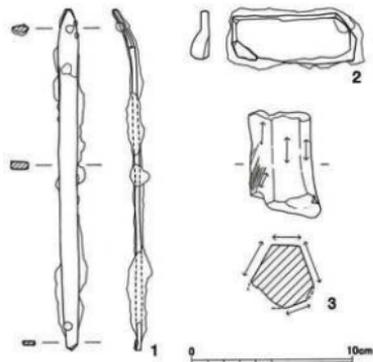




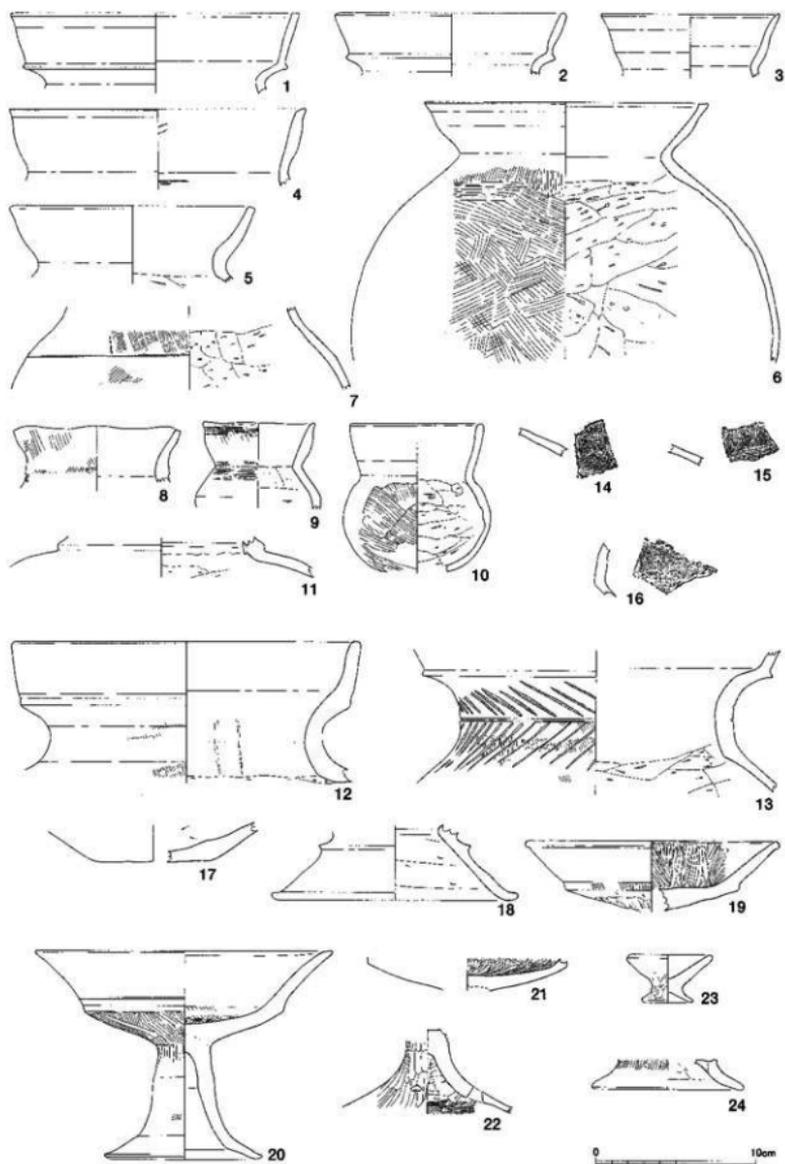
第32図 SX17遺構図② (S=1/60)



第33圖 SX17遺物出土狀況 (S=1/80)



第34圖 SX17出土遺物 1 (S=1/3)



第35图 SX17出土遺物 2 (S=1/3)

## 4 節 掘立柱建物跡・柵跡

7棟の掘立柱建物跡と柵跡を検出した。挿図は遺構ごとに表の順に掲載した(第37～48図)。詳細は第5表に替え、以下若干の所見を述べる。

### SB01 (第37～38図)

KI区で検出した二間二間の総柱建物跡である。建物の主軸は東北から17度西方向へ振っている。推測される柱心々の距離は東西方向が短く南北方向が約10～20cm程度長い。建物自体が南北方向に60cm程度長い。最も西側の柱穴列は中世以降の削平(SD04・05)を大きく受けており、柱穴の底の部分はずかんに検出できたのみであった。建物跡の規模は、K区で検出した建物跡の中では大きいものである。各柱穴の掘り方は、平面形が不整な楕円形で、小ビットが取り付け、二段掘り状を呈するものと素掘りものの両者がある。柱穴の規模は直径80cm～1m深さ約80cmとK区で検出した柱穴の中では大型のものである。土層観察からは、明瞭な柱根を捉えることはできなかったが、柱穴の底面に約20cmの小ビットが検出できるものがあり、柱の直径や柱心々の距離を推定するのに示唆的である。北側の柱穴の1ヶ所では、主柱穴に取り付いた小ビットからほぼ方形の手捏ね土器が1点出土した。出土遺物は非常に少なく、全てのビットを併せて2箱に満たない。ほとんどが土師器の甕、甕の小片である。わずかに出土した須恵器には高台を有する器種(非図化小片)や端部が内湾するやや大型の鉢と思われるものが含まれること、また高台を有する畿内系土師器が含まれることより、遺構の時期は古代のものと考えられる。

なお、第9図包含層出土遺物2の7・8の古代布目痕瓦はC19グリッド出土であり、また16の鹿角装又は骨装の柄の月子はD19グリッドのSB01付近からの出土である。

### SB02・SB03 (第39図)

SB02は、KI区で検出した。弥生時代大溝がほぼ中央を通過しているため重複する部分では柱穴の確認が困難であったが、弥生時代大溝に伴う土器列がこの周辺だけ途切れること、土層の観察で若干の差異が認められることから柱穴が存在する可能性が高いと考えられる。第39図4は古墳時代から古代に類例の見られる紡錘車型石製品である。また北西部分は中世以降の削平を受けていることから検出ができなかった。SB02は柱間一・二間で個々の柱穴は小型である。建物は東西方向に長く、建物の方向はSB01に近い。SB03はSB02の北側の柱穴を指す。調査時にはSB02とは異なる建物を想定したが、SB02と一連のものである可能性が高い。これらの柱穴からはコンテナ1箱に満たない少量の遺物が出土した。多くは図化不可能な土師器小片である。これらの遺構の時期は、不明瞭であるが、出土遺物の土師器がSB01と似ていることから、古代のものと考えることが妥当であろう。

### SB04 (第40～41図)

KI区、SB01の北で検出した。東側の柱穴列が弥生時代大溝SD03と重複し、北側は中世以降の溝状遺構SD02によって削平されていることから検出が困難であった。規模は柱間一・二間以上の建物であろう。出土遺物はビニール1袋が出土し、ほとんどが土師器小片であり、時期決定が困

難である。建物の軸方向がS B01に近いことからS B01と近い時期であろうとの推測ができる。

#### S B05 (第40～41図)

K I区で検出した。南西側を近世の溝状遺構S D01に削平されていることから建物の規模は不明。遺物は全く出土していない。K区で検出した掘立柱建物跡の中では個々の柱穴の規模が小さく、柱穴内部の堆積土も異なること、K I区の他のS Bが建物の軸方向に近いのに対しS B05はやや方向が異なること、遺物の出土状況が異なることなどから、S B05はS B01～S B04とは異なる時期であることが推定される。

#### S B10・S A01 (第43～47図)

K 2区で検出した。S B10は調査区外の西へ続いており、柱間二間一間のみ検出した。S A01はS B10と軸方向がほぼ同一で真北方向に合う柱穴列である。当初は両者が同一の建物跡かと認識していたが、柱穴内部の堆積土が異なることと柱穴配置が若干ずれることから別の遺構と判断した。

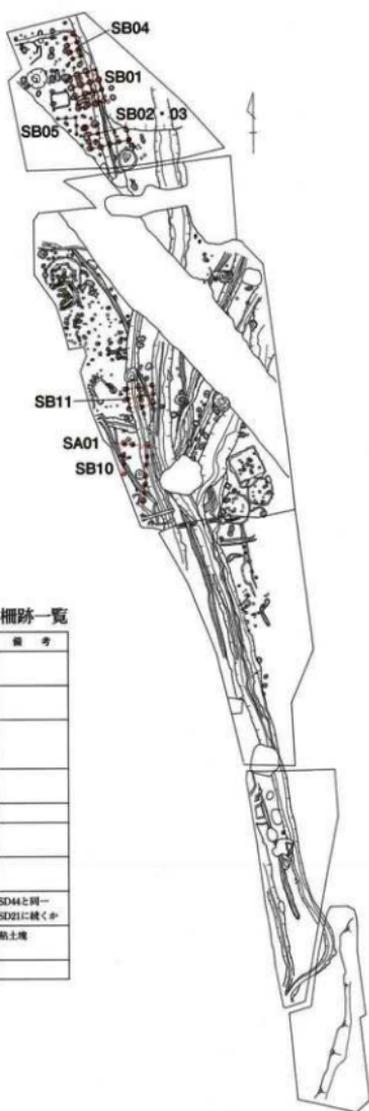
S B10は調査区壁際で柱穴を確認しているが、柱間二間一間の部分のみである。柱穴の掘り方は不整形な楕円形で一部二段掘りになっている。内部には軟質の暗茶褐色土が堆積している。

S A01はS B10と方向がほぼ同じ柱穴列で、南北方向に7個の柱穴を確認している。南端は直線的につながる場所にS K20があり、S K20とS A01の深さや形態などが異なることから、連続するものではないと考えられる。S A01の柱穴列はここで終わるかまたは西側へ方向を変えて調査区外へ広がっている可能性もある。S A01の個々の柱穴の堆積上を見ると柱穴の一部に直径20cm弱の橙色粘土塊が堆積している。

遺物は柱穴からはコンテナ1箱に満たない土師器・須恵器片が出土しているが年代の推定は困難である。また、S A01の北東隅ではほぼ完形の土師器甕三個体が並んで出土し、土師器高坏の脚部が甕と隣接して出土した。

#### S B11 (第48図)

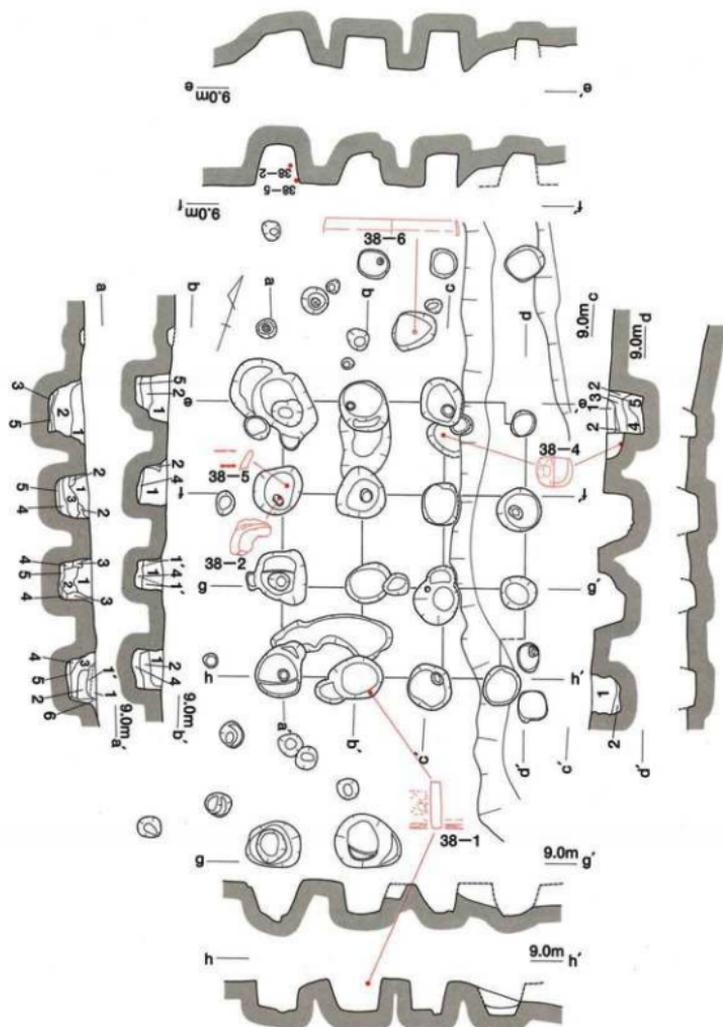
K 2区で検出した。建物の軸方向を真北から11度西偏した二間二間の総柱建物跡である。柱穴は弥生時代の溝状遺構や中世の土坑など複数時期の遺構と重なっている。柱穴は規模がK区で検出した中では比較的大きいものである。遺物は柱穴の堆積上中から小片でビニール1袋と少量出土している。出土遺物には、出雲4期の須恵器坏が出土しており、S B11の時期はこれ以降であると言えるが詳細な年代の推定は困難である。



第5表 古志本郷遺跡K区検出掘立柱建物跡・柵跡一覧

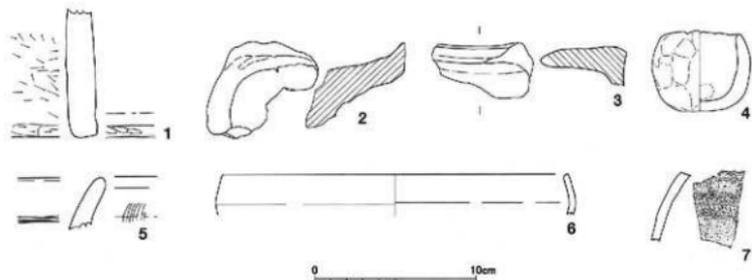
略記号	区	遺構の時期	遺構の種類	遺構の特徴	主な遺物	コナシ数	備考	
SB	1	K1	古代	掘立柱建物跡	三間三間の掘立柱建物跡	土師器、須恵器、手捏ね土器	2	
	2	K1	古代	掘立柱建物跡	二間四間の掘立柱建物跡	土師器、須恵器	1	
	3	K1	×	掘立柱建物跡か	一間二間か	土師器、須恵器、手捏ね土器、中近世土師器	1以下	
	4	K1	不明	掘立柱建物跡	二間三間の掘立柱建物跡	中近世土師器	1以下	
	5	K1	不明	掘立柱建物跡	二間二間以上	なし	0	
10	K2	古代	掘立柱建物跡	一間四間以上	土師器、須恵器、赤彩土師器	1以下		
	11	K2	古代?	掘立柱建物跡	二間二間	中近世土師器、土師器、須恵器	1以下	
SA	1	K2	古代	柵列	SB10の外側を囲む柵跡	須恵器、赤彩土師器	1	SD44と同ーSD21に続くか
SX	7	K2	不明 (古代か)	不明				粘土塊
DT	2	K2	古代	土器溜まり	遺構未検出	土師器、須恵器	4	

第36図 K区掘立柱建物跡・柵跡配置図 (S=1/1,000)

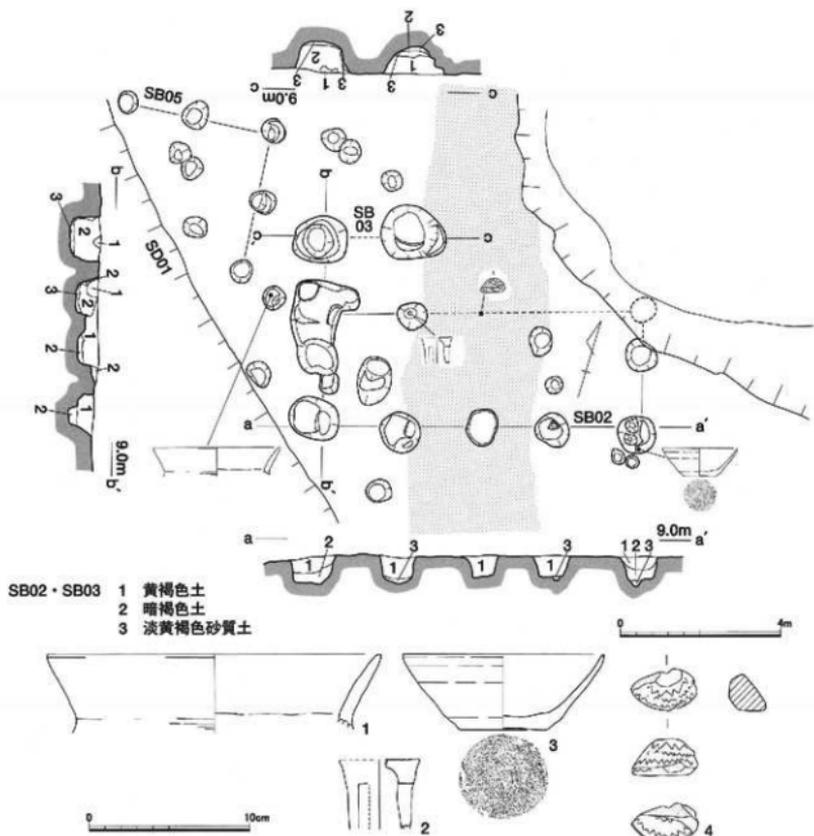


- |  |  |
|--|--|
| <p>1 暗褐色土<br/>2 淡茶褐色砂質土<br/>3 黒褐色砂質土<br/>4 淡黄褐色砂質土<br/>5 黒色粘質土</p> | <p>軟質で均質、1'は1より黒み強い<br/>固く締まった砂質土、希に地山砂礫塊ブロック状に混入<br/>地山砂礫塊を含み軟質、有機分多い<br/>軟質<br/>砂礫少ない有機質土、水分多い</p> |
|--|--|

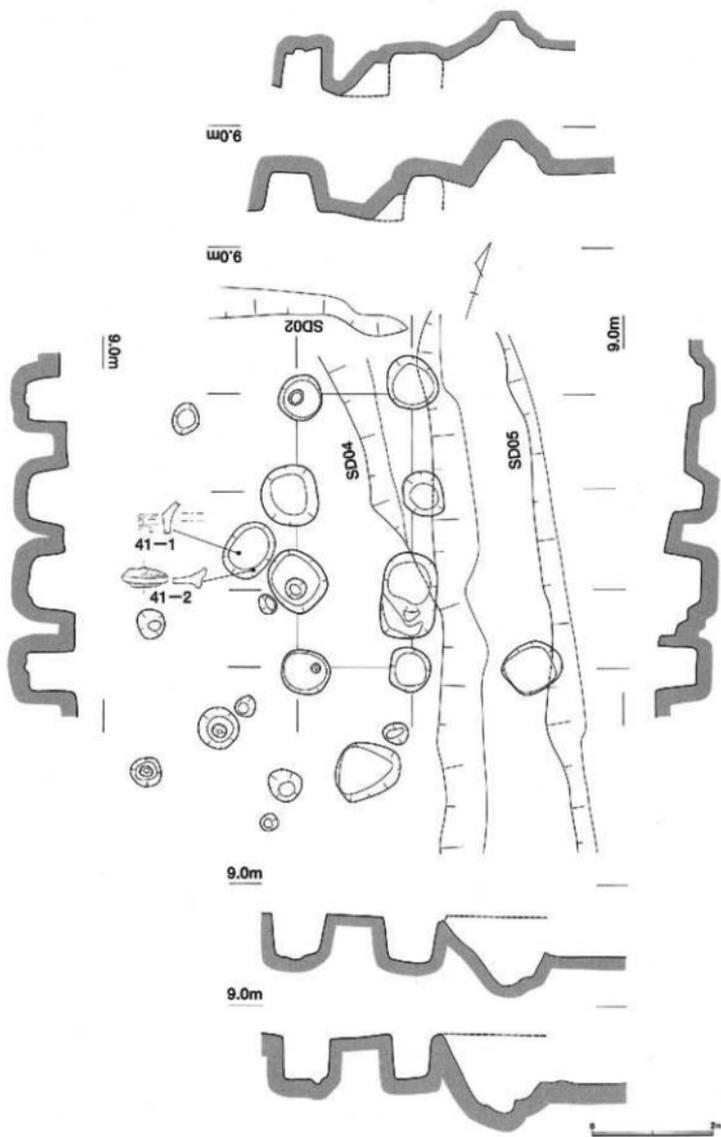
第37図 SB01遺構図および遺物出土状況 (S=1/120)



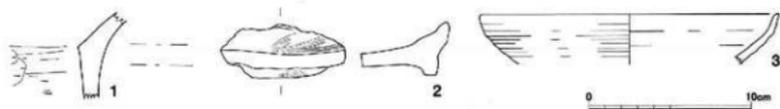
第38図 SB01出土遺物 (S=1/3)



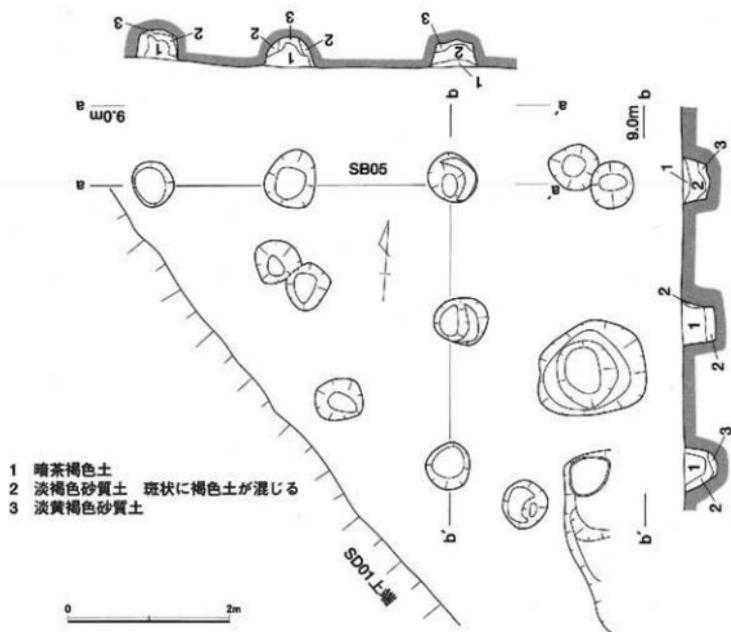
第39図 SB02、SB03遺構図 (S=1/120) および出土遺物 (S=1/3)



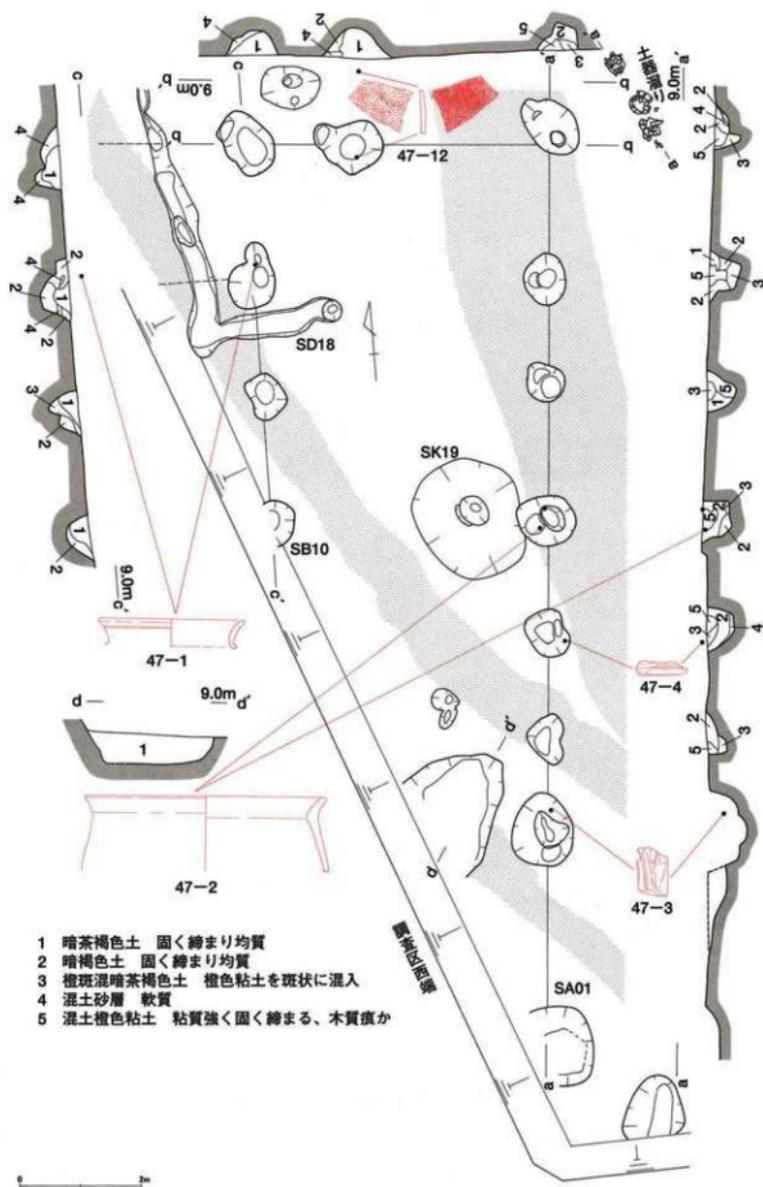
第40図 SB04遺構図および遺物出土状況 (S=1/80)



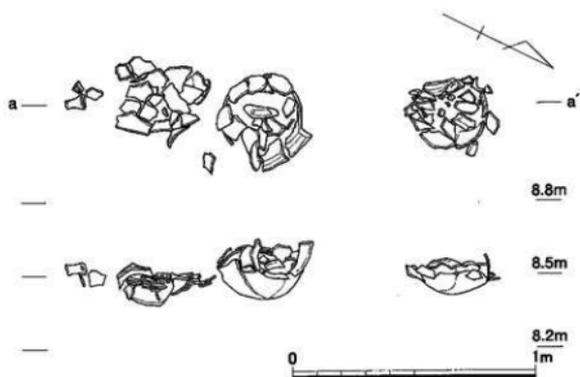
第41図 SB04出土遺物 (S=1/3)



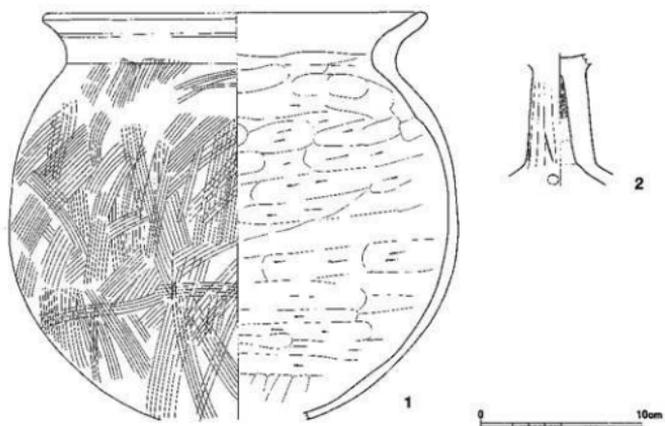
第42図 SB05遺構図 (S=1/60)



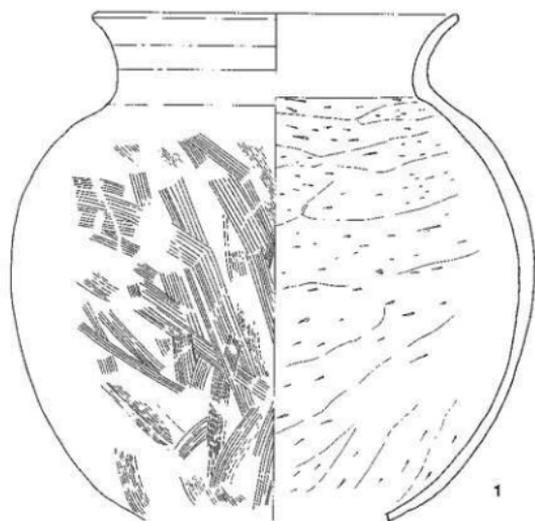
第43図 SB10、SA01遺構図および遺物出土状況 (S=1/80)



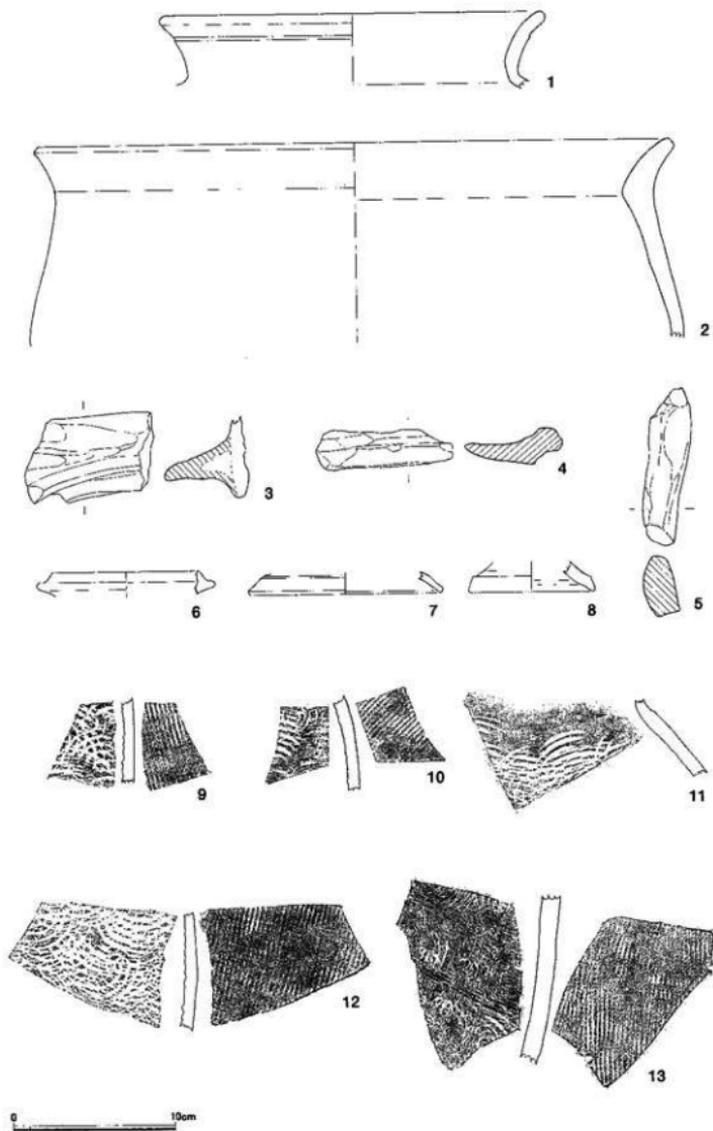
第44図 SB10、SA01北東隅土器溜まり出土状況 (S=1/20)



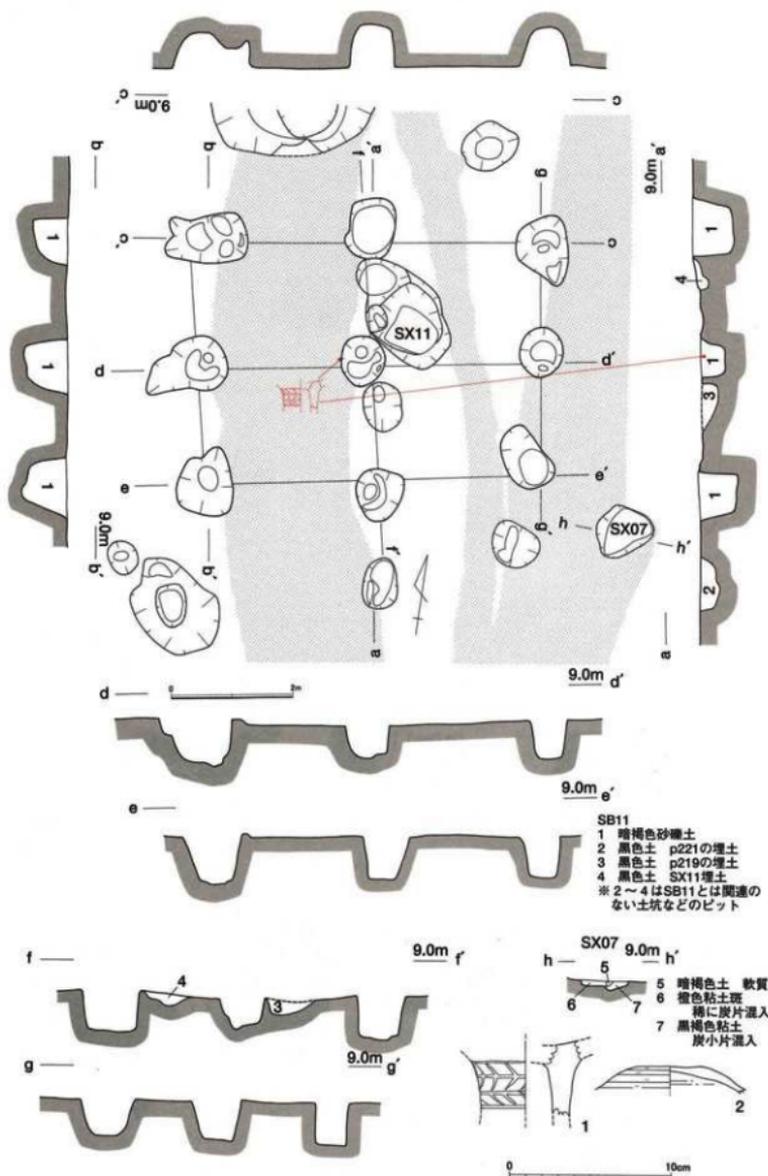
第45図 SB10、SA01北東隅土器溜まり出土遺物 1 (S=1/3)



第46図 SB10、SA01北東陶土器溜まり出土遺物2 (S=1/3)



第47図 SB10、SA01出土遺物 (S=1/3)



第48図 SB11、SX07、SX11遺構図 (S=1/80) および出土遺物 (S=1/3)

## 5節 井戸跡

井戸跡と思われる遺構は、平面形直径2mを超える円形ないし不整円形の掘り方を有し、石製又は木製の井側を検出した遺構、もしくは井側の検出が予想された遺構である。K区では7個検出した。詳細は第6表に替え、若干の補足を以下に述べる。

**S E 01 (第50図)** 直径約4mの掘り方を有し、遺構検出面から1.2m程下部まで掘り下げたところ、方形の黒色シルト状の堆積土が確認された。以下は湧水が著しく井側を検出することなく調査を終了した。古志本郷遺跡の他の調査区での井戸跡調査例を参考にすると、S E 01の検出面下1.2m付近までは井戸廃棄時の埋土で、黒色シルト層が井戸使用時の井側内堆積土の最上面であると考えられる。遺物は、遺構検出面で出土した焼成後底部穿孔の土師器環(第51図7)と、黒色シルト層から出土した土師器小皿がほぼ完形である以外は土師器・瓦質土器・陶磁器小片がほとんどで、ビニール袋2袋分がある。遺構の時期は、完形の土師器類を井戸廃棄時のものと見て、井戸の廃棄時期は概ね中世後半13世紀末から14世紀代と考えられる<sup>(1)</sup>。

**S E 02 (第52図)** 直径約4mの掘り方を有し、検出面から1m程下層までは廃棄時の擾乱がおよんでいる。湧水が著しく井側を検出できずに調査を終了したが、S E 01と同様に黒色シルト層を検出し、井戸跡と判断した。遺物はすべて破片の状態ビニール1袋が出土している。出土層位は井戸廃棄後の埋土層からで、これらの時期からS E 02の廃棄時期は井戸の廃棄時期は概ね中世後半13世紀末から14世紀代と考えられる<sup>(1)</sup>。

**S E 03・04 (第53図)** 詳細な遺構実測図を掲載できないが、木製井側(S E 04)を壊して石組み井側を有する井戸(S E 04)を作っている。出土遺物は、第53図のように備前焼陶器、同安窯系青磁、中国銭貨「皇宋通宝」を含む陶磁器片などの遺物がビニール1袋出土している。S E 03・04の時期は中世後半概ね13世紀末から14世紀代と考えられよう。

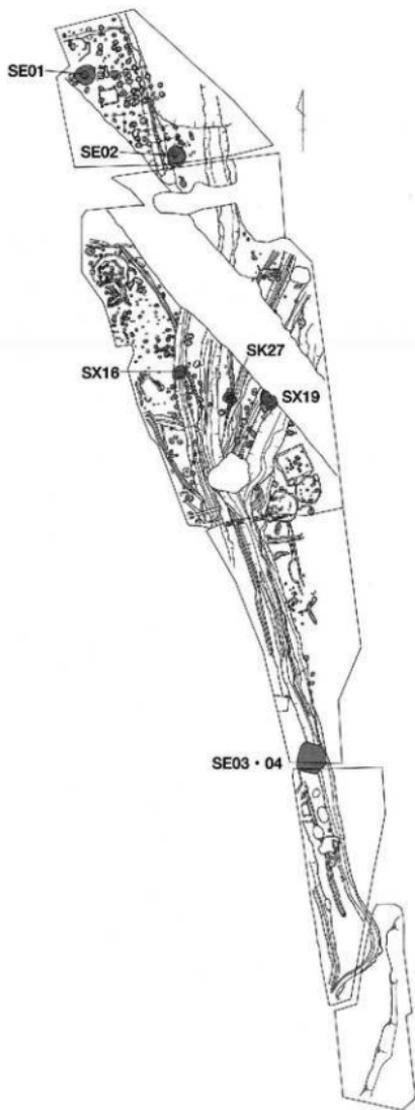
**S X 16 (第55図)** S D 21と重複していたが埋土が粘質の強い黒褐色上でS D 21の埋土とは異なっていたため検出は容易であった。湧水が著しく井側は検出できていないが、遺構の形状から井戸跡と判断した。遺物は土師器破片などがビニール2袋出土している。出土遺物からS X 16の時期は概ね中世後半13世紀末から14世紀代と考えられる。

**S X 19 (第56～57図)** 一部を近世溝跡S D 01に削平され、弥生時代大溝と重複して検出した。不整円形の掘り方を有し、遺構検出面より約2m下層で木製の井側の一部と見られる4本の木柱杭を検出した。S X 19の検出面から木製井側を検出するまでは廃棄時の埋土であると見られ、この中から人頭大の石の集積が認められた。遺物は廃棄時の埋土層からコンテナ1箱が出土している。これらからS X 19の廃棄時期概ね中世後半13世紀末から14世紀代と考えられる。

**S K 27 (第58図)** 湧水のため井側は検出していないが形状から井戸跡と推定される。出土遺物は僅かで、S K 27の時期は概ね中世後半13世紀末から14世紀代と考えられる。

### 註

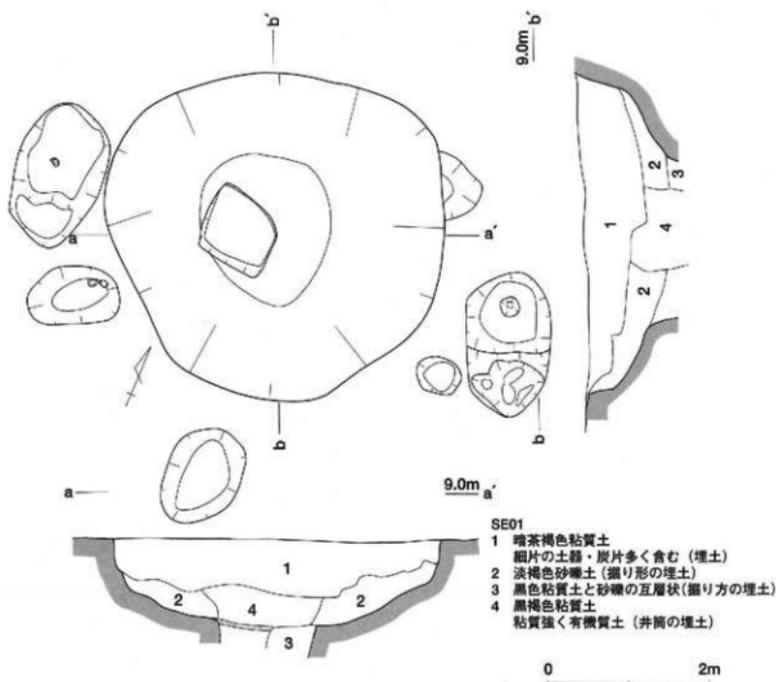
(1) 中近世土師器をもとに年代を決めた。中近世土師器の年代については「古志本郷遺跡」1999を参考にした。



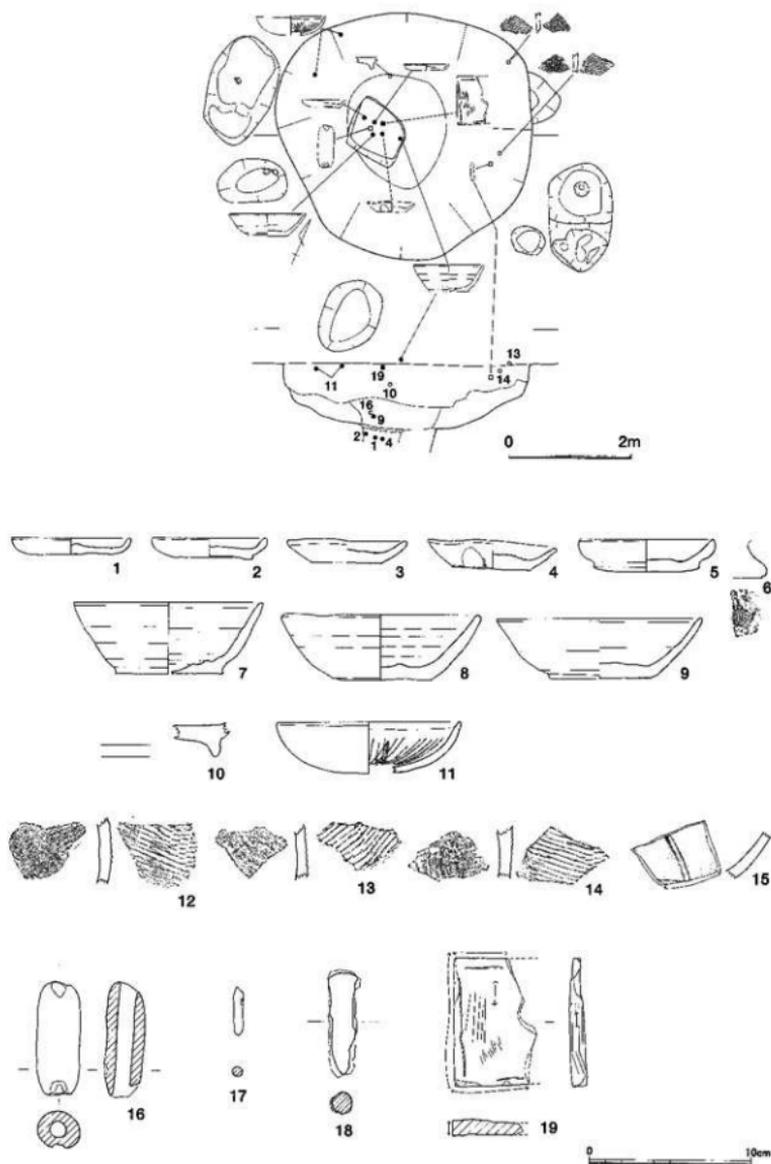
第49图 K区井戸跡配置图 (S=1/1,000)

第6表 古志本郷遺跡K区検出井戸跡一覧

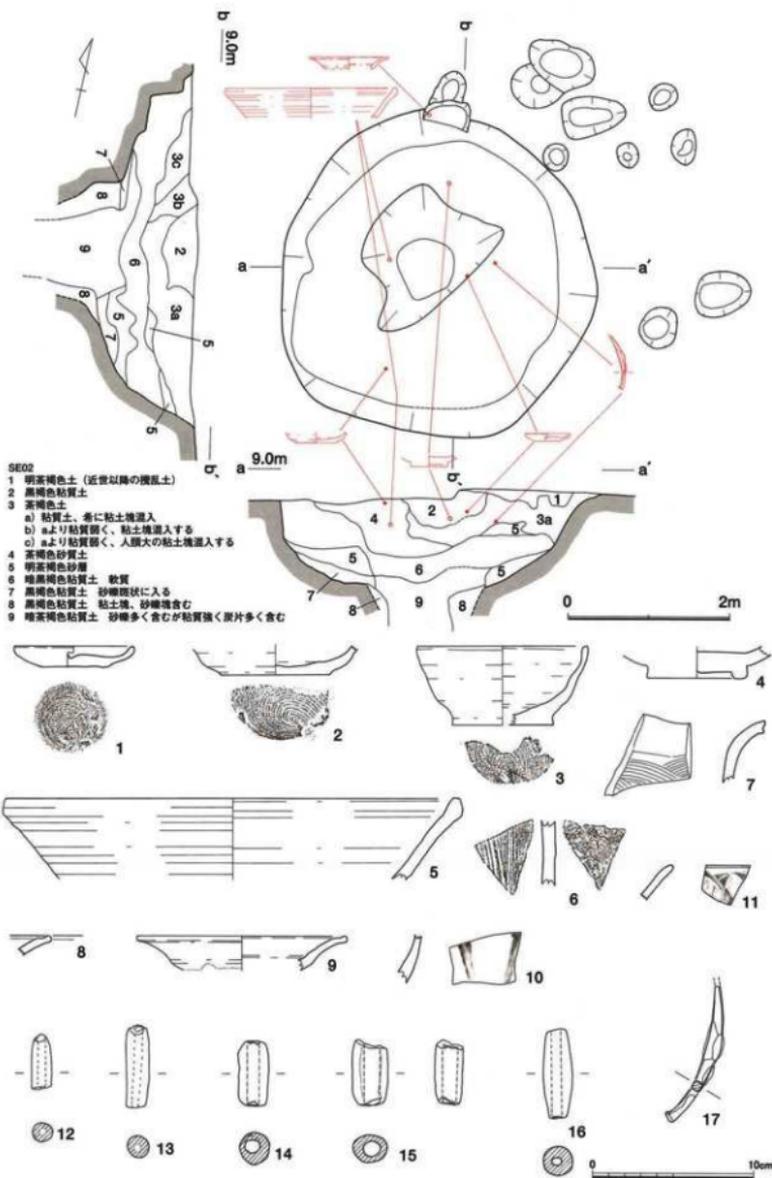
検出区	区	遺構の時期	遺構の種類	遺構の特徴	主な遺物	コナリ数	備考	
SE	1	K1	井戸	木組円筒井戸	中近世土師器、陶磁器、土師など	1		
	2	K1	中世	井戸	木組円筒井戸	中近世土師器、陶磁器、土師など	2	
	3	K2	中世	井戸	石組円筒井戸	中近世土師器、陶磁器、土師、古銭	1以下	SE041SE030の掘り直し
	4	K2	中世	井戸	木組円筒井戸	古銭など	1以下	SE001SE04の遺
SK	1	K1	近代以降	不明土坑	土師器、近代陶磁器	1以下		
	16	K2	中世	井戸	木組円筒井戸か	中近世遺物	1以下	
	19	K2	中世	井戸	木組円筒井戸	中世土師器、土師器、須磨器、鉄砲	1	
SK	27	K2	中世	井戸	木組円筒か	中近世遺物	1以下	



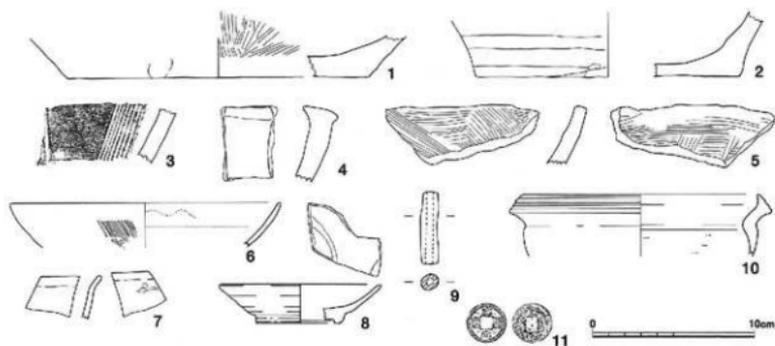
第50図 SE01遺構図 (S=1/60)



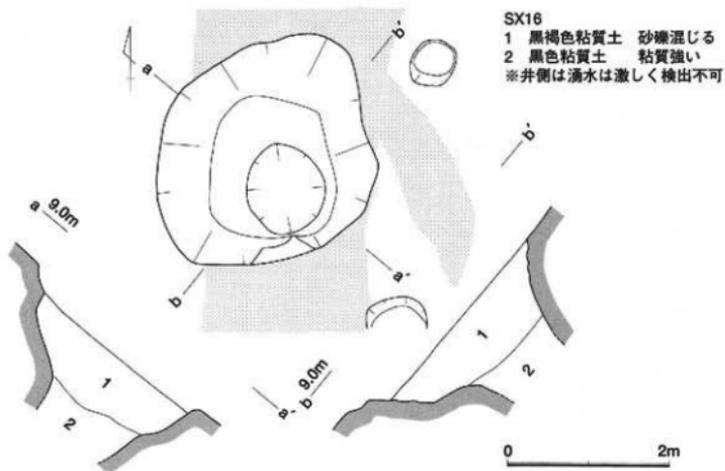
第51図 SE01遺物出土状況 (S=1/80) および出土遺物 (S=1/3)



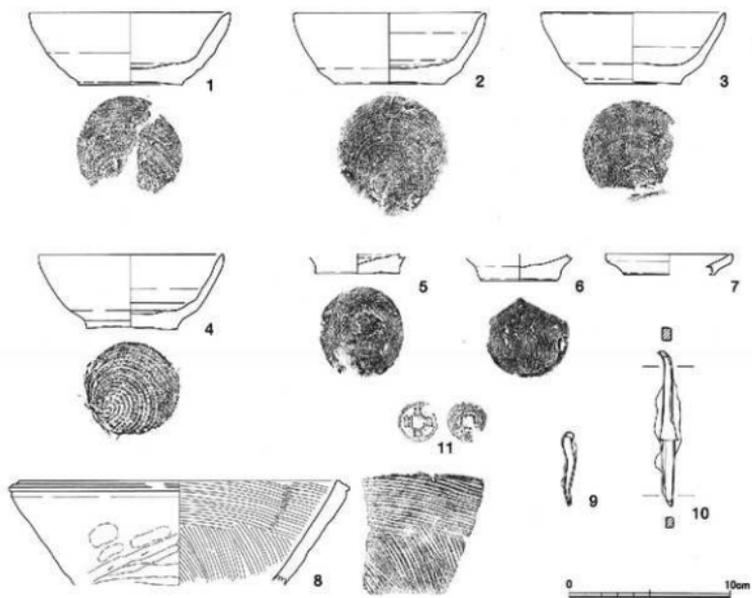
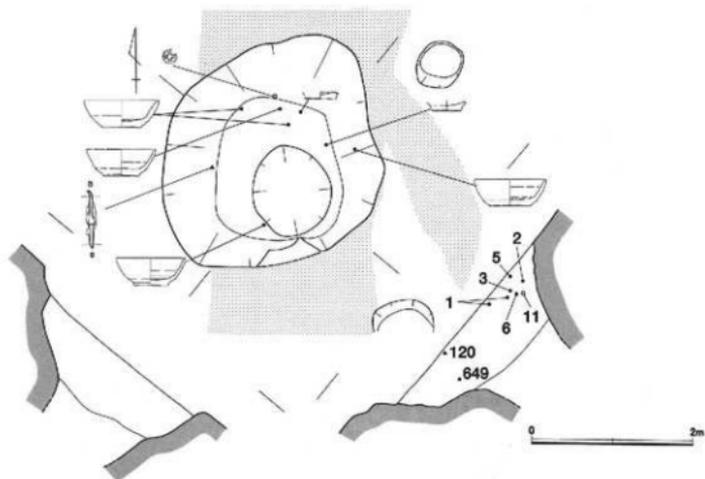
第52図 SE02遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)



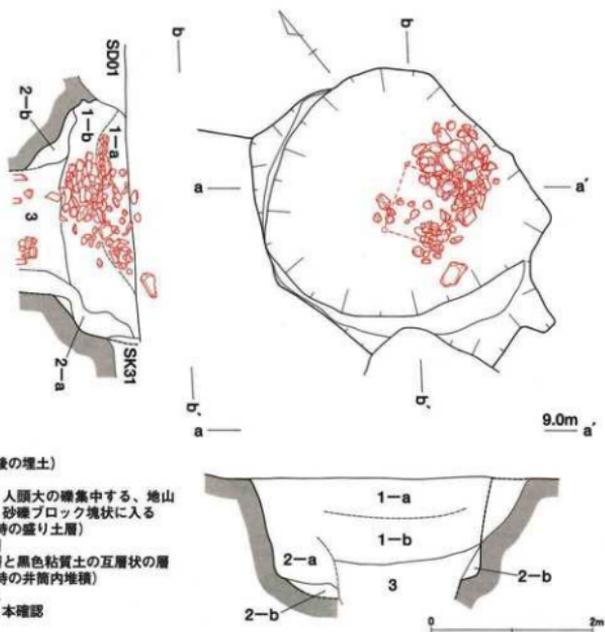
第53図 SE03・04出土遺物 (S=1/3)



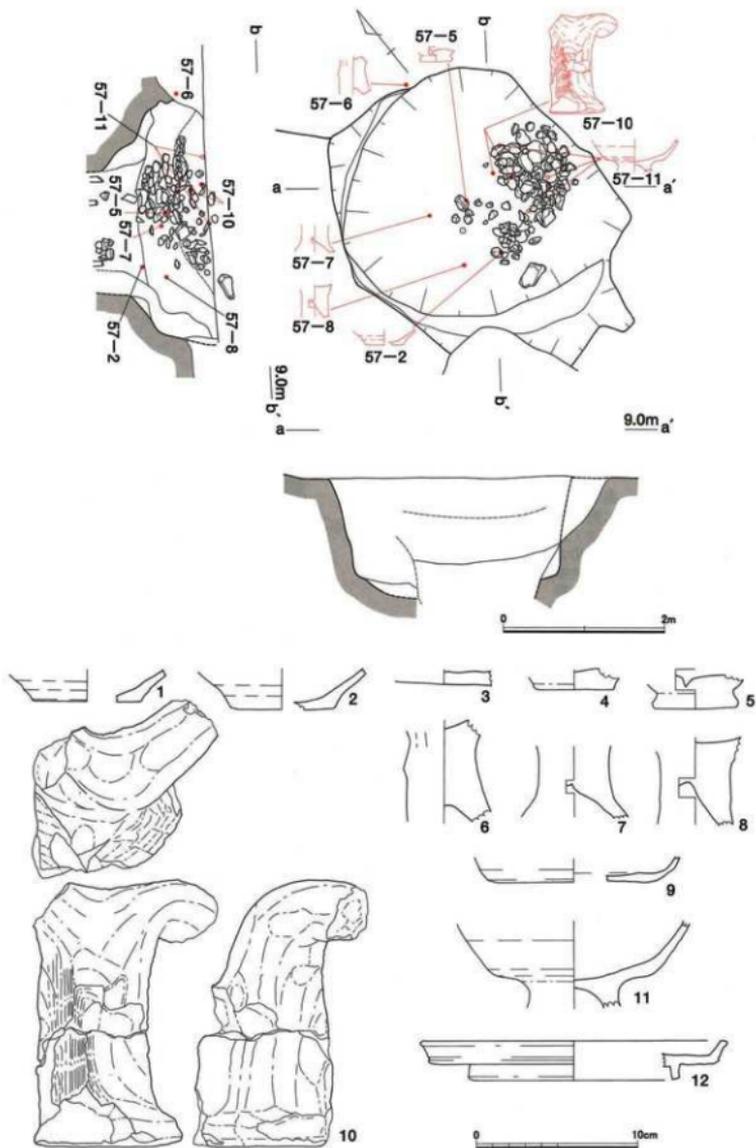
第54図 SX16遺構図 (S=1/60)



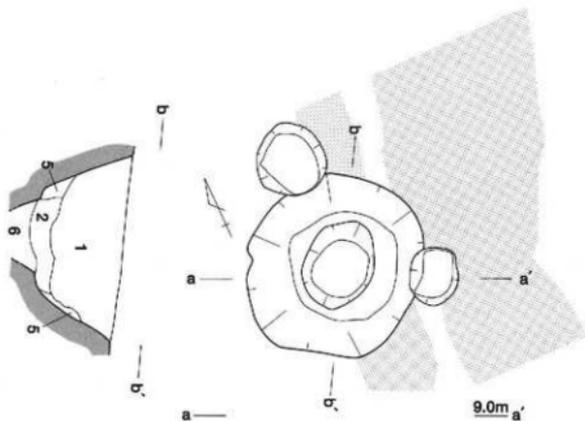
第55図 SX16遺物出土状況 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)



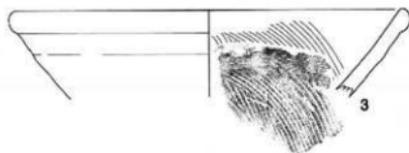
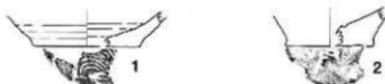
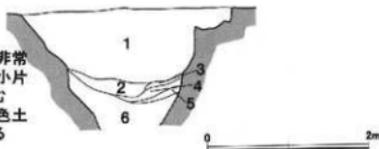
第56図 SX19遺構図 (S=1/60)



第57図 SX19遺物出土状況 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)



- 1 暗褐色土 黄色粘土塊含み非常に固く締まる、小片の炭・土器片含む
- 2 黒褐色砂礫土 粘質のある黒褐色土に中粒砂が混じる
- 3 黄色砂層 地山砂層
- 4 暗褐色砂質土 中粒砂含む
- 5 黄色砂礫層
- 6 淡褐色砂礫土 地山砂礫が斑状に入り、固く締まる



第58図 SK27遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)

## 6 節 土坑・ピット・その他の性格不明遺構

K区の調査では、建物跡や欄列の柱穴と考えられる土坑以外に、多くの性格不明の土坑や掘り込みを検出している。調査時には、直径1m前後の円形か楕円形の掘り込みをSK、不整形で柱穴の可能性の低い掘り込みをSX、直径50cm内外の小形の円形の掘り込みをP（ピット）と略号を用いた。調査の途中・完掘後に遺構の性格が判断できたものについては修正をしたが、性格付けの難しい遺構についてこの節にまとめて述べる。

詳細は第7表にまとめ、特記すべき遺構を取り上げ若干補足したい。

### SK07とSK08（第60図）

長軸3m前後の不整形円形の土坑である。SK08はSB01のピットによって後に壊され、全形は不明である。いずれも遺物が全く出土しておらず時期は不定であるが、S I 01で述べたSX01と規模・主軸方向・形態・埋土とも似ている。想定域を脱し得ないが集落域の端であることから墓である可能性も考えられよう。

### SK11（第62図）

1.8×1m深さ60cmの平面形小判形の素掘りの上坑である。床面は若干の傾斜を持ち平らである。弥生時代の遺構埋土に掘り込まれているため遺構は非常に軟弱であり、内部には軟質な黒褐色土が堆積していた。遺物は、中近世土師器杯・小皿、鉄釘1点が土坑内部から出土している。土器からこの遺構の年代は中世後半概ね13世紀後半から14世紀代であろう。

### SK19（第63図）

基盤層で検出した遺構で一部をSA01の柱穴に切られている。直径1.8mの浅い掘り鉢状の掘り込みのほぼ中央に直径40cm深さ40cmの小ピットがある二段掘りの上坑である。内部には軟質な暗褐色土が堆積していた。遺物は中央の小ピット直上に完形の土器が潰れた状態で2点（第63図1・3）と小片1点（同図2）が出土し、やや離れて遺構検出面で完形の土器1点（同図4）が出土した。小ピット検出面の直上40cmの暗褐色土包含層中で直径35cmの円形で厚さ3cmの焼上痕を検出していたため断面などを注意深く観察したが、直接SK19と一連の堆積である確証は得られなかった。SK19の時期は出土遺物から古墳時代中期と考えられる。

### SK41（第65図）

不整形な土坑で弥生時代大溝と重複して検出した。掘り込み内部から遺物は出土していないが、SD38上層（＝0層）で取り上げた土器の中に古墳時代後期の土器が集中しており、SK41か、あるいは検出できなかった何らかの遺構に伴ったと考えられる。

### P399～P404（第66図）

直径1m以下の掘り込みが集中して検出され、このうちP400の検出時に土器溜まりが出土した。この場所は、弥生時代大溝SD31や近世溝跡SD01と接し、後世の削平のためか基盤層が東側へと

低くなっていく場所であり、辛うじて遺構の底面が残存し検出できた。土器は、遺構検出面より浮いた状態で出土しており、多くは破片の状態で出土したが、須恵器蓋と坏はほぼ完形で出土した、須恵器・赤彩土師器・畿内系模倣土師器・在地の土師器、製塩土器がある。第66図1は壺類の蓋と考えられ、内面に「古」「子」「衣」の墨書と「𠄎」の焼成前のヘラ記号が認められる。これらの遺物から、時期は奈良時代末から平安時代、8世紀末から9世紀前半と考えられる。

#### S X 06 (第67図～第71図)

基盤層ではなく、暗褐色包含層中で検出した。遺構の掘り込み面は上層断面観察から現地表面下40cm付近から確認でき、幅50cm深さ約30cmのU字形の小規模な溝の内部に礫や土器を敷いたもので東西方向に約6m検出した。このような溝状遺構を2mの間隔を置いて平行に並んで2本検出している。他にこれに伴うような遺構は検出しておらず遺構の性格は判然としない。遺物は礫と同様に扱われたようで、石に混じって溝内から小片が多数出土している。時期幅が広く、まとまった最も新しい時期の遺物は中世後半期(14世紀後半)であることから遺構の所属時期はこの頃と考えられる。その他の遺物は、S X 06を掘削した際の削平土に混じていたものと思われる。土器溜まり下層はS X 06検出時にS X 06に伴わない包含層中の土器溜まりと当初認識し、取り上げたが、下層の状況から見てS D 21に伴っていたものであろう。

#### S X 12・18 (第74図)

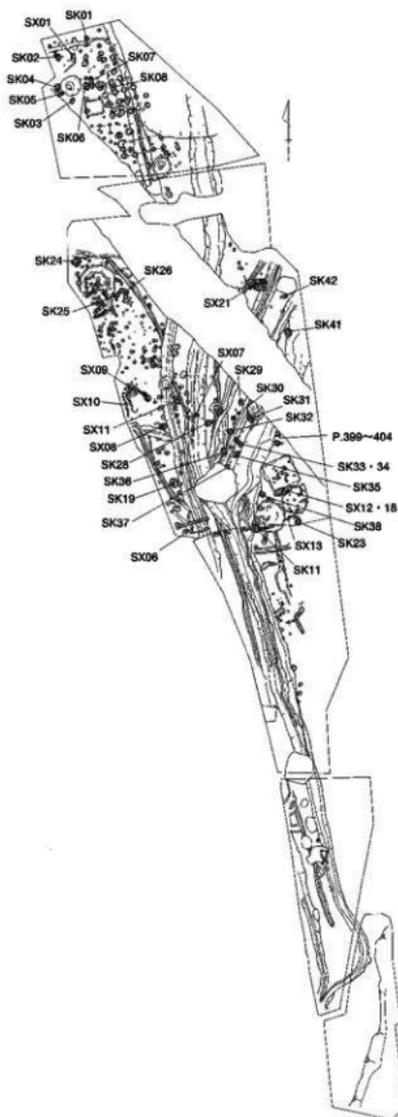
竪穴建物跡S I 08とS X 17とを一部壊して掘り込まれている性格の判然としない遺構である。床面はS I 08・S X 17より深く掘り込まれている。不整楕円形の土坑で、内部から土師器甕と須恵器・赤彩土師器片、土錘、鉄製火打金が出土した。須恵器は輪状つまみを持つ坏蓋で、外面に焼成前のヘラ記号が刻まれている。これらの遺物から、奈良時代末から平安時代8世紀後半以降9世紀代と考えられる。

#### S X 21 (第75図)

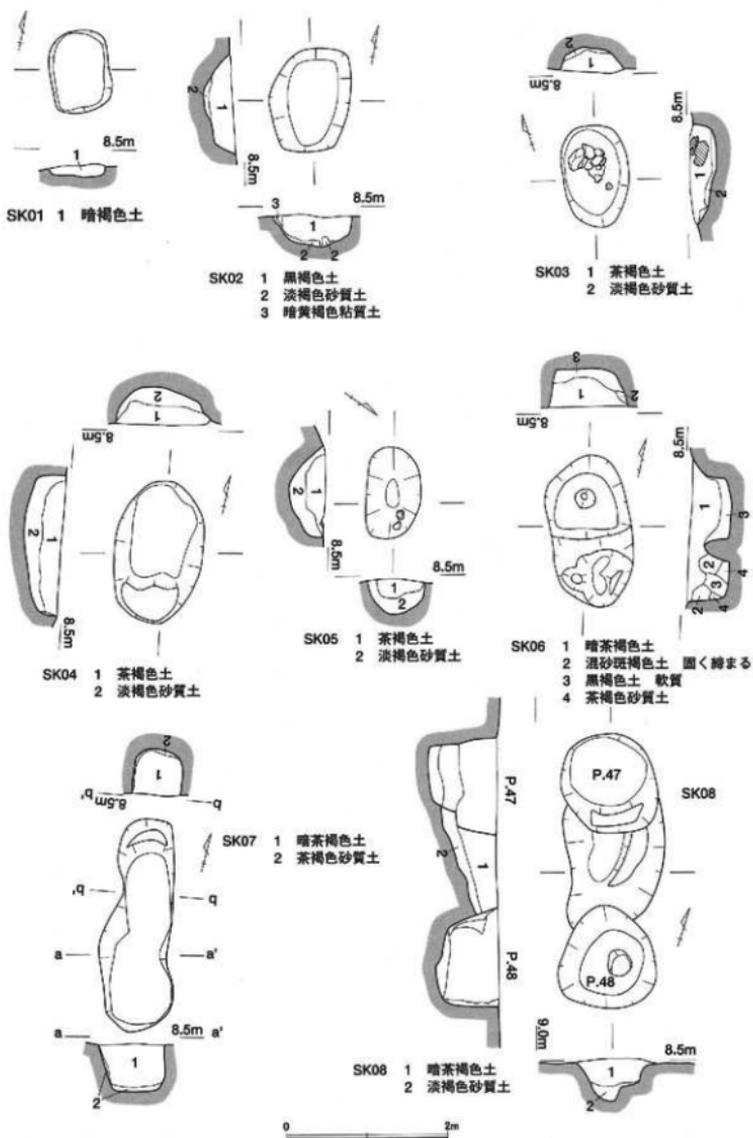
弥生時代後期前半の溝状遺構S D 41を切って掘り込まれている不整形な遺構である。長方形の二段掘りの土坑で、内部に長方形の掘り方が2個認められる。断面観察から南側土坑が埋められた後北側の小規模な土坑が掘り込まれ、両者の埋土の上面の土坑のほぼ中央で土器が出土している。土器は完形の鼓形器台が1個押し潰れた状態で、甕・高坏の小片が点在する状態で出土した。これらの状況から、時期は弥生時代終末期から古墳時代初頭で、遺構の性格は判然としないが遺構の形態と器台の出土位置・状況から墓である可能性が考えられる。

第7表 古志本郷遺跡K区検出土坑・ピット・その他の性格不明遺構一覧

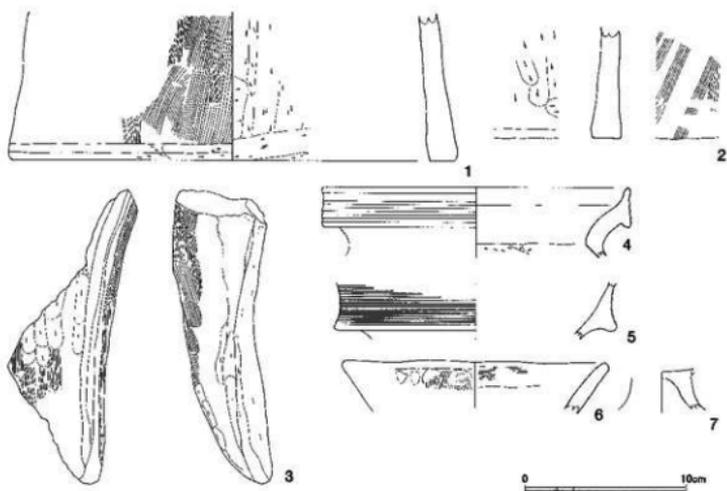
地区	区	遺構の時期	遺構の種類	遺構の特徴	主な遺物	シテラ	備考	
SK	1	近代以降	不明土坑	平面小方形	土師器、近代陶器	1以下		
	2	古墳前期-古代か	不明土坑	不整門形、S103の内縁取込か	土師器	1以下	S103の内縁十九か	
	3	古代	不明土坑	不整内形	土師器	1以下		
	4	古代か	不明土坑	不整内形	土師器、須恵器	1以下		
	5	古代	不明土坑	不整内形	土師器	1以下		
	6	古代	不明土坑	不整内形	土師器、須恵器	1以下		
	7	古代	不明土坑	不整長門形	土師器、須恵器	1以下		
	8	古代	不明土坑	不整長門形	土師器、須恵器	1以下		
	11	古墳	土坑	不整長門形	土師器、須恵器	1以下	S107、SD7との重複	
	12	古墳	土坑	不整長門形、土師器あり	土師器、須恵器	2	SK12と同じ	
	18	古墳	土坑	不整内形、土師器あり	土師器	1以下		
	19	古墳	土坑	不整内形、土師器あり	土師器	1以下		
	20	古代	不明土坑	門形	土師器、須恵器	1以下	S101の1つ、S104以上の遺物もこれか	
	21	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	22	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	23	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	24	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	25	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	26	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	27	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	28	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	29	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	30	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	31	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	32	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	33	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	34	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	35	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	36	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	37	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	38	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	39	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	40	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	41	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	42	古代	不明	不明	土師器、須恵器	2		
	SX	1	古墳時代前期後半-古代	不明	不整長門形	土師器	1以下	S101の跡跡面から取り込み
		6	古代	不明	内側に石を充填した溝状遺構	土師器、須恵器	2	
		7	古代	不明	不明	土師器	1以下	
		8	古代	不明	不明	土師器	1以下	
		12	古代	不明	不整長門形、土師器あり	土師器、須恵器、土打金	2	SK12と同じ
		13	古代	不明	不整長門形	土師器、須恵器	1以下	
		14	古代	不明	不明	土師器、須恵器	1以下	
15		古代	不明	不明	土師器、須恵器	1以下		
16		古代	不明	不明	土師器、須恵器	1以下		
17		古代	不明	不明	土師器、須恵器	1以下		
18		古代	不明	不明	土師器、須恵器	1以下		
19		古代	不明	不明	土師器、須恵器	1以下		
pit	300	古代	不整土坑	残い堀り込み上面に土師器あり	古代土師器、須恵器	1以下	ピット399から404は一度の土坑か	
	400	古代	不整土坑	残い堀り込み上面に土師器あり	古代土師器、須恵器	1以下	ピット399から405は一度の土坑か	
	401	古代	不整土坑	残い堀り込み上面に土師器あり	古代土師器、須恵器	1以下	ピット399から406は一度の土坑か	
	402	古代	不整土坑	残い堀り込み上面に土師器あり	古代土師器、須恵器	1以下	ピット399から407は一度の土坑か	
	403	古代	不整土坑	残い堀り込み上面に土師器あり	古代土師器、須恵器	1以下	ピット399から408は一度の土坑か	
	404	古代	不整土坑	残い堀り込み上面に土師器あり	古代土師器、須恵器	1以下	ピット399から409は一度の土坑か	
PT	1	古代	土師器あり	遺構不明	土師器、須恵器	2		
	2	古代	土師器あり	遺構不明	土師器、須恵器	4		
	3	古代	土師器あり	遺構不明	土師器	2		
	4	古代	土師器あり	遺構不明	土師器、須恵器	5	SD15上面の土師器か	



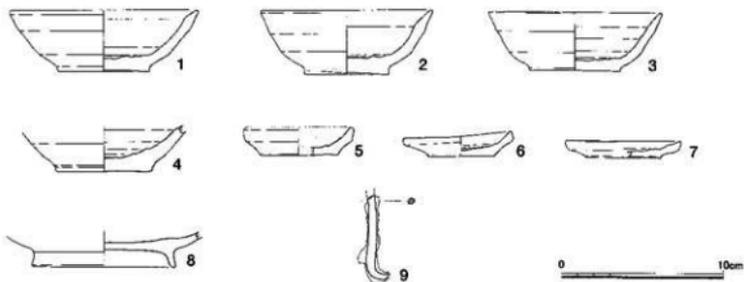
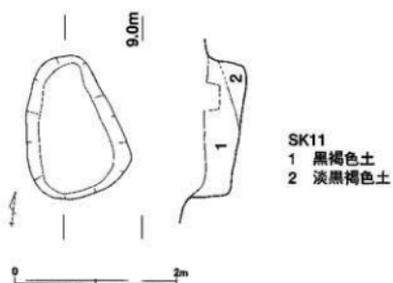
第59図 K区土坑・ピット・性格不明遺構・土器溜まり配置図 (S=1/1000)



第60図 SK01、02、03、04、05、06、07、08遺構図 (S=1/60)

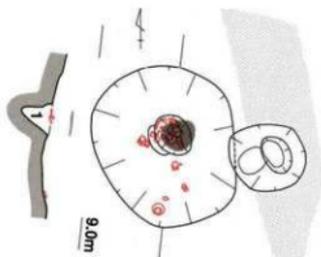


第61図 SK03、04、05出土遺物 (S=1/3)

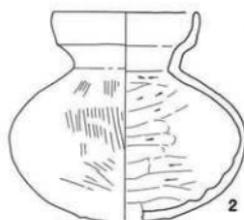
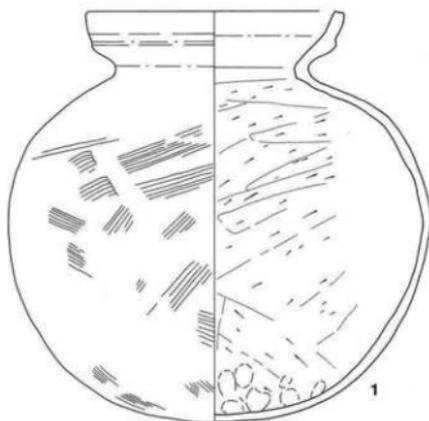


第62図 SK11遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)

SK19  
 1 暗褐色砂礫層  
 ※アミ部焼土痕

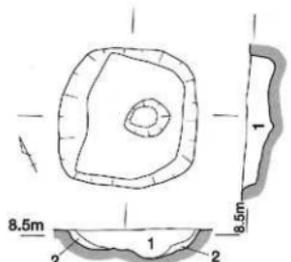
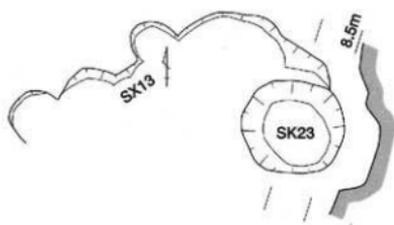


0 2m



0 10cm

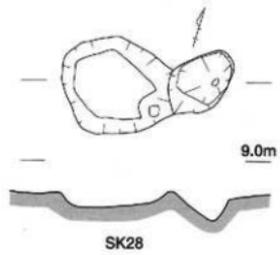
第63図 SK19遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)



SK24  
 1 黒褐色土 軟質  
 2 淡褐色砂礫土 軟質

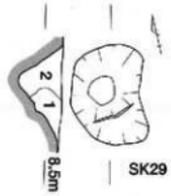


1 黒褐色粘質土

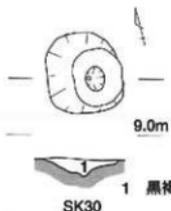


SK28

1 黒褐色粘質土  
 2 淡褐色砂礫土

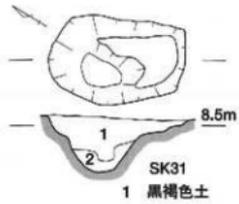


SK29



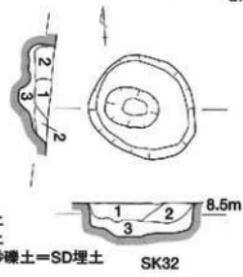
SK30

1 黒褐色粘質土



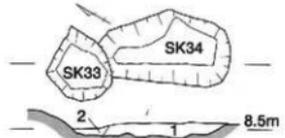
SK31

1 黒褐色土



SK32

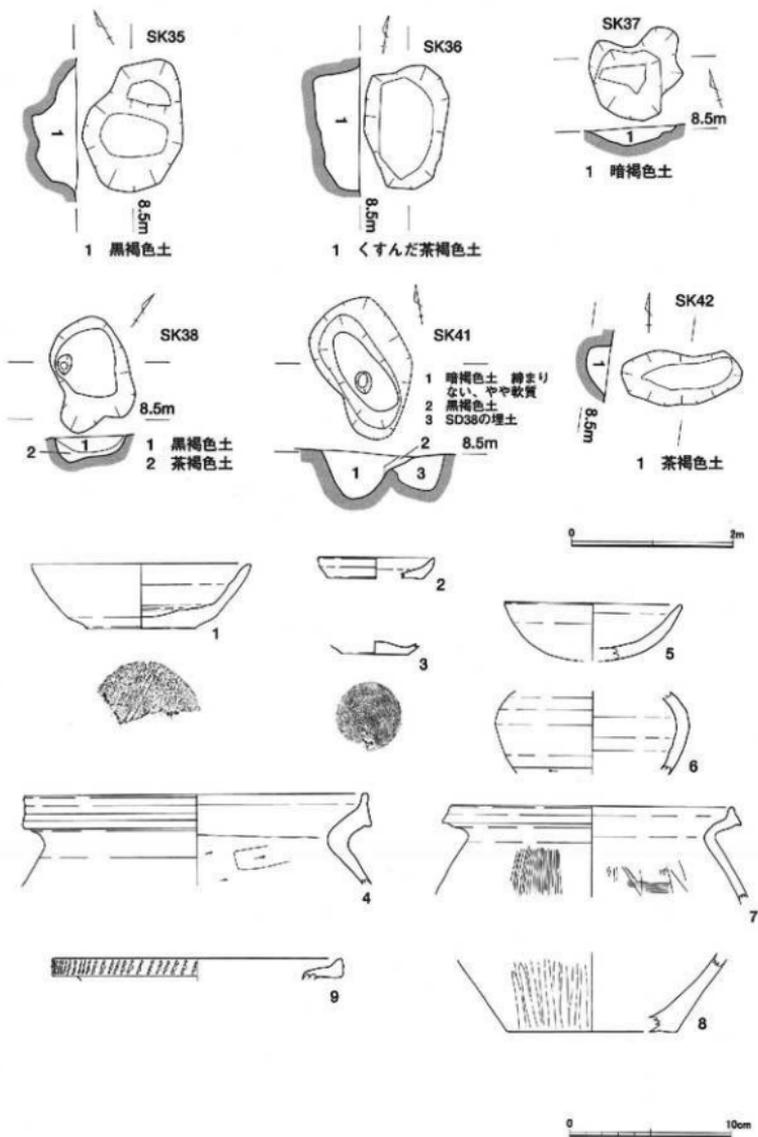
1 暗褐色土  
 2 黄褐色土  
 3 黄褐色砂礫土=SD埋土



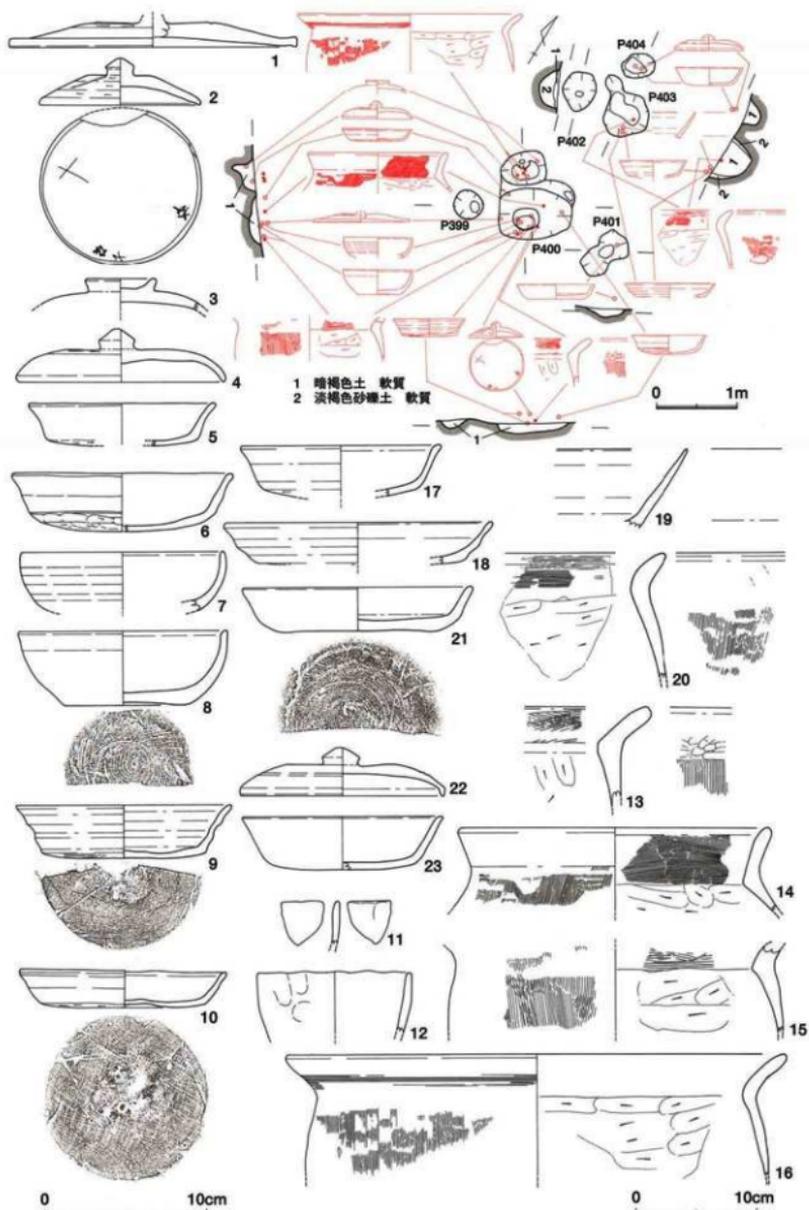
1 暗褐色土=SK34埋土  
 2 暗褐色土 やや軟質=SK33埋土



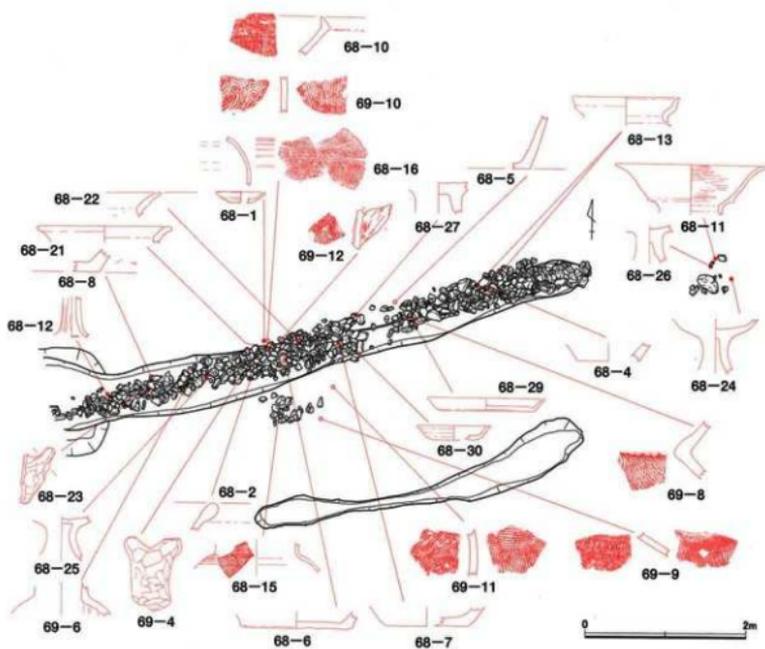
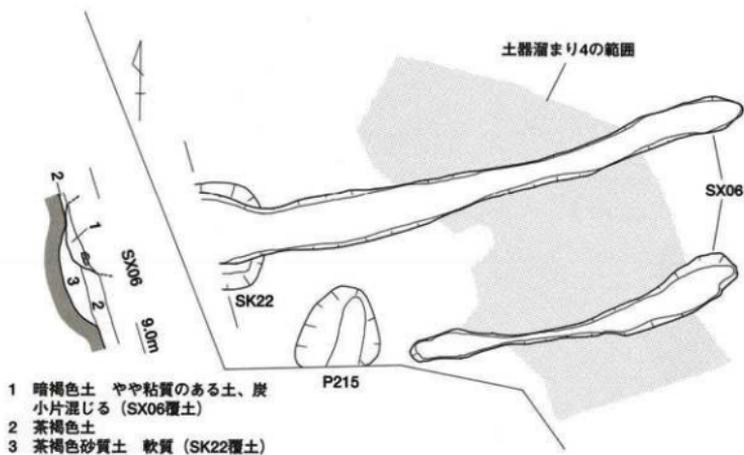
第64図 SK23、24、25、26、28、29、30、31、32、33、34遺構図 (S=1/60)



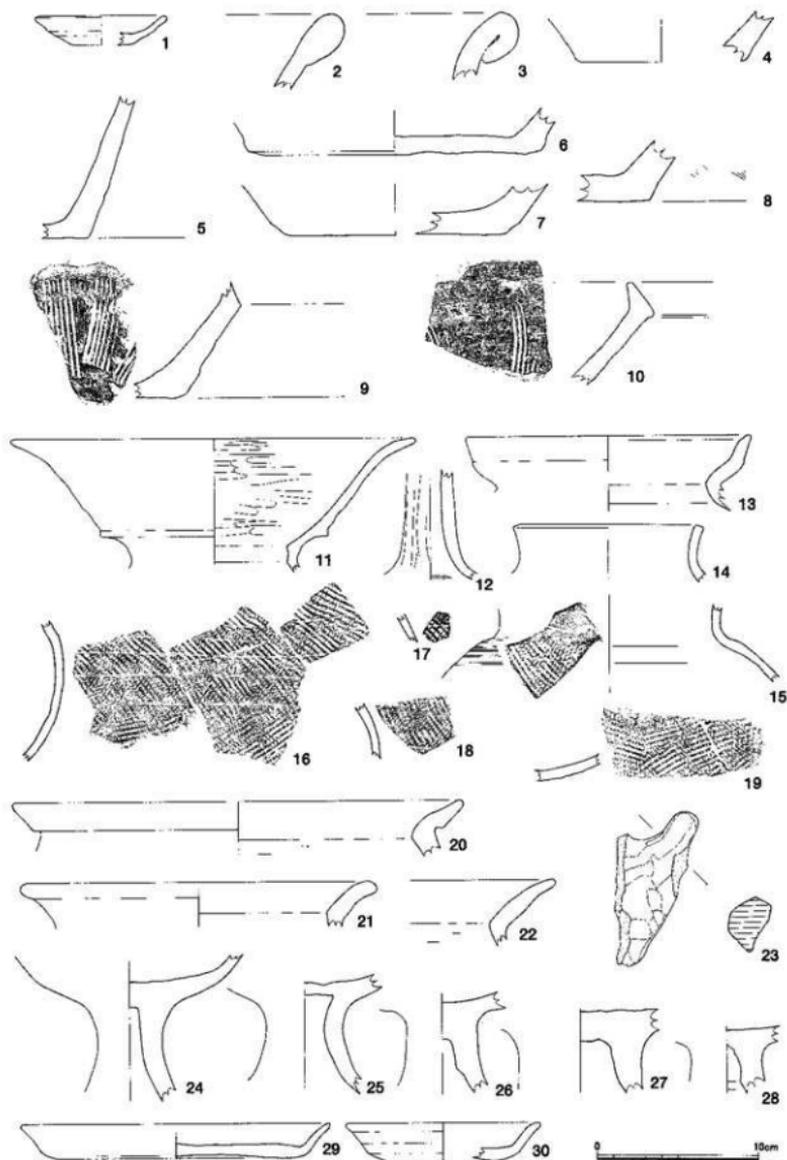
第65図 SK35、36、37、38、41、42遺構図 (S=1/60) およびSK23、25、29、36、38出土遺物 (S=1/3)



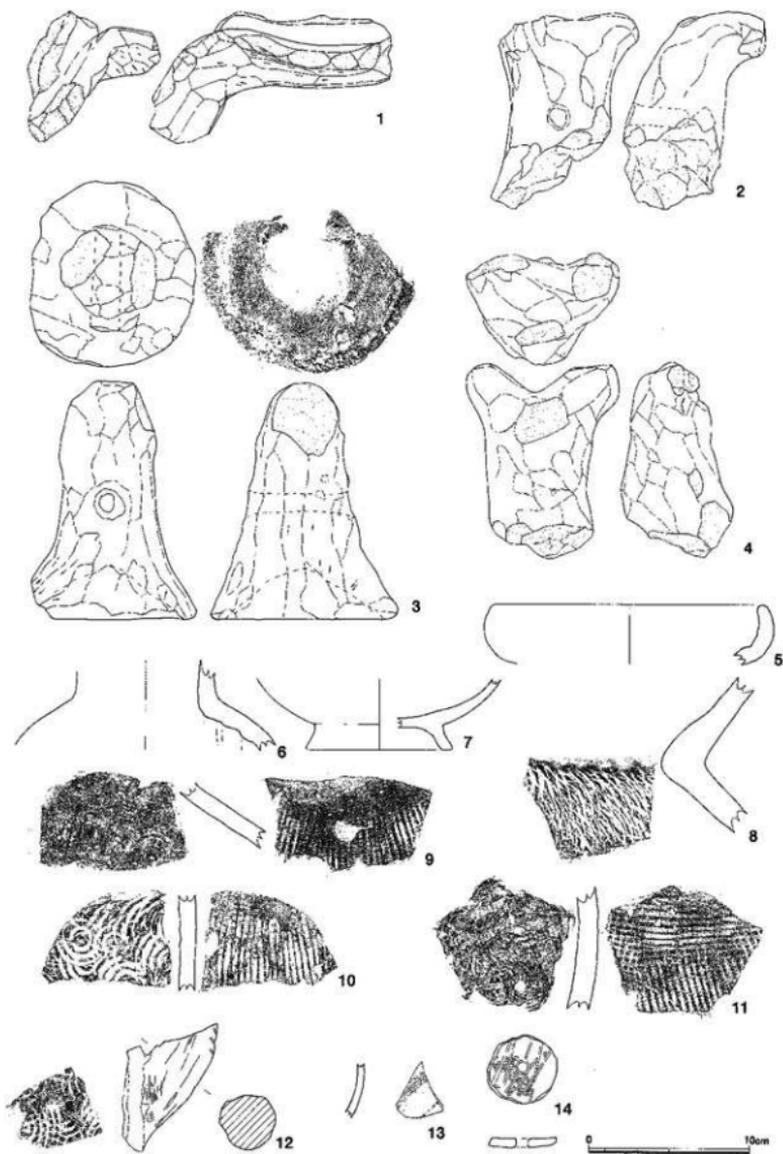
第66図 P339~404遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3 ただし13~16, 20は1/4)



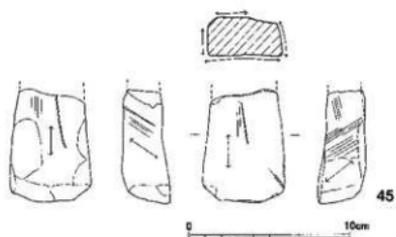
第67図 SX06遺構図および遺物出土状況 (S=1/60)



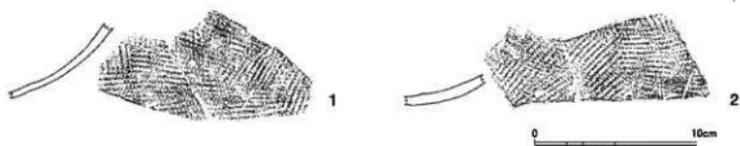
第68図 SX06出土遺物 1 (S=1/3)



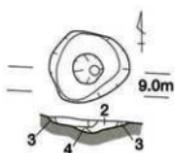
第69図 SX06出土遺物 2 (S=1/3)



第70図 SX06出土遺物3 (S=1/3)

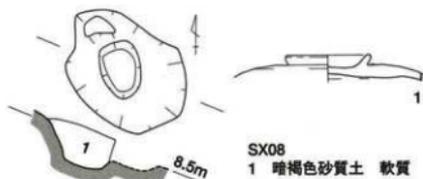


第71図 SX06下層土器溜まり (土器溜まり4) 出土遺物 (S=1/3)



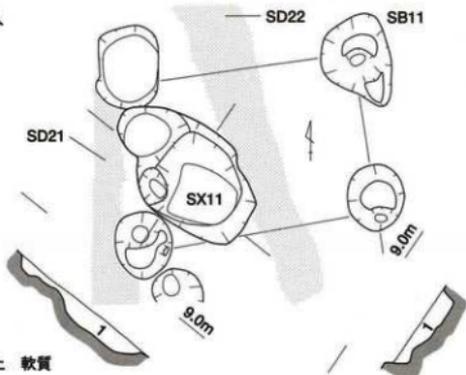
SX07

- 1 暗褐色土 軟質
- 2 黄橙斑粘質土 希に炭片混入
- 3 茶褐色土
- 4 黒褐色粘質土 炭小片混入



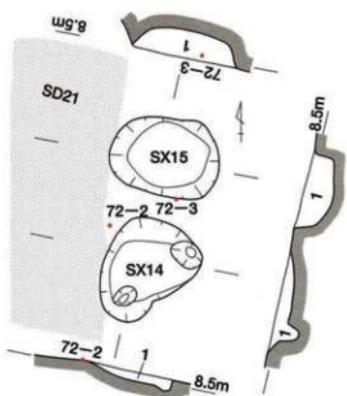
SX08

- 1 暗褐色砂質土 軟質

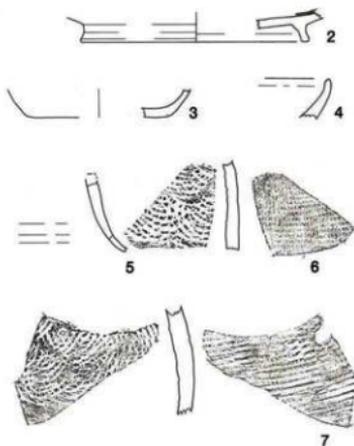


SX11

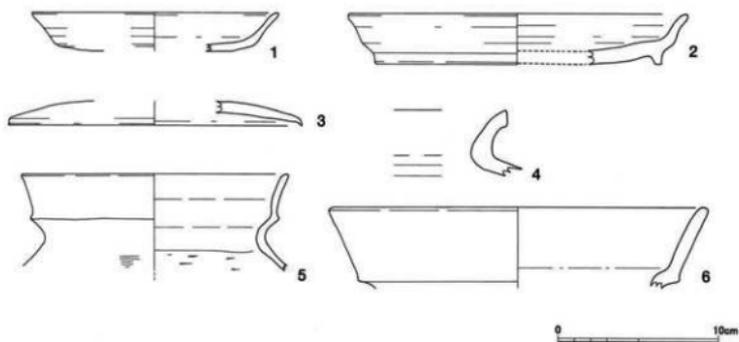
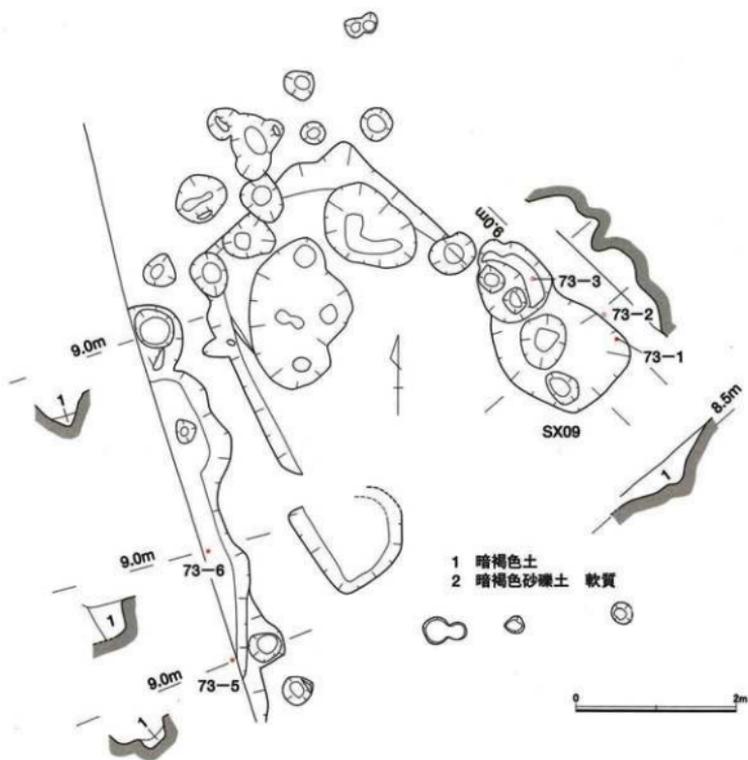
- 1 暗褐色砂質土 軟質



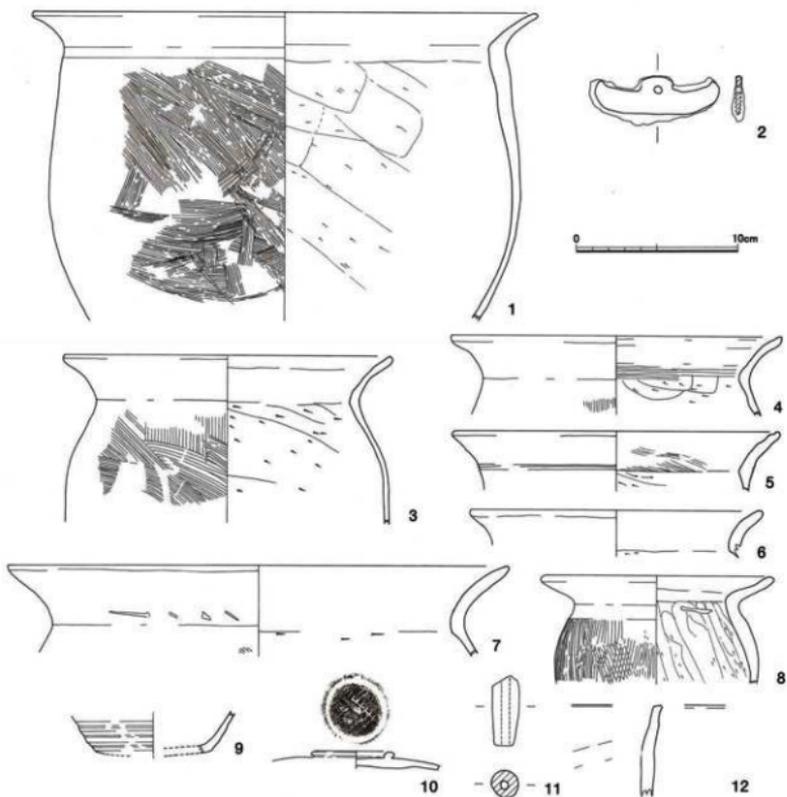
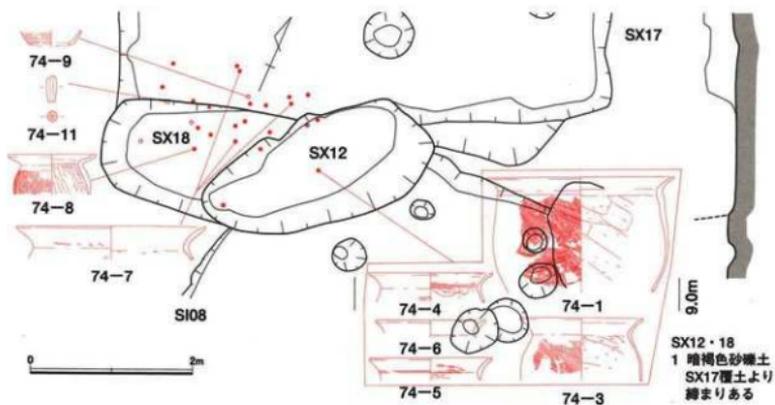
- 1 暗褐色砂質土 軟質



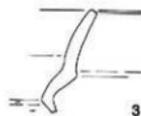
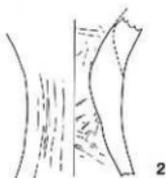
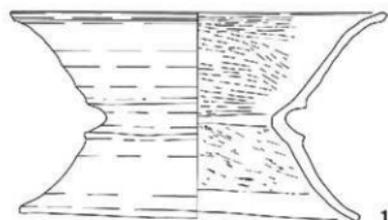
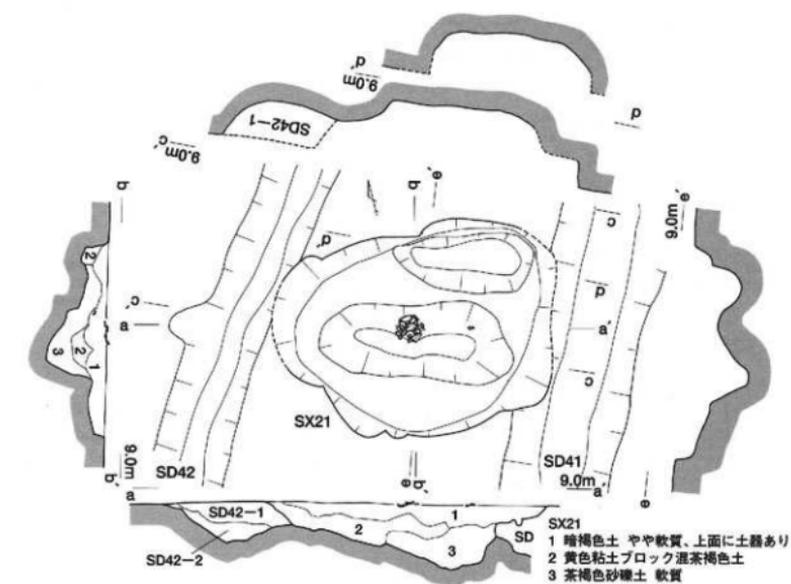
第72図 SX07、08、11、14、15遺構図 (S=1/60) およびSX08、14、15出土遺物 (S=1/3)



第73図 SX09、10遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)



第74図 SX12・18遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)



第75図 SX21遺構図 (S=1/60) および出土遺物 (S=1/3)

# 付 表

(第 1 分冊・遺物觀察表)

第8回～第10回 各名産出土遺物解説表

編年	740期	出土地点	PN	器 別	器 種	器 形	口徑	器 高	口徑	器 底	土 質	子 法	特 徴	動 態	文 様	備 考
8-1		K3E, T05		男生土器	壺	小片	—	—	—	—	赤土・ミダキ	外(口縁/肩/底) ケズリ	—	—	—	外周に磨片付
8-2		K3E, E14		式土器	不明	小片	—	—	—	—	ヨコナテ	ヨコナテ	—	—	—	—
8-3		T17		赤褐色砂土	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ	—	—	—	—
8-4		P143	W10	赤土器	壺	小片	(15.0)	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-5		P145	W10	赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-6		P145	W10	赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-7		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-8		P156	W10	赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-9		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-10		P156	W10	赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-11		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-12		P145	W10	赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-13		P145	W10	赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-14		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-15		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-16		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-17		P145	W10	赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-18		P145	W10	赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-19		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-20		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-21		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-22		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-23		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-24		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-25		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-26		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-27		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-28		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
8-29		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
9-1		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—
9-2		W10		赤土器	壺	小片	—	—	—	—	赤褐色	ヨコナテ/ハツタ	ヨコナテ/ケズリ	—	—	—



第13組 S03出土遺物調査表

遺物種別	出土地区	P No.	種別	形状	寸法	重量 (g)	色	土質	出土	手法の状況	形態の特徴	文様の特徴	備考
13-1	P141	K1	赤土土器	蓋	小片	—	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ/ハナヘ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
13-2	P144	—	赤土土器	蓋	小片	18.0	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
13-3	P141	—	赤土土器	蓋	小片	14.0	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
13-4	P144	—	赤土土器	蓋	小片	14.0	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
13-5	P141	—	赤土土器	蓋	1/2以下	16.4	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
13-6	P144	—	赤土土器	蓋(破)	1/2以下	13.0	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
13-7	P143	—	赤土土器	蓋	1/2以下	8.0	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
13-8	P140	S03	赤土土器	鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	外側に横付書

第17組一第16組 S07出土遺物調査表

遺物種別	出土地区	P No.	種別	形状	寸法	重量 (g)	色	土質	出土	手法の状況	形態の特徴	文様の特徴	備考
17-1	P144	17	赤土土器	蓋	1/2以下	14.2	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ/ハナヘ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-2	P143	18	赤土土器	蓋	1/2以下	—	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ/ハナヘ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-3	P145	19	赤土土器	蓋	1/2以下	20.4	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ/ハナヘ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-4	P144	20	赤土土器	蓋	小片	31.2	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-5	P141	21	赤土土器	蓋	1/2以下	16.9	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-6	P144	22	赤土土器	蓋	小片	11.0	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-7	P144	23	赤土土器	蓋	小片	12.3	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-8	P144	24	赤土土器	蓋	1/2以下	14.6	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-9	P144	25	赤土土器	蓋	小片	22.4	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-10	P144	26	赤土土器	蓋	1/2以下	21.4	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-11	P144	27	赤土土器	蓋	小片	21.6	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-12	P143	28	赤土土器	蓋	1/2以上	—	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-13	P144	29	赤土土器	蓋	小片	—	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-14	P144	30	赤土土器	蓋	小片	—	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-15	P144	31	赤土土器	蓋	1/2以下	—	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-16	P145	32	赤土土器	蓋	1/2以上	16.2	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-17	P144	33	赤土土器	蓋	小片	—	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-18	P144	34	赤土土器	蓋	1/2以上	19.4	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	
17-19	P145	35	赤土土器	蓋	1/2以上	14.6	赤褐色	外(口縁/肩/腹)	ヨコナガ	ヨコナガ/ハナヘ	口縁部: 手行線文 口縁部: 手行線文(3条)	外側に横付書	









第47回 SB10 - SA01出土遺物調査表

図号	写真図	出土地点	P.N.	種別	器種	器形	器底	器口	口径	高さ	容量	法	土	手摺の材質	形態の特徴	文様の特徴	備考
47-1	P151	2K	3661	須臾	土器	丸(山形)	小	小	52.0	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-2	P151	2K	4191	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-3	P151	2K	4099	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-4	P151	2K	4037	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-5	P151	2K	—	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-6	P151	2K	—	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-7	P151	2K	—	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-8	P151	2K	—	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-9	P151	2K	4033	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-10	P151	2K	—	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-11	P151	2K	4033	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-12	P151	2K	—	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
47-13	P151	2K	—	須臾	土器	丸(山形)	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—

第48回 SB11出土遺物調査表

図号	写真図	出土地点	P.N.	種別	器種	器形	器底	器口	口径	高さ	容量	法	土	手摺の材質	形態の特徴	文様の特徴	備考
48-1	P150	2K	6438	土器	土器	丸	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—
48-2	P150	2K	—	土器	土器	丸	小	小	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—	—

第49回 SB01出土遺物調査表

図号	写真図	出土地点	P.N.	種別	器種	器形	器底	器口	口径	高さ	容量	法	土	手摺の材質	形態の特徴	文様の特徴	備考
51-1	P151	2K	556	中世土器	小皿	丸	小	小	7.2	10.5	3.3	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-2	P151	2K	555	中世土器	小皿	丸	小	小	7.0	1.3	5.0	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-3	P151	2K	557	中世土器	小皿	丸	小	小	7.4	1.5	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-4	P151	2K	558	中世土器	小皿	丸	小	小	8.0	1.8	4.5	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-5	P151	2K	120	中世土器	小皿	丸	小	小	9.2	2.0	6.7	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-6	P151	2K	82	中世土器	小皿	丸	小	小	11.6	4.4	6.9	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-7	P151	2K	128	中世土器	小皿	丸	小	小	12.0	4.1	6.5	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-8	P151	2K	131	中世土器	小皿	丸	小	小	12.6	3.8	6.3	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-9	P151	2K	74	中世土器	小皿	丸	小	小	—	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-11	P151	2K	60	土器	土器	丸	小	小	11.2	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-12	P151	2K	80	中世土器	土器	丸	小	小	—	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-13	P151	2K	107	中世土器	土器	丸	小	小	—	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-14	P151	2K	100	中世土器	土器	丸	小	小	—	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-15	P151	2K	—	土器	土器	丸	小	小	—	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-16	P151	2K	132	土器	土器	丸	小	小	—	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—
51-17	P151	2K	106	土器	土器	丸	小	小	—	—	—	—	赤灰色	赤(山形/肩/頸)	陶磁ナガ/タナキ	—	—





## 第58図 SK27出土土器類群表

図号	器名	出土地点	P%	器種	器種	器種	口径	法量 (cm)	色	胎土	手法の特徴	形跡の特徴	文様の特徴	備考
58-1	PI.55	窪、1E、3E	—	中央部土師器	片	小片	—	(6.6)	内 黄褐色 外 灰褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
58-2	PI.55	2E	—	中央部土師器	片	小片	—	(3.4)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
58-3	PI.55	3E	—	中央部土師器	片	小片	(24.0)	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
58-4	PI.55	2E、1E	—	土師器	甕(口縁)	小片	(22.0)	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	

## 第61図 SK03・04・05出土土器類群表

図号	器名	出土地点	P%	器種	器種	器種	口径	法量 (cm)	色	胎土	手法の特徴	形跡の特徴	文様の特徴	備考
61-1	PI.55	SK03	2	土師器	甕	小片	—	(27.2)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
61-2	PI.55	SK04	101	土師器	甕	小片	—	(27.2)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
61-3	PI.55	SK04	106	土師器	甕	小片	—	(27.2)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
61-4	PI.55	SK05	171	中央部土師器	甕	小片	(18.6)	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
61-3	PI.55	SK06	174	中央部土師器	甕	小片	—	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
61-6	PI.55	SK05	175	土師器	甕(口縁)	小片	(15.8)	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	
61-7	PI.55	SK06	173	中央部土師器	甕(口縁)	小片	—	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	

## 第62図 SK11出土土器類群表

図号	器名	出土地点	P%	器種	器種	器種	口径	法量 (cm)	色	胎土	手法の特徴	形跡の特徴	文様の特徴	備考
62-1	PI.55	—	50.2	中央部土師器	片	小片	1/2以下	3.8	5.6	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
62-2	PI.55	—	—	中央部土師器	片	小片	1/2以下	(8.3)	4.9	5.2	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
62-3	PI.55	—	30.4	中央部土師器	片	小片	1/2以下	(10.0)	4.6	(3.6)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
62-4	PI.55	—	—	中央部土師器	片	小片	1/2以下	—	5.8	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
62-5	PI.55	—	—	中央部土師器	小皿	小片	1/2以下	(6.4)	1.8	(4.8)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
62-6	PI.55	—	50.5	中央部土師器	小皿	小片	1/2以下	(6.8)	2.1	4.9	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
62-7	PI.55	—	—	中央部土師器	小皿	小片	1/2以下	(7.2)	1.1	(4.6)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
62-8	PI.55	—	—	中央部土師器	片	小片	1/2以下	—	(4.8)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
62-9	PI.52	—	80.3	赤褐色土師器(群)	—	—	—	—	—	—	—	—	群は全編器類群表	

## 第63図 SK19出土土器類群表

図号	器名	出土地点	P%	器種	器種	器種	口径	法量 (cm)	色	胎土	手法の特徴	形跡の特徴	文様の特徴	備考
63-1	PI.56	D703	4196	土師器	甕	1/2以下	3.8	25.5	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
63-2	PI.56	D703-3	4197	土師器	甕	1/2以下	6.8	—	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
63-3	PI.56	D703	4198	土師器	甕(口縁)	小片	9.5	11.9	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
63-4	PI.56	D703	—	土師器	甕	小片	(11.2)	—	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—

## 第65図 SK29・36・38出土土器類群表

図号	器名	出土地点	P%	器種	器種	器種	口径	法量 (cm)	色	胎土	手法の特徴	形跡の特徴	文様の特徴	備考
65-1	PI.56	SK29	—	中央部土師器	片	1/2以下	(13.4)	4.0	—	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
65-2	PI.56	SK29	—	中央部土師器	小皿	小片	(7.2)	1.3	(6.0)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—
65-3	PI.55	SK23	—	中央部土師器	片	1/2以下	—	(4.9)	黄褐色	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	黄(口縁/肩/腹) 灰(胎土)	—	—	





品名	規格	数量	単位	仕入先	品名	数量	単位	仕入先	色	寸法 (mm)	重量 (kg)	備考
68-28	P158	1冊	—	西村	小片	—	—	—	—	—	—	小片面に着色 顔料あり
68-29	P157	1冊	—	須藤	小片	(19.0)	2.1	(16.0)	緑褐色	7.5×4.7/5	—	
68-30	P157	1冊	—	須藤	小片	(11.5)	2.4	(7.0)	紫褐色	—	—	
69-1	P157	1冊	—	土塚	1/2以下	—	—	—	紫白	10×8.6/2	—	
69-2	—	1冊	—	土塚	1/2以上	—	—	—	淡黄褐色	—	—	
69-3	P157	1冊	—	土塚	1/2以下	—	—	—	黄褐色	—	—	
69-4	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-5	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-6	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-7	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-8	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-9	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-10	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-11	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-12	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-13	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
69-14	P157	1冊	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	
70-1	P157	K155	—	土塚	小片	—	—	—	紫褐色	—	—	

第71号 SX06下層土源層より(土層深まり4)出土遺物調査表

品名	規格	数量	単位	仕入先	色	寸法 (mm)	重量 (kg)	備考
71-1	P157	E11, 046	—	三神堂土器	小片	—	—	—
71-2	P157	E11, 046	—	三神堂土器	小片	—	—	—

第72号 SX07・08・11・14・15出土遺物調査表

品名	規格	数量	単位	仕入先	色	寸法 (mm)	重量 (kg)	備考
72-1	P158	K25, SX08	—	田中	小片	—	—	—
72-2	P158	K25, SX14	5697	田中	小片	—	—	—
72-3	P158	SX1, SX15	5910	土塚	小片	—	—	—
72-4	P158	SX1, SX15	—	土塚	小片	—	—	—
72-5	P158	SX1, SX15	—	土塚	小片	—	—	—
72-6	P158	SX1, SX15	—	土塚	小片	—	—	—
72-7	—	SX1, SX15	—	土塚	小片	—	—	—



古志本郷遺跡K区出土金属器観察表

調査区	年度	出土遺物・土層・取り上げNo.(=PNo.)	種別	種別	類	遺物から見た時期	遺構・層位の時期
10-12	1999	包含層 D14 表土	金属器	銅鏡 (二枚鏡)		弥生	
10-13	PL143, 163	包含層 F12 0層 PNo.4892	金属器	鉄鏡		古墳後期	
10-14	PL162	包含層 E11 0層	金属器	鉄片か		古墳後期以降	
10-15	PL162	包含層 D14 0層 PNo.3746	金属器	鉄片か		古墳後期以降	
10-16	PL162, 163	包含層 B200黒褐色土	金属器	鉄刀子 (鹿角又は竹表)		古墳後期~古代	
12-3	PL160	S X101 PNo.158	金属器	鉄製鏡		古墳中・後期以降	
13-8	PL161	S I 03 PNo.61	金属器	不明鉄器 (針状)		弥生終末~古墳前期	弥生か
18-13	PL160	S X010 P 3 (=K 2 の S I 07)	金属器	不明鉄器 (針状)		弥生終末~古墳か	弥生後期
19-9	PL160	S I 08 P 378	金属器	不定形鉄片		弥生終末	弥生終末
27-6	PL160	S I 09 4区	金属器	不明鉄器		弥生終末	弥生終末
27-7	PL160	S I 09 4区	金属器	不定形鉄片 (楕円)		弥生終末	弥生終末
27-8	PL160	S I 09 1区	金属器	不定形鉄片		弥生終末	弥生終末
27-9	PL160	S I 09 4区	金属器	不明鉄器 (棒状)		弥生終末	弥生終末
34-1	PL163	S X17 PNo.7152	金属器	鉄製鏡		古墳前期後半以降	古墳前期
34-2		S X17 1区	金属器	不明鉄器 (棒状)		古墳前期	古墳前期
51-18	PL162	S E01 (1層か)	金属器	不明鉄器		中世以降か	中世
52-7	PL162	S E02 3層	金属器	不明鉄器		中世以降か	中世
55-9	PL162	S X16	金属器	不明鉄器		中世以降か	中世
55-10	PL162	S K16 PNo.6442	金属器	不明鉄器		中世以降	中世
62-9	PL162	S K11	金属器	不明鉄器 (針状)		中世以降か	中世
74-2	PL59	S X18 PNo.7116	金属器	鉄製火打金		古代	古代
116-4	PL160	S D03 3区 黒褐色土	金属器	不明鉄器 (棒状)		中世以降か	弥生終末
119-6	PL160	S D06 2層	金属器	不定形鉄片		弥生か	弥生終末
119-7	PL160	S D43	金属器	鉄鏡		古墳前期	古墳前期
152-9	PL161	S D07 G 8 図面あり	金属器	鉄製刀子		弥生終末~古墳前期	古墳前期
152-10	PL161	S D07 F10 No.445	金属器	不定形鉄片		弥生終末~古墳前期	古墳前期
152-11	PL161	S D07 F10 No.427	金属器	鉄鏡または不定形鉄片		弥生終末~古墳前期	古墳前期
152-12	PL161	S D07	金属器	鉄鏡		弥生終末	古墳前期
152-13	PL161	S D07 F10	金属器	鉄鏡		古墳前期	古墳前期
152-14	PL161	S D07 G 9 No.123	金属器	鉄鏡		弥生終末~古墳前期	古墳前期
152-15	PL161	S D07 F 9	金属器	鉄鏡		古墳前期	古墳前期
152-16	PL161	S D07 G 9 ②	金属器	鉄製鏡		弥生終末~古墳前期	古墳前期
152-17	PL161	S D07 F10 No.310	金属器	不明鉄器 (棒状)		中世以降か	古墳前期
152-18	PL161	S D07 G 7 No.53	金属器	鉄製長頭鏡		中世以降か	古墳前期
152-19	PL161	S D07 G 8 検出中	金属器	不明鉄器 (棒状)		中世以降か	古墳前期

152-20	PL161	K11	1999	S D07	F 10西側	金銅器	不定形鉄片 (棒状)	弥生終末~古墳前期か	古墳前期
152-21	PL161	K11	1999	S D07	F 9 G 9	金銅器	不明鉄器 (鈎状)	不明 (不定形の可能性あり)	古墳前期
152-22	PL161	K11	1999	S D07	F 10	金銅器	不明鉄器 (棒状)	不明 (不定形の可能性あり)	古墳前期
158-12	PL161	K3	1999	S D07	4区 1層	金銅器	不定形鉄片	弥生終末~古墳前期	古墳前期
158-13	PL161	K3	1999	S D07	1層 P.N.1743	金銅器	鉄製鏃	弥生終末~古墳前期	古墳前期
183-5	PL160	K2	2000	S D21		金銅器	不定形鉄片	弥生終末~古墳前期か	古墳前期
183-6	PL160	K2	2000	S D21 ~23	E12 1層	金銅器	不明鉄器 (棒状)	中世以降か	古墳前期
183-7	PL160	K2	2000	S D21	F12 P.N.4207	金銅器	不定形鉄片 (板状)	弥生から古墳か	古墳前期
204-6	PL160	K2	2000	S D23	E11北 1層 P.N.7977	金銅器	不明鉄器 (鈎状)	不明 (弥生末~古墳前の可能性あり)	古墳前期
204-7	PL160	K2	2000	S D23	サブトレ	金銅器	鉄製刀子	弥生終末~古墳前期	古墳前期
204-8	PL160	K2	2000	S D23	F13北	金銅器	不明鉄器 (鉄片)	中世以降	古墳前期
204-9	PL160	K2	2000	S D23	F14 1層 P.N.6992	金銅器	不明鉄器 (板状素材の可能性)	不明	古墳前期
223-7	PL161	K2	2000	S D31	G13上層	金銅器	鉄鏃か	不明 (不定形の可能性あり)	古墳前期
223-8	PL161	K2	2000	S D31	F12 上面	金銅器	鉄鏃	古墳前期	古墳前期
223-9	PL161	K2	2000	S D31	F13 3層 P.N.9550	金銅器	不定形鉄片 (棒状)	弥生	弥生後期前半
223-10	PL161	K2	2000	S D31	F12 1層 P.N.7689	金銅器	不定形鉄片	弥生	古墳前期
223-11	PL161	K2	2000	S D31	F12 3層 P.N.9552	金銅器	不明鉄器 (棒状素材の可能性)	不明	弥生後期前半
223-12	PL161	K2	2000	S D31	F11北 2層 P.N.9167	金銅器	不明鉄器 (棒状素材の可能性)	不明	古墳前期
223-13	PL161	K2	2000	S D31	F13 1層 P.N.7407	金銅器	鏃か	古墳後期以降	古墳前期
223-14	PL161	K2	2000	S D31	F13 4層	金銅器	不明鉄器 (棒状素材の可能性)	不明	弥生後期前半
223-15	PL161	K2	2000	S D31	F11北 1層 P.N.8459	金銅器	不明鉄器	中世以降か	古墳前期
223-16	PL161	K2	2000	S D31	E11北	金銅器	不明鉄器 (鈎針状)	中世以降か	古墳前期
223-17	PL161	K2	2000	S D31	F11北 1層	金銅器	不明鉄器 (棒状)	中世以降	古墳前期
242-27		K1	1999	S D01	3層	金銅器	鉄製鈎針か	中世以降か	近世
242-28		K1	1999	S D01	茶褐色砂質土	金銅器	鉄製鈎針か	中世以降か	近世
242-29	PL162	K1	1999	S D01	1層	金銅器	不明鉄器か	中世以降か	近世
242-30		K1	1999	S D01	1層	金銅器	不明鉄器か	中世以降か	近世
242-31	PL162	K1	1999	S D01	3層	金銅器	不明鉄器か	中世以降か	近世
242-32		K1	1999	S D01	3層	金銅器	不明鉄器か	中世以降か	近世
242-33	PL162	K1	1999	S D01	1層	金銅器	袋状鉄片	古墳後期~占代	近世

古志本郷遺跡K区出土石製品観察表

標頭番号	母体調査区	遺構	種別	種類	長さ(㎝)	幅(㎝)	高さ(㎝)	重量(g)	石	材	備考
10-1	K2	包含層(F12)	石器	磨製石斧(大型短刃)	13.25	5.4	3.85	432.13	蛇紋岩	(石見郡産出か)	
10-2	K2	包含層(G16)	石器	礫石	5.8	3.5	4.1	126.59	珉質砂岩		
10-3	K2	包含層(C17)	石器	礫石	8.2	5.1	2.8	164.55	礫灰岩		
10-4	K2	包含層	石製品	紡錘車形石製品	—	—	2.4	25.68	礫灰岩		
10-5	K2	包含層	石製品	紡錘車形石製品	4.3	4.5	2.3	36.04	礫灰岩		
10-6	K2	トレンチ10	石製品	紡錘車形石製品	—	—	2.5	12.22	礫灰岩		
18-12	PL45	S107	石器	礫石	12.2	3.7	3.7	132.25	流紋岩		
27-10	PL48	K2 S109	石器	礫石・磨石	11.5	9.8	6.0	981.18	安山岩		
34-3	PL50	K2 S X17	石器	礫石	6.4	4.2	3.9	133.46	流紋岩		
39-4	PL50	K2 S B02 P89	石製品	紡錘車形石製品	—	—	2.5	12.22	礫灰岩		
51-19	PL51	K1 S E01	石製品	磨石	7.8	5.1	0.9	54.91	珉質砂岩		
70-1	PL57	K2 S X06	石器	礫石	7.0	5.1	2.9	140.63	流紋岩		
110-1	PL66	K1 S D03	石器	礫石・磨石	7.5	10.1	4.7	511.90	花崗岩		
110-2	PL60	K1 S D03	石器	礫石	4.0	6.7	2.6	113.13	細粒花崗岩		
110-3	—	K1 S D03	石器	打製石鏃	2.0	0.8	0.3	1.21	安山岩		
115-16	PL66	K1 S D03	石器	礫石	18.1	9.5	9.0	1224.77	安山岩		
119-8	PL68	K1 S D06	石器	礫石	9.9	6.8	4.2	348.41	礫灰岩		
135-5	—	K11 S D07	石器	礫石・磨石	8.4	5.7	1.5	103.80	安山岩		
152-24	—	K11 S D07	石器	石楯	12.2	5.3	1.0	81.36	安山岩		
152-25	—	K2 S D07	石器	石包丁	8.4	12.7	2.35	315.52	安山岩		
152-26	—	K11 S D07	石器	石包丁	13.7	5.6	1.1	109.16	流紋岩		
153-1	—	K11 S D07	石器	右皿楯石器	12.7	8.3	2.5	314.88	安山岩	(風化してよくわからない)	
153-2	—	K11 S D07	石器	右皿楯石器または礫石	13.8	11.9	5.5	690.57	デイサイト		
153-3	—	K11 S D07	石器	礫石	12.5	10.2	2.9	448.64	珉質砂岩		
153-4	—	K11 S D07	石器	礫石・磨石	6.8	4.1	2.2	109.00	デイサイト		
158-14	—	K3 S D07	石器	打製石鏃	2.1	1.5	0.4	1.02	安山岩	(サスカイトか)	
158-15	PL102	K3 S D07	石器	打製石鏃	10.8	8.2	2.7	328.16	安山岩		
158-16	PL102	K3 S D07	石器	礫石・磨石	8.7	7.6	6.3	554.39	安山岩		
158-17	PL102	K3 S D07	石器	右包丁楯石	10.5	10.65	2.3	330.28	デイサイト		
161-1	PL103	K11 S D10	石器	右包丁楯石	7.25	10.35	2.2	227.95	安山岩	※黒雲母が多い	
161-2	PL103	K11 S D07	打製石器	石鏃か	13.1	8.5	2.1	403.82	流紋岩		
161-3	PL103	K11 S D10	石器	礫石	7.9	6.9	4.0	289.81	珉質砂岩		
164-14	PL119	K3 S D12	石器	磨製石斧(大型短刃)	13.5	5.3	3.3	445.32	蛇紋岩	※風	
164-15	—	K3 S D12	石器	右皿または礫石	12.9	9.5	4.4	369.37	デイサイト	※三瓶の石	
170-12	PL109	E12 S D21-23	玉器	碧玉	3.2	1.45	1.3	6.56	碧玉		磨り切り溝あり
170-13	PL109	K2 S D21	石器	礫石	14.7	9.3	2.7	405.92	流紋岩		

183-1	PL119 K2	S D21	石磨	磨石・磨石	9.8	13.0	7.8	1324.69	安山岩
183-2	PL119 K2	S D21	石磨	磨石	8.6	7.4	4.1	328.94	珉質砂岩
183-3	PL119 K2	S D21	石磨	磨製石磨	1.9	2.1	0.2	1.04	流紋岩
183-4	PL119 K2	S D21	石磨	石皿・磨石	20.2	22.5	4.0	2900.00	安山岩
204-1	PL130 K2	S D23	石磨	石管 (人型蛤列)	13.5	5.1	3.6	443.01	鮎紋岩 (片岩か) ※石見郡
204-2	PL130 K2	S D23	石磨	磨石・磨石	11.1	9.5	4.1	699.70	デイサイト
204-3	PL130 K2	S D23	石磨	打製石磨	1.9	1.1	0.3	0.47	安山岩 (サヌカイト)
204-4	PL130 K2	S D23	石磨	磨石	8.1	3.8	2.7	124.84	流紋岩
204-5	PL130 K2	S D23	石磨	石皿か	10.8	8.2	2.5	312.42	安山岩
225-1	PL142 K2	S D31	石磨	打製石磨	2.1	1.6	0.4	1.00	安山岩 (サヌカイト)
225-2	— K2	S D31	石磨	打製石磨	2.7	1.8	0.3	0.86	安山岩 (サヌカイト)
225-3	PL142 K2	S D31	石磨	磨製石磨 (大型蛤列)	5.1	4.5	4.0	113.81	鮎紋岩
225-4	PL142 K2	S D31	石磨	石磨	7.2	5.8	5.1	225.78	デイサイト
225-5	PL142 K2	S D31	石磨	磨石・磨石	10.1	5.2	4.1	343.27	安山岩 (〜デイサイト)
225-6	PL142 K2	S D31	石磨	磨石・磨石	10.9	4.2	1.9	158.60	安山岩質頁入岩
225-7	PL142 K2	S D31	石磨	磨石・磨石	20.5	9.0	3.8	1163.02	デイサイト (〜流紋岩)
225-8	PL142 K2	S D31	石磨	磨石・磨石	11.5	10.2	4.5	797.93	安山岩
225-9	PL142 K2	S D31	石磨	磨石・磨石	17.3	11.5	6.4	1911.50	安山岩
226-1	PL142 K2	S D31	石磨	磨石	11.5	13.5	4.2	892.86	珉質砂岩
226-2	PL142 K2	S D31	石磨	磨石	11.5	8.0	2.5	499.12	凝灰岩
226-3	PL142 K2	S D31	石磨	磨石	11.6	11.0	4.5	636.85	珉質砂岩
226-4	PL142 K2	S D31	石磨	磨石	5.2	4.5	2.4	77.32	凝灰岩
226-5	PL142 K2	S D31	石磨	石皿・磨石	10.3	10.1	5.7	392.96	デイサイト (〜流紋岩)
226-6	PL142 K2	S D31	石磨	石皿・磨石	6.5	4.5	1.8	79.14	凝灰岩
229-16	— K2	S D36	玉類	青玉系製品	2.5	1.4	1.35	6.44	碧玉
238-16	PL152 K2	S D38	石磨	磨石・磨石	8.5	7.6	4.3	391.67	デイサイト
238-17	PL152 K2	S D38	石磨	石磨 (扁平片列)	4.9	4.6	1.0	45.18	玄武岩
238-18	PL152 K2	S D38	石磨	石皿	8.75	12.7	1.4	230.18	流紋岩
238-19	PL152 K2	S D38	石磨	磨石	19.7	5.0	3.6	611.38	安山岩
238-20	PL152 K2	S D38	石磨	磨石	14.3	8.9	5.1	554.22	珉質砂岩
238-21	PL152 K2	S D38	石磨	磨石・磨石	6.4	4.9	2.9	94.22	凝灰岩
239-1	PL152 K2	S D38	石磨	石皿	14.6	5.9	4.5	581.64	花崗岩
239-2	PL152 K2	S D38	石磨	石皿	26.15	22.0	9.75	9213.00	安山岩
249-11	PL155 K2	S D27	石磨	石皿・磨石	23.4	26.8	12.8	10820.00	安山岩
253-17	PL159 K2	S D30	石磨	磨石	9.3	7.3	2.3	191.68	流紋岩
253-25	PL159 K2	S D39	石磨	磨石・磨石か	5.3	4.1	3.4	76.15	安山岩
255-27	PL156 K2	S D29-30	石磨	磨石	5.5	4.0	2.1	74.49	流紋岩
255-27	PL156 K2	S D29-30	石磨	磨石	4.6	5.9	2.1	52.77	凝灰岩

古志本郷遺跡K区出土土製品観察表

編年番号	号	種類	遺構名	通構名	種類	類	透光度	長さ・幅・厚さ (cm)	法	量	形態・手法・文様の特徴	備	考
51-17	PL51 K1	SE01	PNo.132		土製品	土壺	7.1			径2.6~1.9 孔径1.0	48.9		
51-16	PL51 K1	SE01	1層PNo.106		土製品	不明	3.0			径0.5	1.3		
52-13	PL53 K1	SE02	2区1層		土製品	土壺	1/2以下	長さ不明 (現存3.3)		径1.3~0.8 孔径0.5	5.2		土器の発露の高麗か
52-10	PL53 K1	SE02	2区1層		土製品	土壺	密状	長さ 5.1		径1.4~1.1 孔径0.5	9.9		
52-15	PL53 K1	SE02	3区1層		土製品	土壺	密状	長さ 4.0		径1.9~1.4 孔径0.9	17.0		
52-16	PL53 K1	SE02	ベルト		土製品	土壺	密状	1/2以下	長さ不明 (現存4.1)	径2.2~1.3 孔径1.1	14.4		
52-16	PL53 K1	SE02	ベルト		土製品	土壺	密状	長さ 5.5		径1.8~1.1 孔径0.6	18.2		
52-16	PL53 K1	SE02	ベルト		土製品	土壺	密状	長さ 4.3		径1.1~0.9 孔径0.5	5.1		
69-14	PL57 K2	SX06	PNo.3639		土製品	有孔土壺	密状	長さ 4.3 厚さ 1.1		径1.2~1.2 孔径0.5	9.6		(土器調整面)
72-11	PL57 K2	SX18	PNo.7115		土製品	土壺	密状	1/2以下	長さ不明 (現存7.3)	径2.5~2.1 孔径0.8~0.9	55.1		
152-1	PL57 K1	SU07	F10		土製品	土壺	密状	長さ 7.8		径2.4~2.2 孔径0.8	41.3		ナデか
152-2	PL57 K2	SU07	F10		土製品	土壺	密状	1/2以下	長さ不明 (現存3.4)	径2.3~2.1 孔径0.8	29.1		ナデか
152-3	PL57 K2	SU07	田原池PNo.9850		土製品	土壺	密状	1/2以下	長さ不明 (現存4.5)	径3.3~2.1 孔径0.7	18.5		ナデ 折頭任候
152-4	PL57 K2	SU07	G8		土製品	土壺	密状	長さ 0.6		径5.4 孔径0.6	10.2		ナデか
152-5	PL57 K2	SU07	6.5インサートレ		土製品	有孔土壺	密状	長さ 0.8		径3.4 孔径0.6	7.8		ナデ
152-6	PL57 K2	SU07	G.6		土製品	有孔土壺	密状	長さ 0.8			27.5		焼成後にあけた穴あり
152-7	PL57 K2	SU07	6区4層3層		土製品	不明	1/2以下	長さ不明 (現存7.3)		径3.2 孔径0.4	4.9		外ハナメ 内 不定方向ナデ
152-8	PL57 K2	G.8			土製品	有孔土壺	密状	長さ 1.5		径2.6~1.5 孔径0.9	46.1		ナデ
158-11	PL101 K3	SU07	3区1層		土製品	有孔土壺	密状	長さ 0.5		径1.6	7.7		ナデ
203-15	—	K2	SD23	E13	1~2層	土製品	土壺	長さ 7.0		径2.3	3.6		ナデ
222-10	PL142 K2	SD31	E12	3層	土製品	不明	密状	長さ 0.8		径30.5	30.5		縦穴不明な高麗土器(ミナボ)
222-11	PL142 K2	SD31	F12	1層	土製品	不明	土壺状	長さ 1.1		径31.7	31.7		3ヶ方孔あり
222-12	PL142 K2	SD31	F12	1層	土製品	不明	土壺状	長さ 0.8		径19~0.8 孔径0.5	8.9		2ヶ方孔あり
222-13	PL142 K2	SD31	F12	1層	土製品	不明	土壺状	長さ 1.4		径1.9~1.0 孔径0.8	8.2		ナデ
242-18	PL153 K1	SU01			土製品	土壺	密状	長さ 6.3		径1.9~0.7 孔径0.5	3.8		ナデ
242-19	PL153 K1	SU01			土製品	土壺	密状	長さ 3.1		径1.3~0.8 孔径0.5	4.4		ナデ
242-20	PL153 K1	SU01	2層		土製品	土壺	密状	長さ 3.0		径1.8~1.3 孔径0.7	14.3		ナデ
242-21	PL153 K1	SU01	2層		土製品	土壺	密状	長さ 3.2		径1.8~1.6 孔径0.9	6.5		ナデ
242-22	PL153 K1	SU01	ベルト		土製品	土壺	密状	長さ 5.5		径1.8~1.3 孔径0.8	4.5		ナデ
242-23	PL153 K1	SU01	1層		土製品	土壺	密状	長さ 5.0		径1.6~1.2 孔径0.6	4.3		ナデ
242-24	PL153 K1	SU01	2層	C19	土製品	土壺	密状	長さ 3.5		径1.9~1.0 孔径0.8	8.2		ナデ
242-25	PL153 K1	SU01	4層		土製品	土壺	密状	長さ 3.1		径1.9~1.0 孔径0.8	8.2		ナデ
242-26	PL153 K1	SU01	2層		土製品	土壺	密状	長さ 3.2		径1.9~1.0 孔径0.8	8.2		ナデ
251-10	PL155 K2	SD42	0層		土製品	土壺	密状	長さ 3.2 (上5.3) 厚さ 2.9		径1.0	79.7		赤形あり

古志本郷遺跡K区出土土製品観察表

編年番号	号	種類	遺構名	通構名	種類	備	考
10-17	—	K1	北野区		宮木通立		土瓦
52-11	PL53 K1	SE03			古瓦	宮木通立	中国宋明
55-11	PL54 K2	SX16	PNo.6462		古瓦	宮木通立	中国宋明

※ 編年調査遺物は本文編第2分冊第6章1節に付表あり

※ 2輪系土器は本文編第2分冊第6章4節に付表あり

## 報告書抄録

フリガナ	コシホンゴウイセキ6							
書名	古志本郷遺跡Ⅵ							
副書名	K区の調査							
巻次								
シリーズ名	斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	ⅩⅦ							
執筆者	守岡利栄、大澤正己、平尾良光、鈴木浩子、渡辺正巳、平石 充							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 Ⅱ 0852-36-8608 E-mail:maibun@pref.shimane.jp							
発行年月日	西暦2003年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
コシホンゴウ 古志本郷	シマネケン 島根県 イズモシ 出雲市 コシチョウ 古志町	市町村	遺跡番号					
		33203	W1	35度 20分 20秒	135度 44分 51秒	19990417 ～ 20001031	6,185㎡	斐伊川放水路建設
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
古志本郷	集落	弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 井戸跡 柵 溝状遺構 人溝状遺構 その他の土坑など	弥生土器 土師器 須恵器 中近世土師器 陶磁器 鉄製品 土製品 石器 鍛冶関連遺物 古銭 二輪系土器		大溝状遺構から多量の土器出土。漢式三稜鏃出土。古墳時代前期の鍛冶関連遺物出土。		

※日本測地系による

斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書XⅧ

## 古志本郷遺跡Ⅵ

— K区の調査 —

(本文編・第1分冊)

---

発行 2003年3月

編集 島根県埋蔵文化財調査センター  
島根県松江市打出町33番地

印刷 徳谷口印刷